

海 津 市
障がい者計画策定のためのアンケート調査
調査結果報告書

令和3年 12 月
海津市

目次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	2
2 調査の実施概要.....	2
3 報告書の見方.....	3
II 障がい者調査結果.....	5
1 あなた(宛名の方)について、基本的なことをおうかがいします。.....	6
2 あなたの生活のことについて、おうかがいします。.....	16
3 介助の状況について、おうかがいします。.....	55
4 保健・医療について、おうかがいします。.....	62
5 通園・通学について、おうかがいします。.....	66
6 仕事について、おうかがいします。.....	68
7 地域での生活について、おうかがいします。.....	86
III 一般調査結果.....	107
1 あなた自身のことについて、おうかがいします。.....	108
2 障がいのある方・障がい者施策に対する関心度について、おうかがいします。.....	110
3 障がいのある方の社会参加について、おうかがいします。.....	119
4 障がいのある方の就労・教育について、おうかがいします。.....	122
5 障がいに対する理解について、おうかがいします。.....	124
6 障がいのある方を取り巻く環境整備について、おうかがいします。.....	126

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第4期海津市障がい者計画」の策定のための基礎資料として活用することを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

■調査の方法

区分	障がい者	一般市民
調査地域	海津市内全域	海津市内全域
調査対象	障がい者（身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの市民）	一般市民（18歳以上の市民）
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年10月18日～ 令和3年10月29日	令和3年10月18日～ 令和3年10月29日

■回収結果

調査対象者	配付数	有効回収数	有効回収率
障がい者	1,300	621	47.8%
一般市民	700	300	42.9%

3 報告書の見方

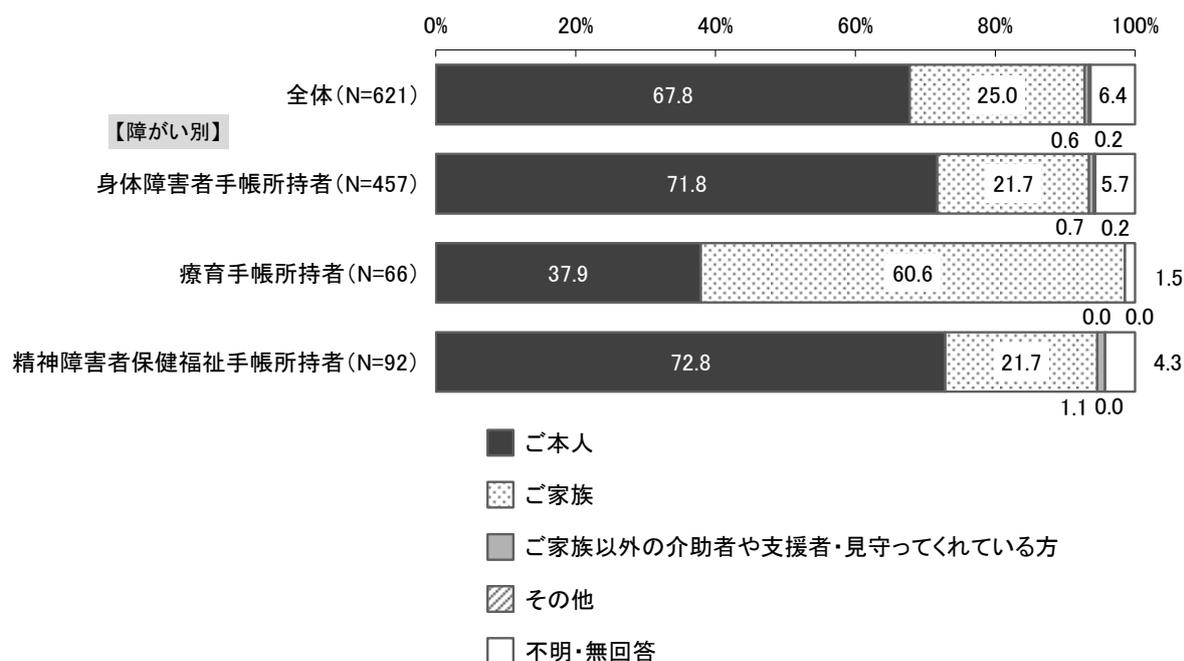
- 図表中の「N 数 (Number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけに○をつけるもの）であっても合計が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢からの設問の場合（いくつでも○をつけるものなど））は「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- クロス集計表の表側（左端の分類層）は「不明・無回答」を除いているため、各層の実数と集計対象の総数が一致しないことがあります。
- 本文中の分析文やグラフ・表中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外のクロス集計の表は、「不明・無回答」「その他」を除いて高い割合の第 1 位と第 2 位のものに網掛けをしています。（第 1 位：**濃い網掛けに白数字**、第 2 位：**薄い網掛けに黒数字**）ただし、N 数が 1 桁のものは順位付けを省略し、読み取り文の対象外としています。
- グラフにおいては、一般市民調査の結果は「一般」と表記しています。
- 図表中の「全体」はこのたび実施した調査を、「平成 28 年度調査」は「第 3 期海津市障がい者計画」策定時に実施した調査をそれぞれ指しており、適宜比較を行っています。一部、「平成 28 年度調査」実施時と設問や選択肢が異なるものがあります。

II 障がい者調査結果

この調査にご記入されるのは、どなたですか。(1つに○)

回答者について、全体で「ご本人」が67.8%と最も高く、次いで「ご家族」が25.0%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「ご本人」が71.8%、療育手帳所持者で「ご家族」が60.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ご本人」が72.8%と、それぞれ最も高くなっています。

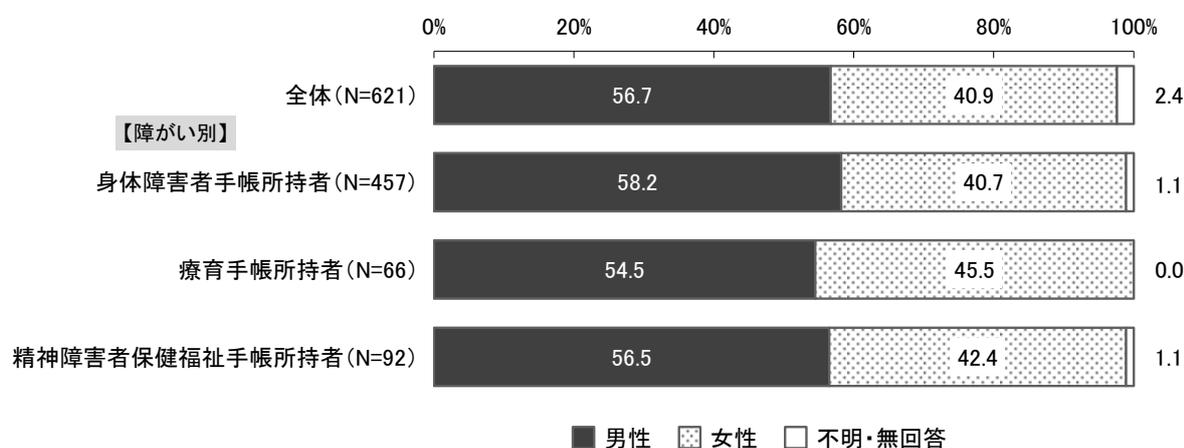


1 あなた(宛名の方)について、基本的なことをおうかがいします。

問1 あなたが思っている性別に○をつけてください。

性別について、全体で「男性」が56.7%、「女性」が40.9%となっています。

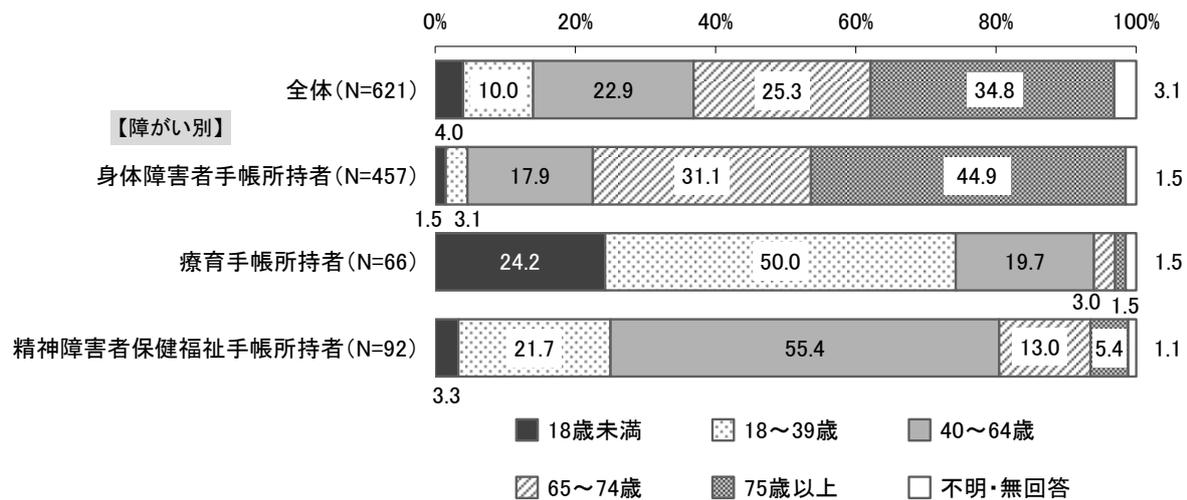
障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「男性」が5割を超えています。



問2 あなたの年齢は、満何歳ですか。(令和3年8月1日現在)

年齢について、全体で「75歳以上」が34.8%と最も高く、次いで「65～74歳」が25.3%となっています。

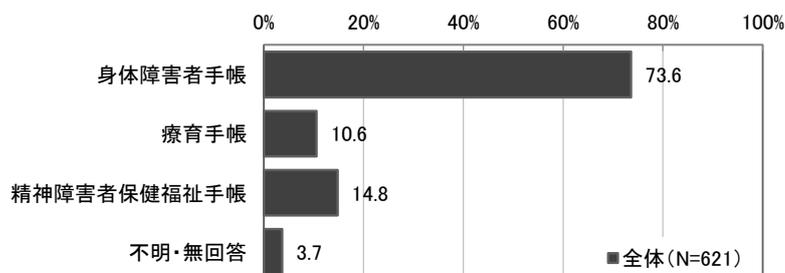
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「75歳以上」が44.9%、療育手帳所持者で「18～39歳」が50.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「40～64歳」が55.4%と、それぞれ最も高くなっています。



問3 あなたは、どの手帳をお持ちですか。手帳の等級もお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

お持ちの手帳について

「身体障害者手帳」が 73.6%、「療育手帳」が 10.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が 14.8%となっています。



※所持している手帳は重複している場合があります。

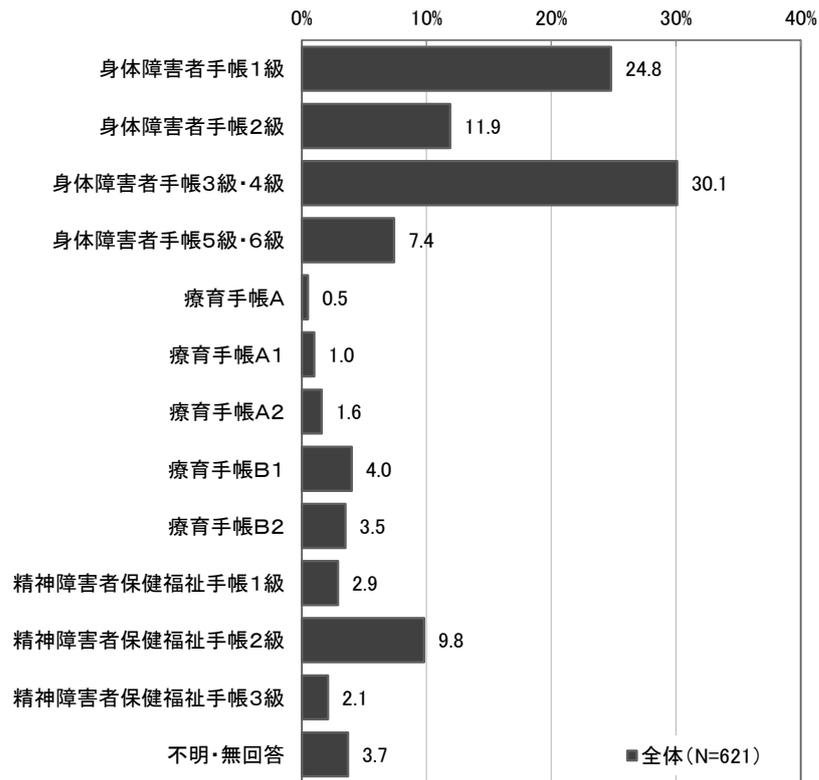
手帳の等級について

身体障害者手帳の等級について、「身体障害者手帳 3 級・4 級」が 30.1%と最も高く、次いで「身体障害者手帳 1 級」が 24.8%となっています。

療育手帳の判定について、「療育手帳 B 1」が 4.0%と最も高く、次いで「療育手帳 B 2」が 3.5%となっています。

精神障害者保健福祉手帳の等級について、「精神障害者保健福祉手帳 2 級」が 9.8%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳 1 級」が 2.9%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「身体障害者手帳 3 級・4 級」が 40.9%、療育手帳所持者で「療育手帳 B 1」が 37.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「精神障害者保健福祉手帳 2 級」で 66.3%とそれぞれ最も高くなっています。



■障がい等級別内訳表

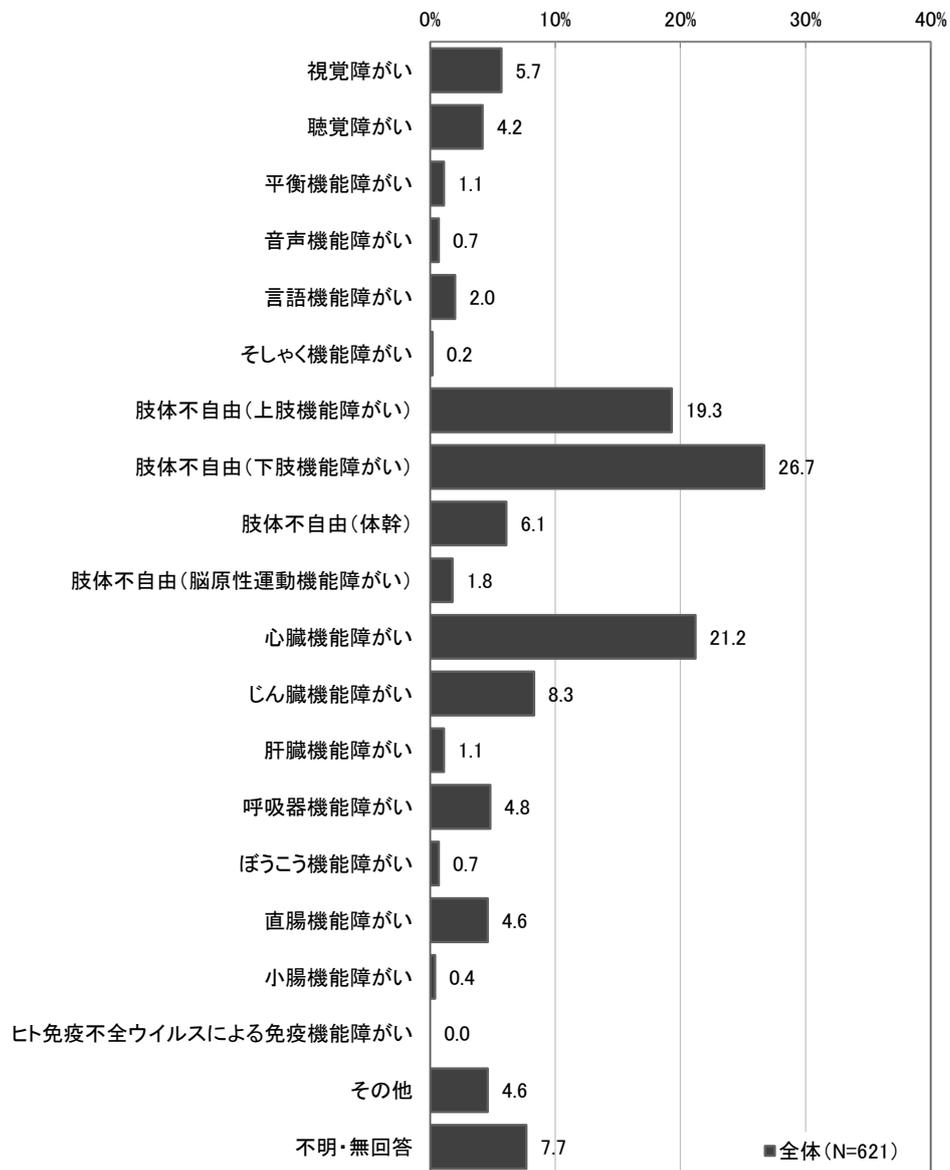
(単位：%)

区分		N	各障害者手帳に占める割合
身体障害者手帳 (N=457)	身体障害者手帳1級	154	33.7
	身体障害者手帳2級	74	16.2
	身体障害者手帳3級・4級	187	40.9
	身体障害者手帳5級・6級	46	10.1
療育手帳 (N=66)	療育手帳A	3	4.5
	療育手帳A1	6	9.1
	療育手帳A2	10	15.2
	療育手帳B1	25	37.9
	療育手帳B2	22	33.3
精神障害者保健福祉手帳 (N=92)	精神障害者保健福祉手帳1級	18	19.6
	精神障害者保健福祉手帳2級	61	66.3
	精神障害者保健福祉手帳3級	13	14.1

身体障害者手帳をお持ちの方におうかがいします。

問4 手帳に記されている障がい名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

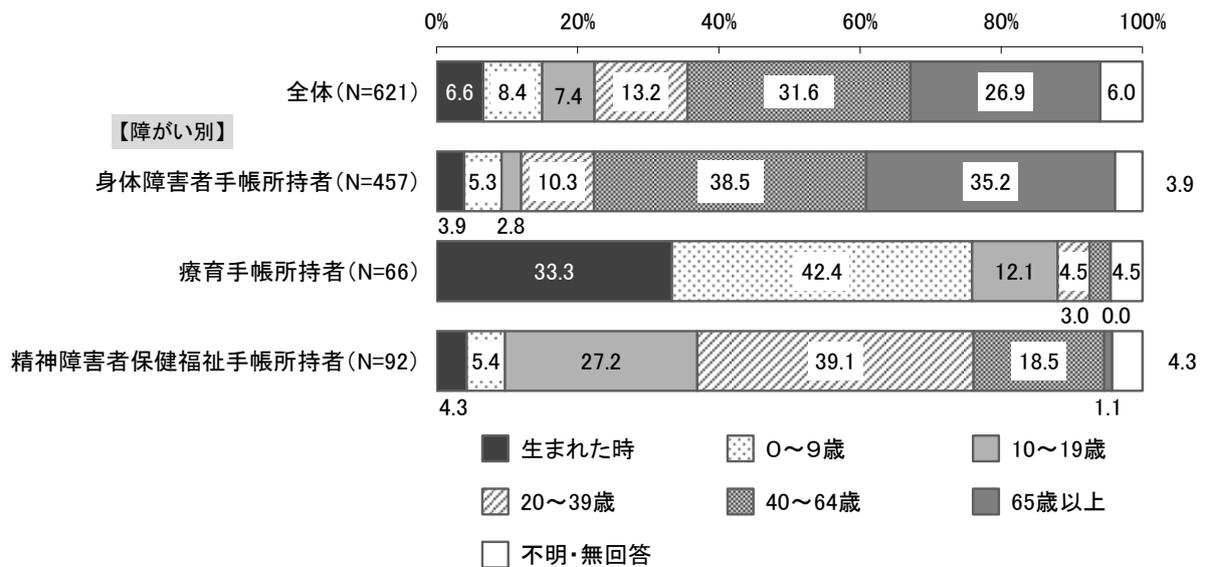
手帳に記されている障がい名について、全体で「肢体不自由（下肢機能障がい）」が 26.7%と最も高く、次いで「心臓機能障がい」が 21.2%、「肢体不自由（上肢機能障がい）」が 19.3%となっています。



問5 障がいが生じた時期はいつですか。(1つに○)

障がいが生じた時期について、全体で「40～64歳」が31.6%と最も高く、次いで「65歳以上」が26.9%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「40～64歳」が38.5%、療育手帳所持者で「0～9歳」が42.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「20～39歳」が39.1%と、それぞれ最も高くなっています。

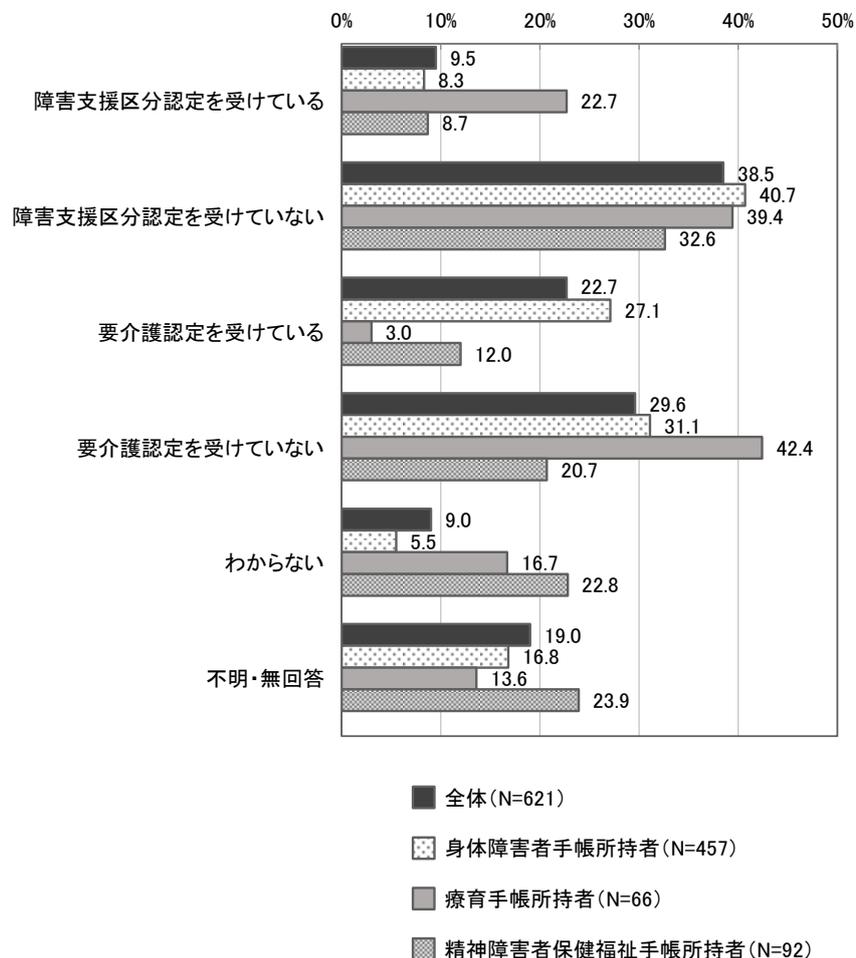


問6 あなたは、障がい福祉サービスを利用する障害支援区分の認定や介護保険の要介護認定を受けていますか。

障がい福祉サービスを利用する障害支援区分の認定や介護保険の要介護認定を受けているかについて、全体で「障害支援区分認定を受けている」が9.5%、「要介護認定を受けている」が22.7%となっています。

障がい別にみると、「障害支援区分認定を受けている」が身体障害者手帳所持者で8.3%、療育手帳所持者で22.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7%となっています。また、「要介護認定を受けている」は身体障害者手帳所持者で27.1%、療育手帳所持者で3.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で12.0%となっています。

年齢区分別にみると、18～39歳で「障害支援区分認定を受けている」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	障害支援区分認定を受けている	障害支援区分認定を受けていない	要介護認定を受けている	要介護認定を受けていない	わからない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	0.0	52.0	4.0	52.0	20.0	12.0
	18～39歳	62	25.8	30.6	8.1	30.6	14.5	19.4
	40～64歳	142	7.0	45.1	10.6	33.1	15.5	18.3
	65～74歳	157	9.6	45.2	23.6	31.2	3.2	21.7
	75歳以上	216	7.4	31.9	37.0	25.9	6.5	14.4

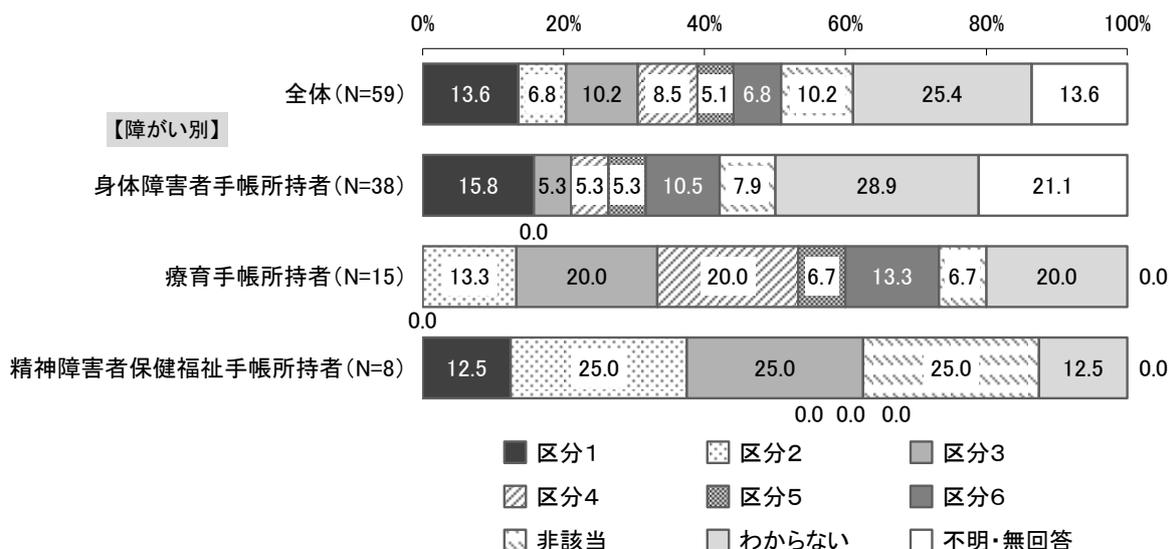
障害支援区分認定を受けている方におうかがいします。

問6-1 障害支援の認定区分をお答えください。

障害支援の認定区分について、全体で「区分1」が13.6%と最も高く、次いで「区分3」が10.2%となっています。

障がい別にみると身体障害者手帳所持者で「区分1」が15.8%、療育手帳所持者で「区分3」「区分4」がそれぞれ20.0%となっています。

年齢区分別にみると下記のとおりとなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	わからない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	16	0.0	12.5	12.5	18.8	12.5	12.5	18.8	12.5	0.0
	40～64歳	10	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	65～74歳	15	13.3	6.7	13.3	0.0	0.0	13.3	13.3	20.0	20.0
	75歳以上	16	18.8	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	31.3	31.3

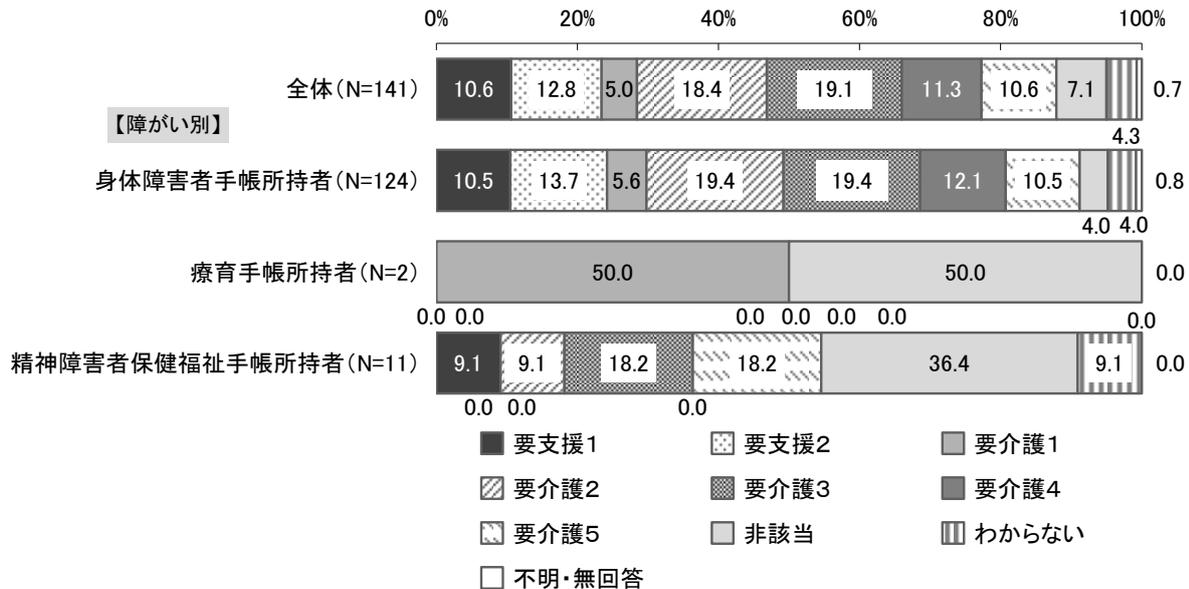
要介護認定を受けている方におうかがいします。

問6-2 要介護の認定区分をお答えください。

要介護の認定区分について、全体で「要介護3」が19.1%と最も高く、次いで「要介護2」が18.4%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「要介護2」「要介護3」がそれぞれ19.4%と最も高くなっています

年齢区分別にみると、75歳以上で「要介護3」が他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

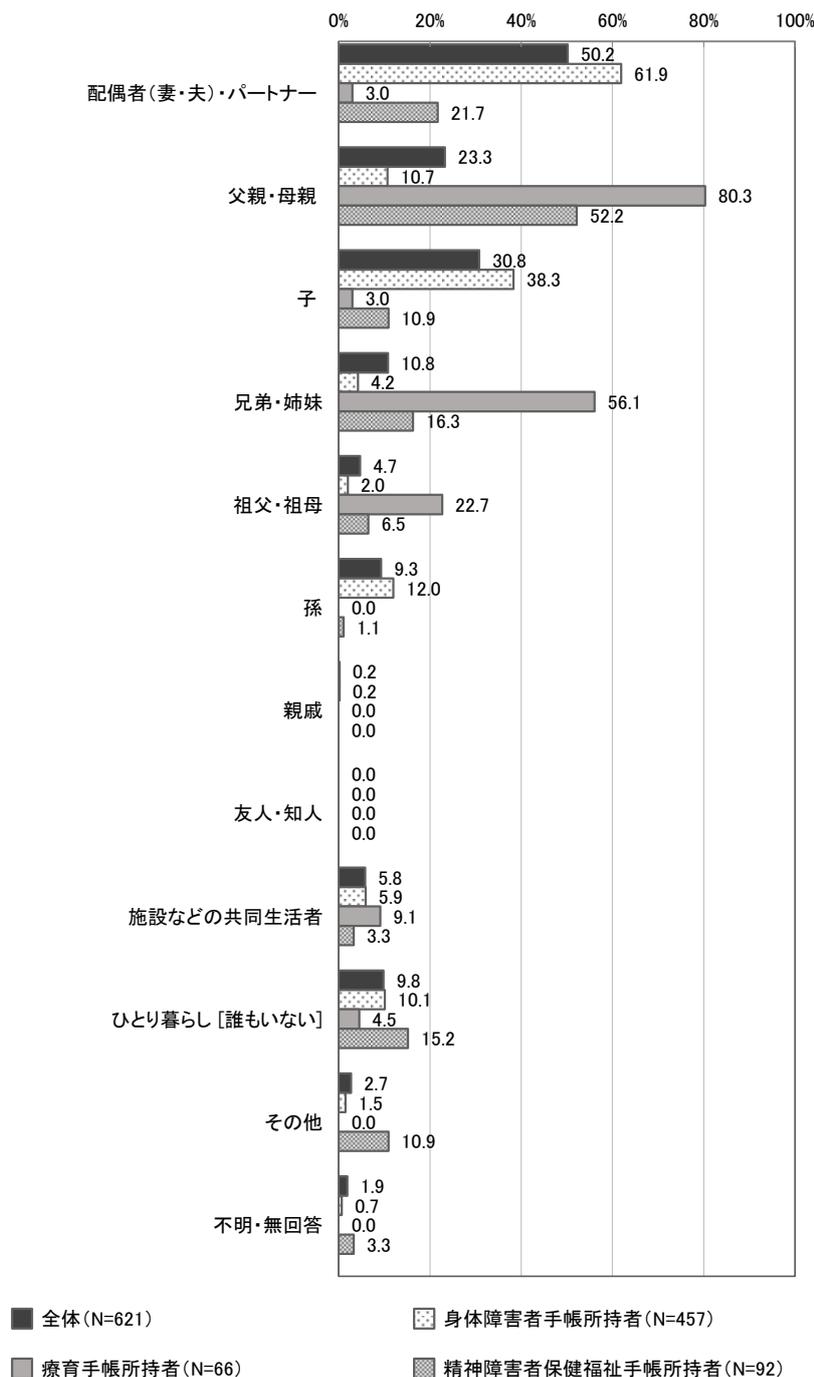
区分		N=	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	非該当	わからない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18~39歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	40~64歳	15	6.7	0.0	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7	6.7	20.0	0.0
	65~74歳	37	13.5	16.2	2.7	13.5	16.2	10.8	13.5	8.1	5.4	0.0
	75歳以上	80	8.8	15.0	5.0	22.5	23.8	11.3	11.3	0.0	1.3	1.3

2 あなたの生活のことについて、おうかがいします。

問7 現在、一緒に暮らしている方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在、一緒に暮らしている方について、全体で「配偶者(妻・夫)・パートナー」が50.2%と最も高く、次いで「子」が30.8%となっています。

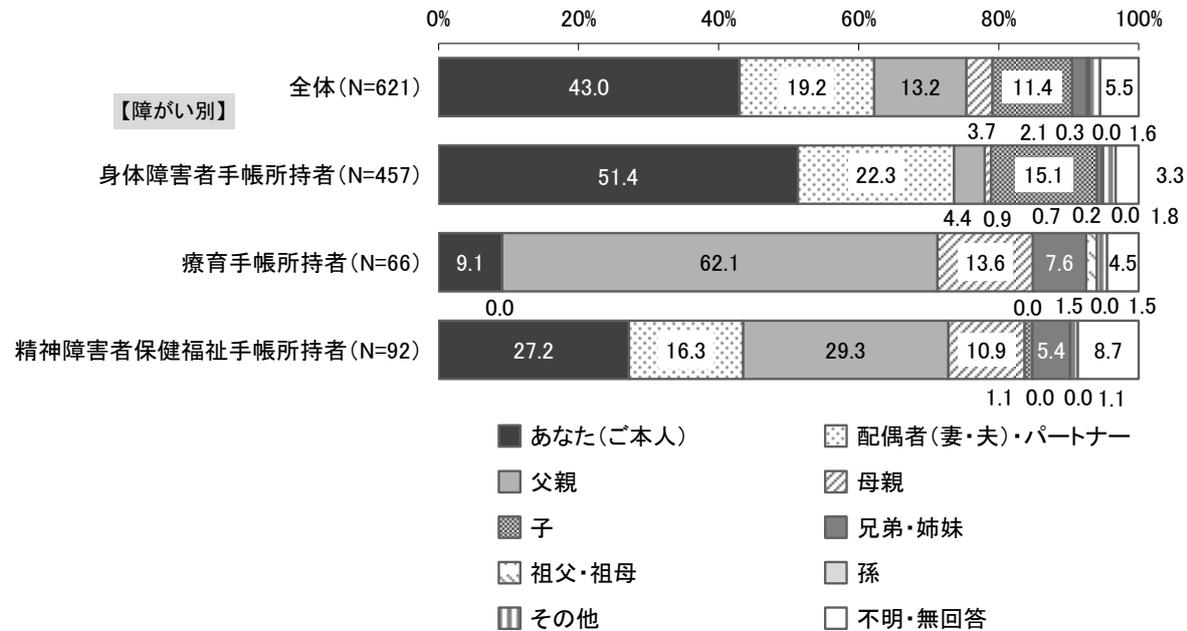
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「配偶者(妻・夫)・パートナー」が61.9%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「父親・母親」がそれぞれ80.3%、52.2%と、最も高くなっています。



問8 あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。(1つに○)

主に生計を支えている方について、全体で「あなた（ご本人）」が43.0%と最も高く、次いで「配偶者（妻・夫）・パートナー」が19.2%となっています。

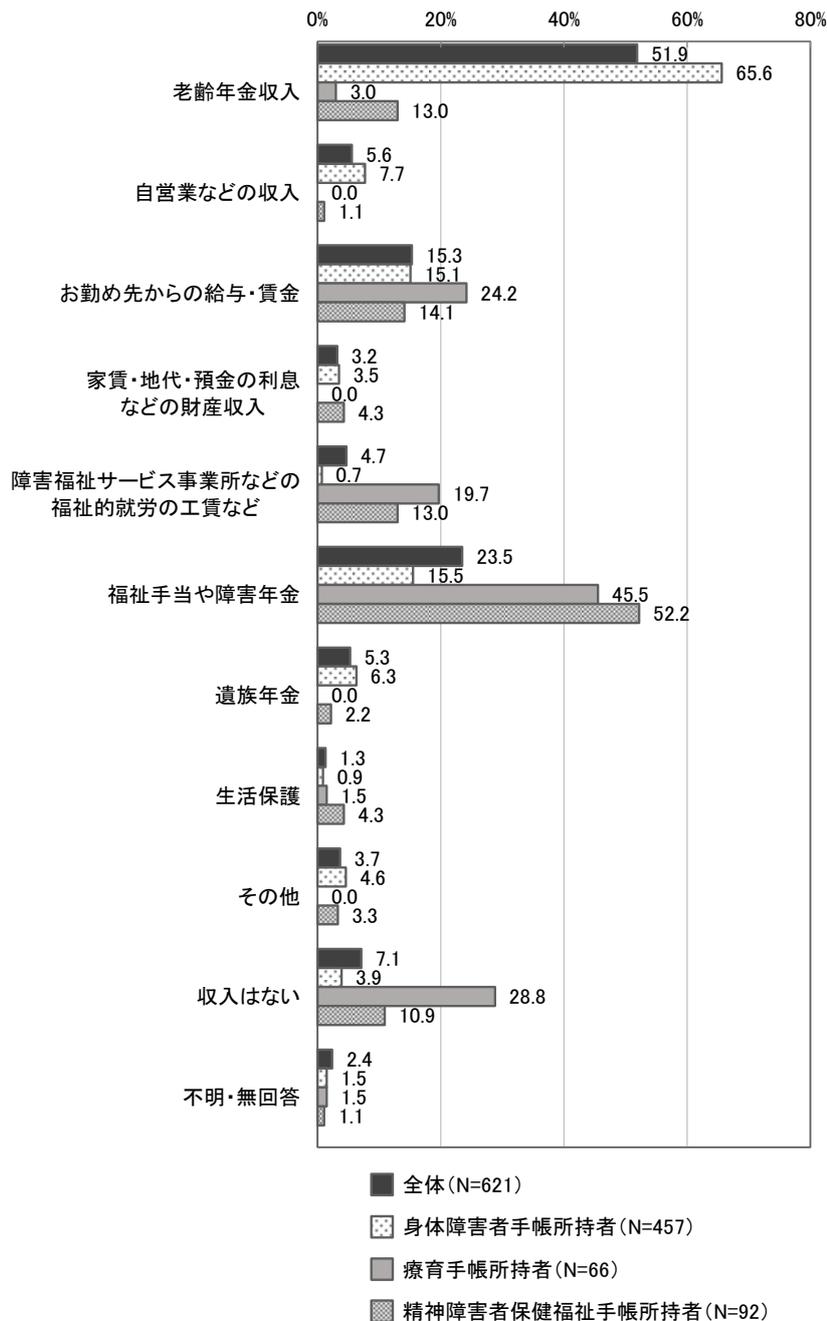
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「あなた（ご本人）」が51.4%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「父親」がそれぞれ62.1%、29.3%と、最も高くなっています。



問9 あなたご自身の収入は次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

収入について、全体で「老齢年金収入」が51.9%と最も高く、次いで「福祉手当や障害年金」が23.5%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「老齢年金収入」が65.6%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「福祉手当や障害年金」がそれぞれ45.5%、52.2%と、最も高くなっています。

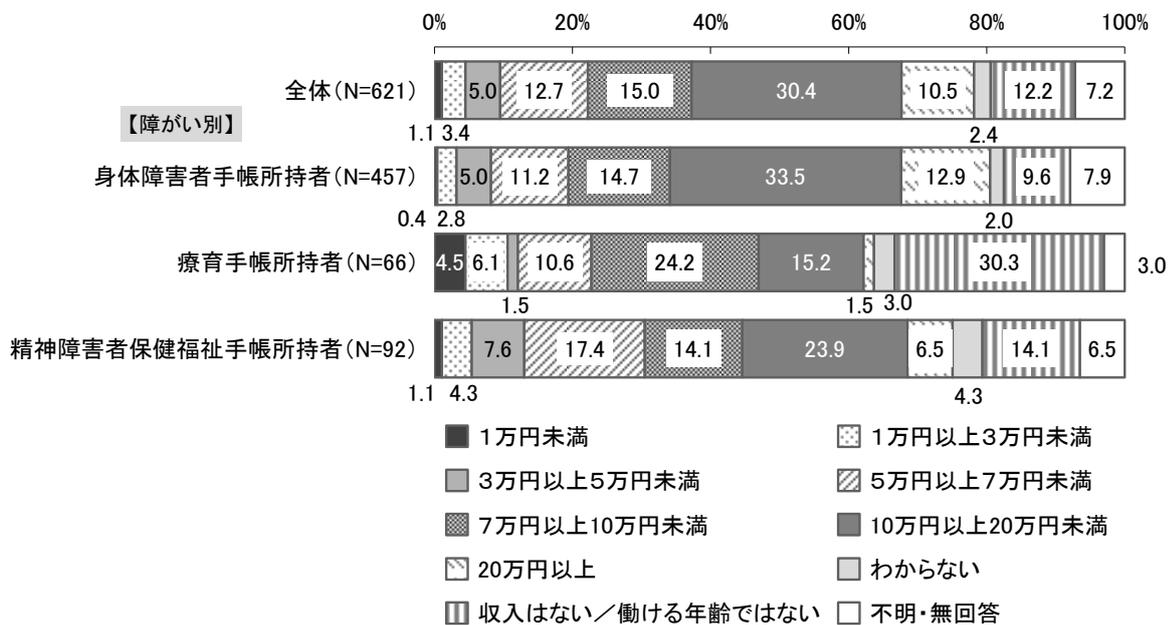


問 10 あなたの1か月の総収入(問9で○をつけたすべての収入)の平均金額について、それぞれのあてはまる番号に○をつけてください。

①現在

現在の1か月の総収入の平均金額について、全体で「10万円以上20万円未満」が30.4%と最も高く、次いで「7万円以上10万円未満」が15.0%となっています。

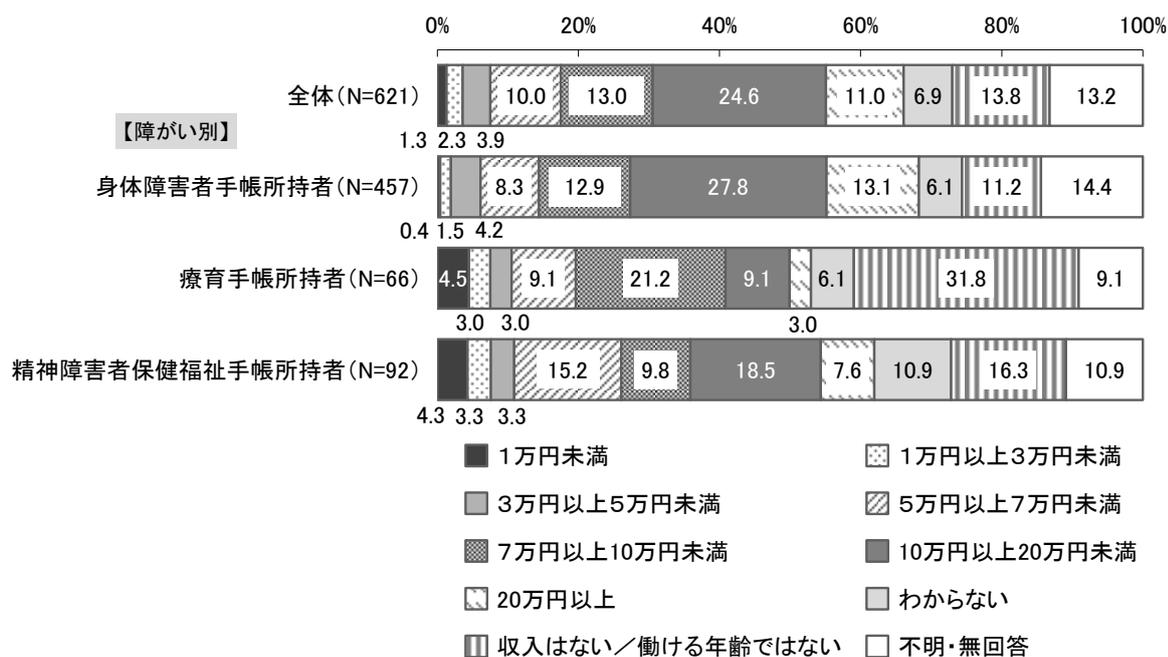
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「10万円以上20万円未満」がそれぞれ33.5%、23.9%、療育手帳所持者で「収入はない／働ける年齢ではない」が30.3%と、それぞれ最も高くなっています。



②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前

新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前の1か月間の総収入の平均金額について、全体で「10万円以上20万円未満」が24.6%と最も高く、次いで「収入はない／働ける年齢ではない」が13.8%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「10万円以上20万円未満」がそれぞれ27.8%、18.5%、療育手帳所持者で「収入はない／働ける年齢ではない」が31.8%と、それぞれ最も高くなっています。



【「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の比較結果】

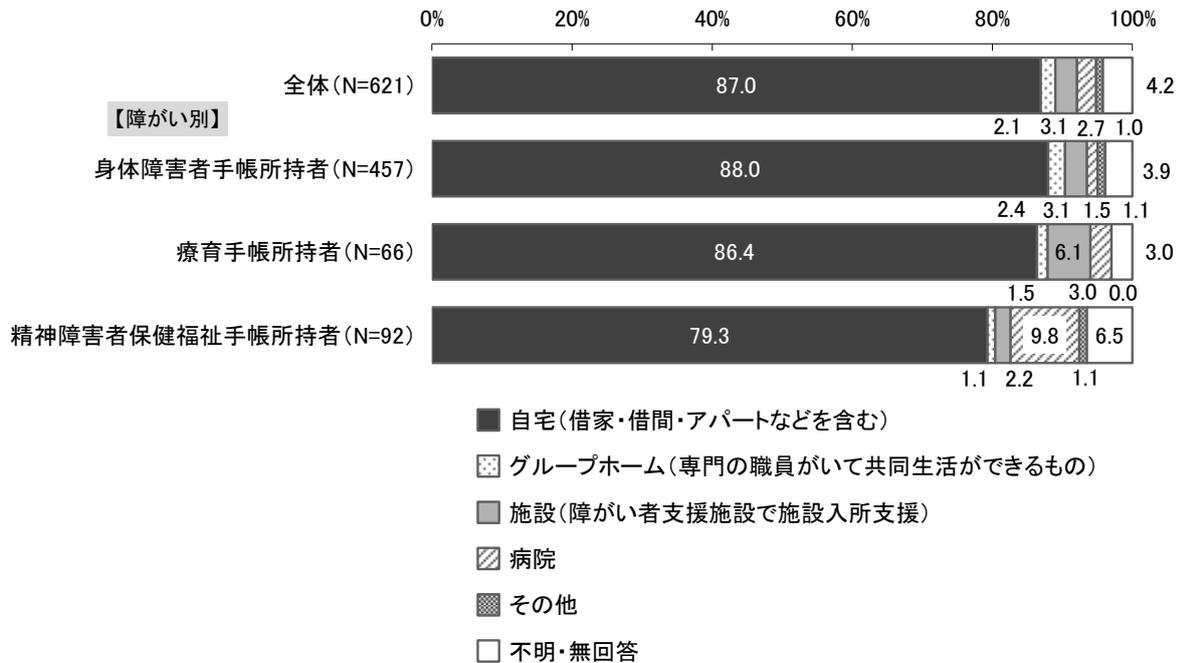
「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の1か月間の総収入の平均金額の比較は、「10万円以上20万円未満」が5.8ポイント差で最も高くなっています。

区分	N=	1万円未満	1万円以上3万円未満	3万円以上5万円未満	5万円以上7万円未満	7万円以上10万円未満	10万円以上20万円未満	20万円以上	わからない	収入はない／働ける年齢ではない	不明・無回答
①現在	621	1.1	3.4	5.0	12.7	15.0	30.4	10.5	2.4	12.2	7.2
②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前	621	1.3	2.3	3.9	10.0	13.0	24.6	11.0	6.9	13.8	13.2

問 11 現在のお住まい、あるいは生活の場はどこですか。(1つに○)

現在のお住まい、生活の場について、全体で「自宅(借家・借間・アパートなどを含む)」が87.0%と最も高く、次いで「施設(障がい者支援施設で施設入所支援)」が3.1%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「自宅(借家・借間・アパートなどを含む)」が最も高くなっています。

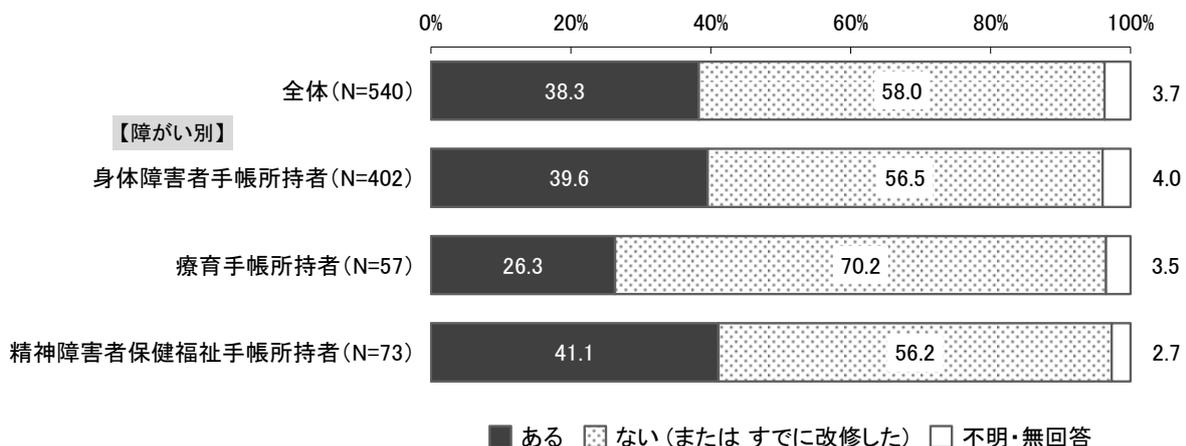


問 11 で「1. 自宅(借家・借間・アパートなどを含む)」と答えた方におうかがいします。

問 12 住まいについて困っていて、改修したい箇所はありますか。(1つに○)

改修したい箇所について、全体で「ある」が38.3%、「ない(またはすでに改修した)」が58.0%となっています。

障がい別にみると、「ある」が身体障害者手帳所持者で39.6%、療育手帳所持者で26.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で41.1%となっています。

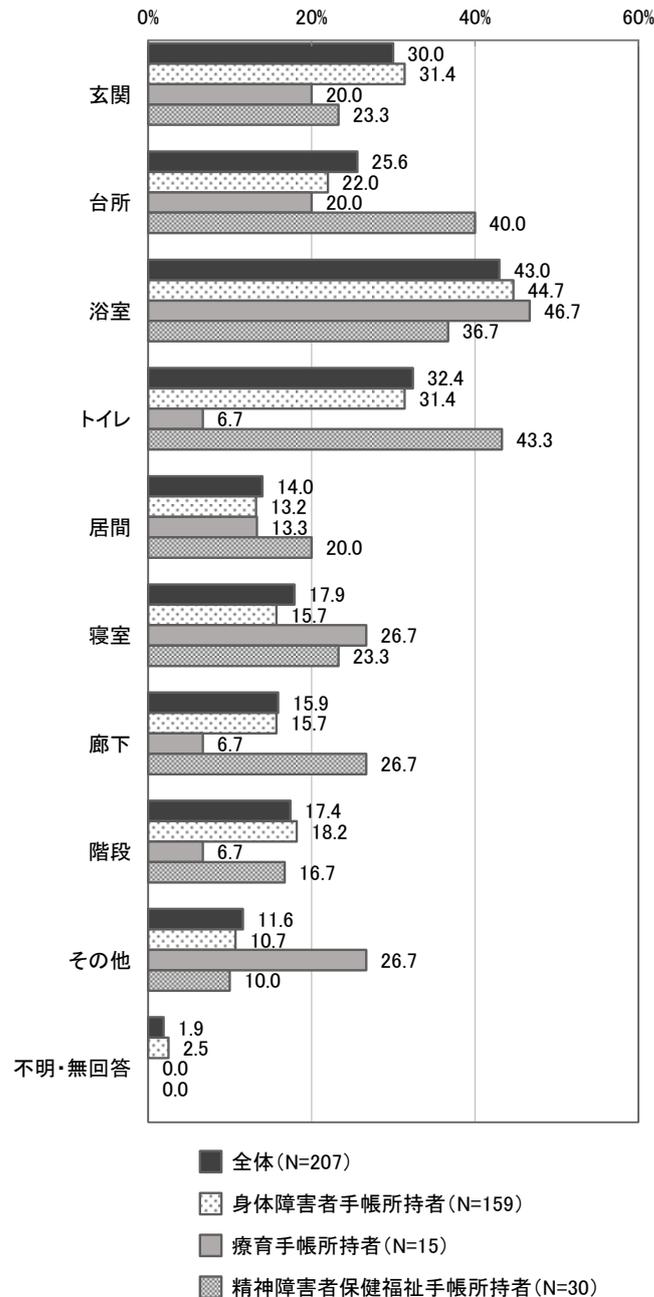


問 11 で「1. 自宅(借家・借間・アパートなどを含む)」と答えた方におうかがいします。

問 12-1 改修したい箇所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

改修したい箇所について、全体で「浴室」が 43.0%と最も高く、次いで「玄関」が 30.0%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者で「浴室」がそれぞれ 44.7%、46.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「トイレ」が 43.3%と、それぞれ最も高くなっています。



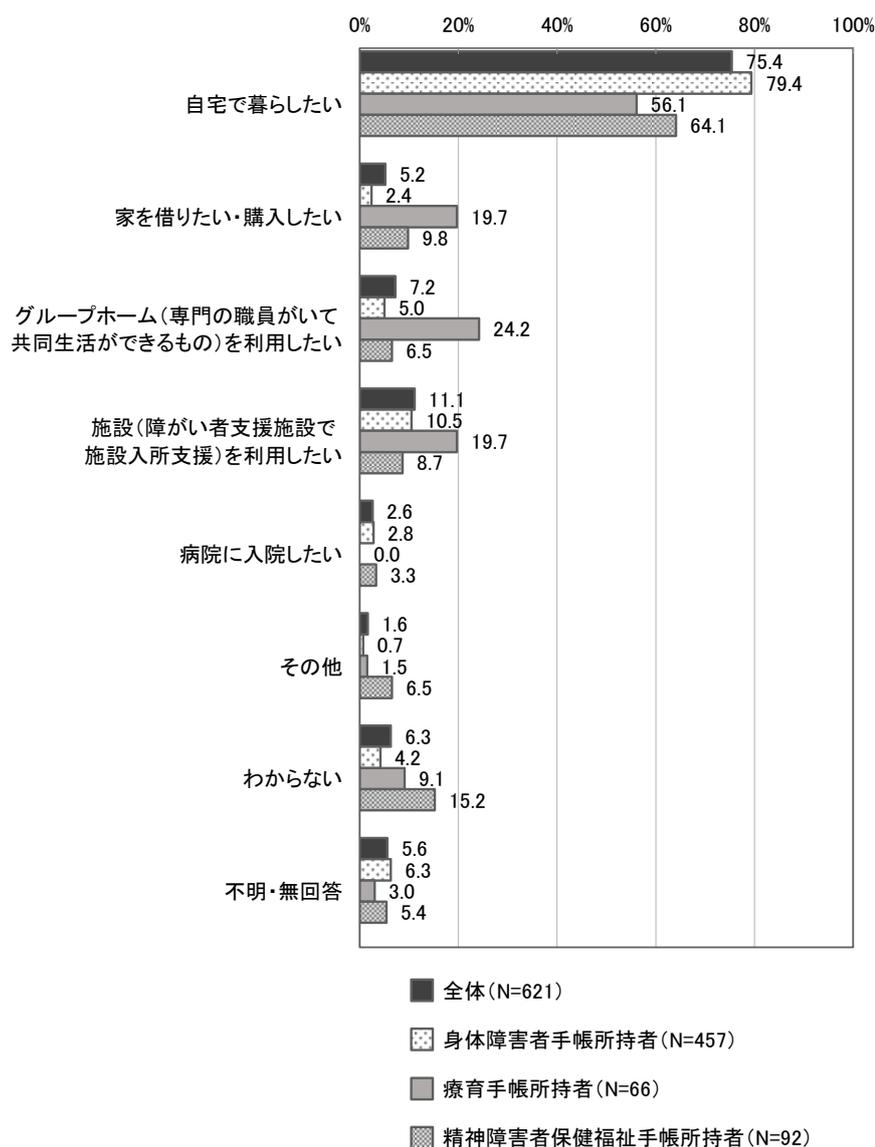
問 13 将来、住みたい、あるいは暮らしたいと思う生活の場はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

将来、住みたい、あるいは暮らしたいと思う生活の場について、全体で「自宅で暮らしたい」が75.4%と最も高く、次いで「施設（障がい者支援施設で施設入所支援）を利用したい」が11.1%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「自宅で暮らしたい」が最も高くなっています。

年齢区分別にみると18～39歳で「家を借りたい・購入したい」が他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

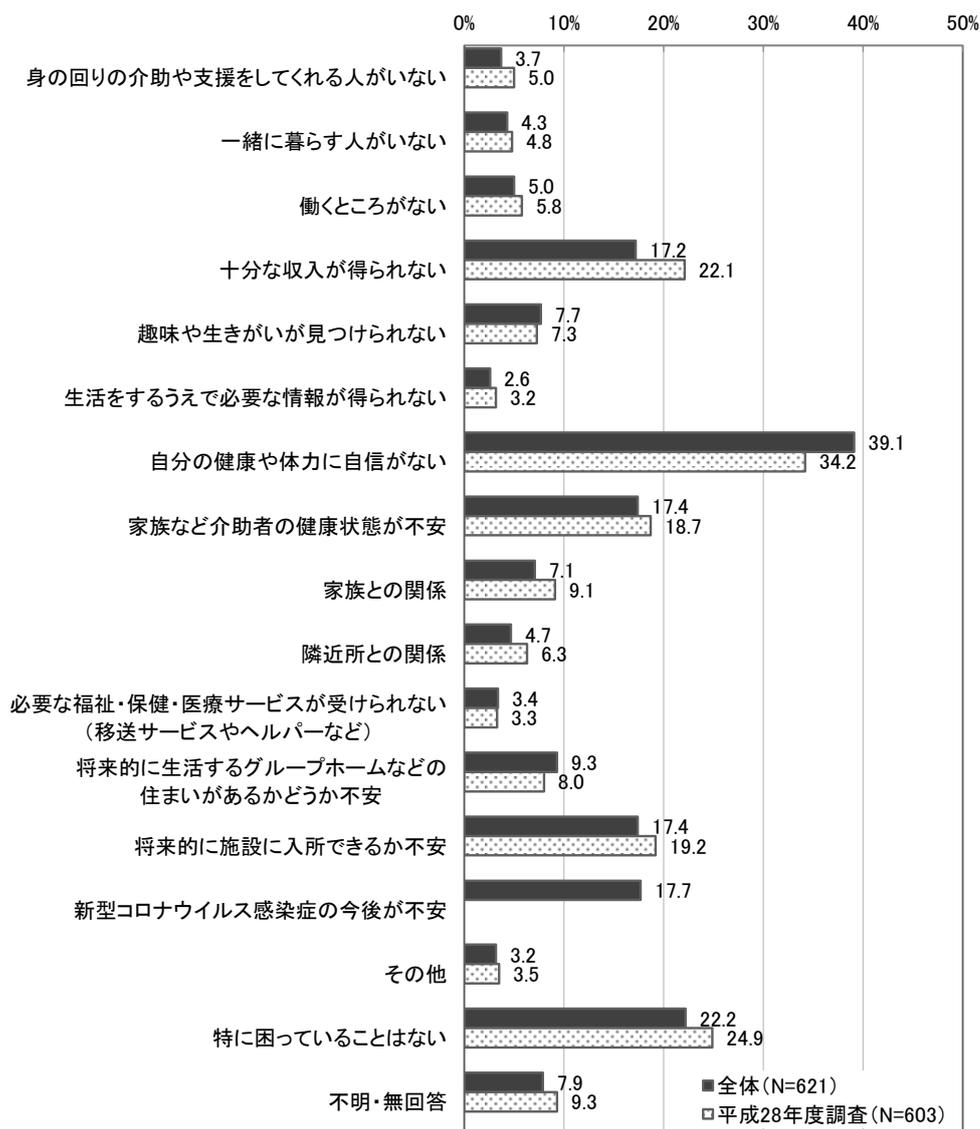
区分		N=	自宅で暮らしたい	家を借りたい・購入したい	グループホーム(専門の職員がいて共同生活ができるもの)を利用したい	施設(障がい者支援施設で施設入所支援)を利用したい	病院に入院したい	その他	わからない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	68.0	12.0	8.0	12.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	18～39歳	62	56.5	30.6	17.7	11.3	1.6	1.6	8.1	3.2
	40～64歳	142	75.4	4.9	7.7	12.0	3.5	4.2	8.5	4.9
	65～74歳	157	81.5	0.6	3.8	8.3	3.2	0.6	3.2	5.1
	75歳以上	216	77.3	0.9	6.0	12.0	2.3	0.9	4.6	7.9

問 14 現在の生活で困っていることや不安に思っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で困っていることや不安に思っていることについて、全体で「自分の健康や体力に自信がない」が39.1%と最も高く、次いで「特に困っていることはない」が22.2%となっています。平成28年度調査と比較すると、「自分の健康や体力に自信がない」が高くなっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「自分の健康や体力に自信がない」がそれぞれ39.6%、52.2%、療育手帳所持者で「特に困っていることはない」が30.3%と、それぞれ最も高くなっています。



※平成28年度調査では、「新型コロナウイルス感染症の今後が不安」の選択肢はありません。

■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	身の回りの介助や支援をしてくれる人がいない	一緒に暮らす人がいない	働くところがない	十分な収入が得られない	趣味や生きがいが見つけれない	生活をするうえで必要な情報が得られない	自分の健康や体力に自信がない	家族など介助者の健康状態が不安	家族との関係	隣近所との関係
身体障害者手帳所持者	457	3.7	3.3	3.5	14.7	5.9	2.0	39.6	16.4	5.0	3.7
療育手帳所持者	66	1.5	9.1	7.6	16.7	12.1	1.5	16.7	15.2	3.0	3.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	6.5	7.6	9.8	32.6	16.3	5.4	52.2	25.0	20.7	12.0

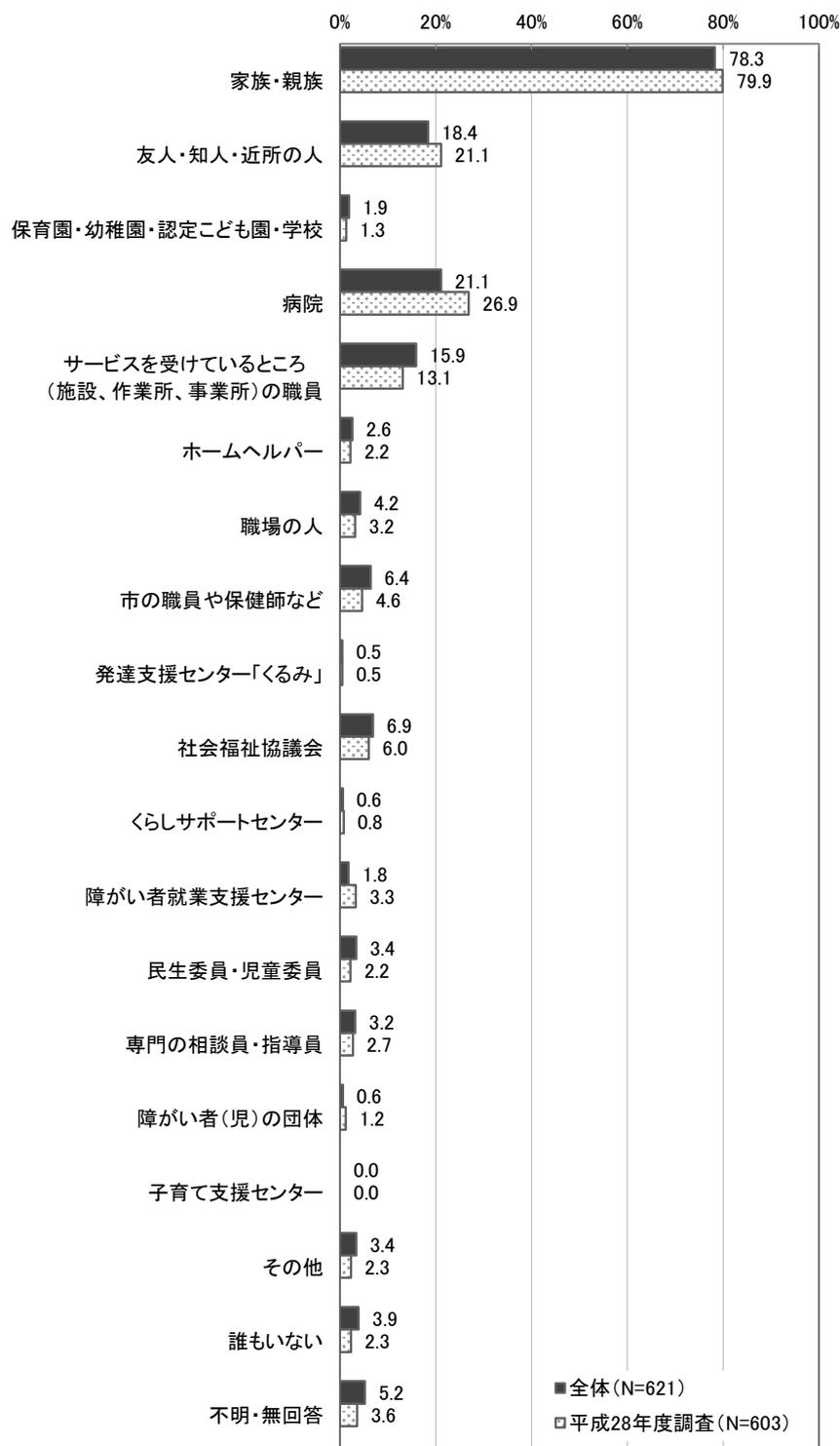
区分	N =	必要な福祉・保健・医療サービスが受けられない(移送サービスやヘルパーなど)	将来的に生活するグループホームなどの住まいがあるかどうか不安	将来的に施設に入所できるか不安	新型コロナウイルス感染症の今後が不安	その他	特に困っていることはない	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	3.5	6.3	17.7	17.3	2.8	22.5	8.5
療育手帳所持者	66	0.0	28.8	24.2	18.2	7.6	30.3	4.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	4.3	13.0	9.8	17.4	4.3	10.9	7.6

※平成 28 年度調査では、「新型コロナウイルス感染症の今後が不安」の選択肢はありません。

問 15 悩みや困ったことを相談するのは誰(どこ)ですか。(主なもの3つまでに○)

悩みや困ったことを相談するのは誰(どこ)かについて、全体で「家族・親族」が78.3%と最も高く、次いで「病院」が21.1%となっています。平成28年度調査と比較すると、「病院」が5.8ポイント低くなっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「家族・親族」が最も高くなっています。



※平成28年度調査では、「障害者就業支援センター」は「障害者生活支援センター」です。

■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	家族・親族	友人・知人・近所の人	学校 保育園・幼稚園・認定こども園・	病院	サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)の職員	ホームヘルパー	職場の人	市の職員や保健師など	発達支援センター「くるみ」	社会福祉協議会
身体障害者 手帳所持者	457	79.9	19.0	0.4	18.8	13.6	3.3	3.1	5.9	0.0	8.3
療育手帳所持者	66	75.8	12.1	16.7	7.6	39.4	0.0	12.1	4.5	4.5	4.5
精神障害者保健 福祉手帳所持者	92	68.5	20.7	1.1	40.2	13.0	1.1	6.5	13.0	0.0	3.3

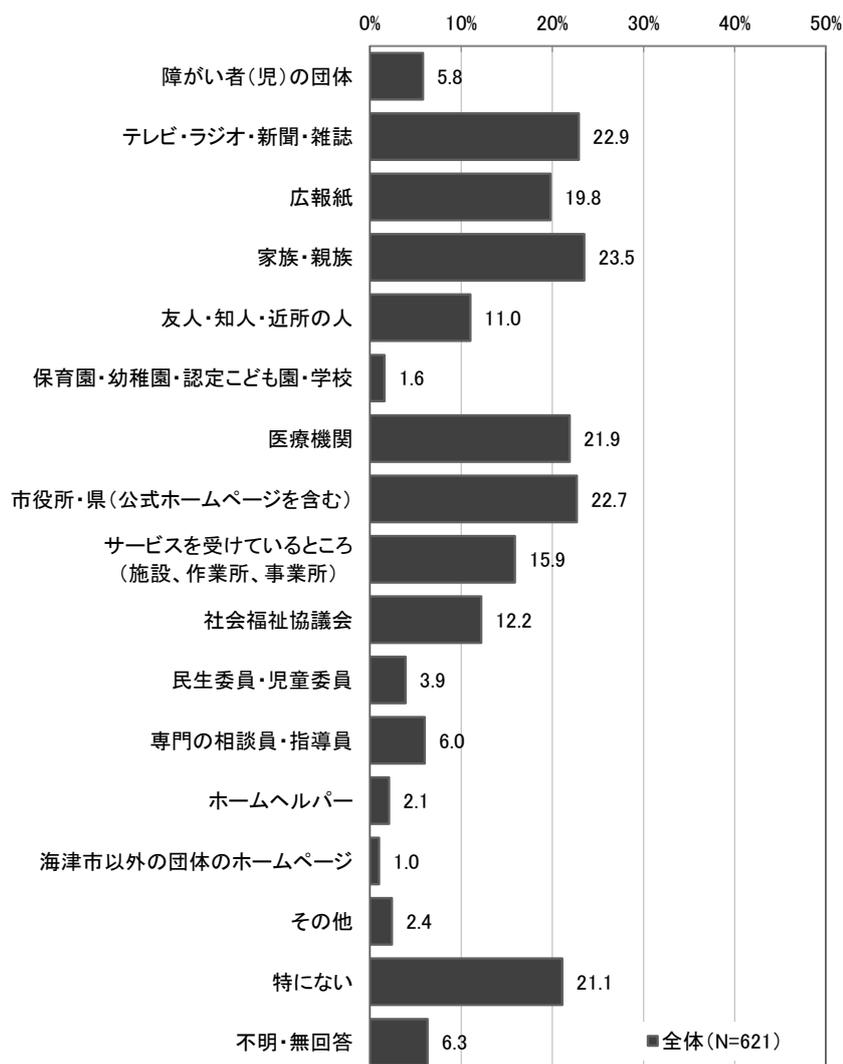
区分	N =	くらしサポートセンター	障がい者就業支援センター	民生委員・児童委員	専門の相談員・指導員	障がい者(児)の団体	子育て支援センター	その他	誰もいない	不明・無回答
身体障害者 手帳所持者	457	0.2	2.0	4.2	2.2	0.7	0.0	2.8	3.5	5.5
療育手帳所持者	66	3.0	1.5	1.5	9.1	1.5	0.0	4.5	1.5	3.0
精神障害者保健 福祉手帳所持者	92	2.2	1.1	2.2	5.4	0.0	0.0	6.5	6.5	4.3

※平成 28 年度調査では、「障害者就業支援センター」は「障害者生活支援センター」です。

問 16 障がい者福祉に関する情報を、どこから入手していますか。(主なものを5つまでに○)

障がい者福祉に関する情報を、どこから入手しているかについて、全体で「家族・親族」が23.5%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が22.9%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が25.2%、療育手帳所持者で「サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）」が36.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「市役所・県（公式ホームページを含む）」が35.9%と、それぞれ最も高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	障がい者(児)の団体	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	広報紙	家族・親族	友人・知人・近所の人	保育園・幼稚園・認定こども園・学校	医療機関	市役所・県(公式ホームページを含む)	サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)	社会福祉協議会
身体障害者手帳所持者	457	6.8	25.2	22.8	23.9	13.1	0.4	20.8	21.9	12.9	13.8
療育手帳所持者	66	3.0	12.1	12.1	27.3	6.1	15.2	19.7	18.2	36.4	10.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	4.3	15.2	10.9	17.4	6.5	0.0	34.8	35.9	19.6	5.4

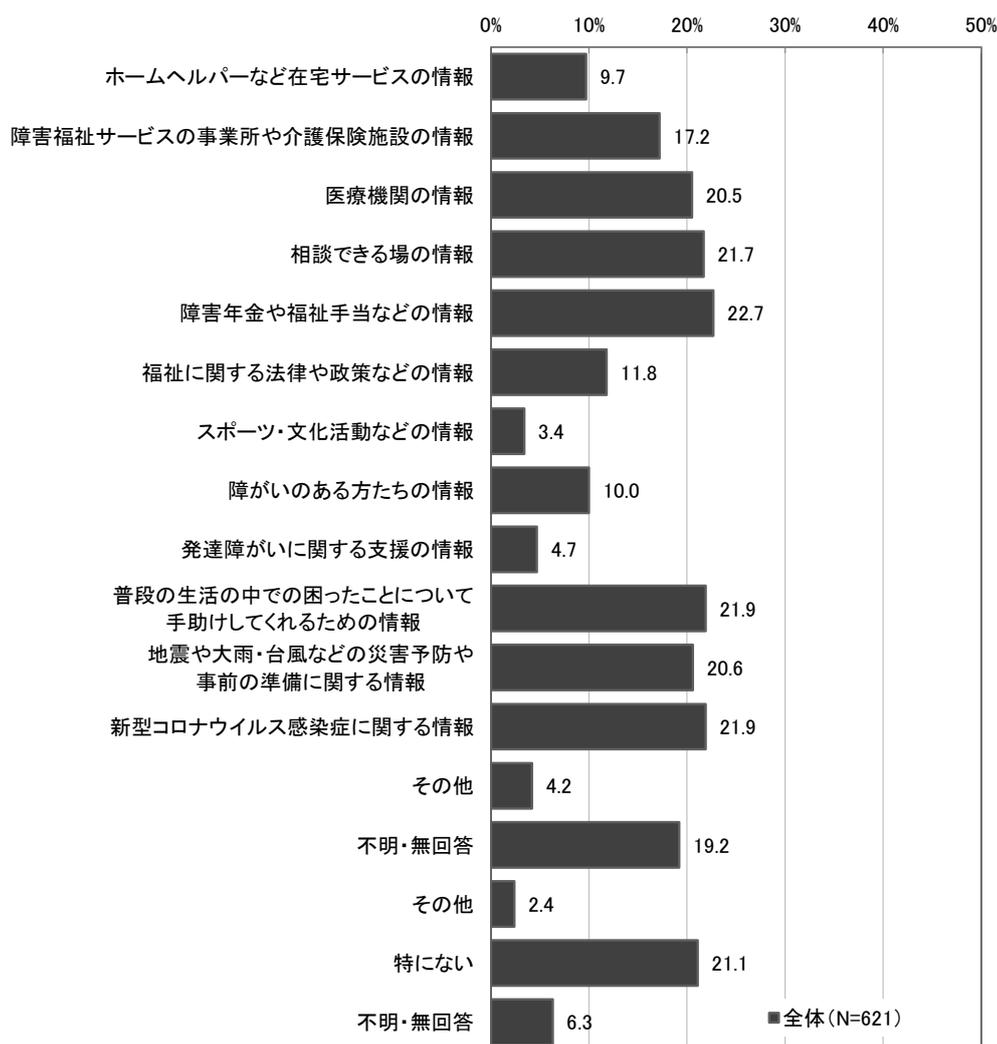
区分	N =	民生委員・児童委員	専門の相談員・指導員	ホームヘルパー	海津市以外の団体のホームページ	その他	特にない	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	4.8	4.4	2.4	0.9	1.5	20.4	6.6
療育手帳所持者	66	1.5	10.6	1.5	1.5	4.5	22.7	4.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	2.2	10.9	0.0	1.1	5.4	20.7	6.5

問 17 あなたが今、必要と感じる情報はどのようなものですか。

(あてはまるものすべてに○)

必要と感じる情報について、全体で「障害年金や福祉手当などの情報」が22.7%と最も高く、次いで「普段の生活の中での困ったことについて手助けしてくれるための情報」と「新型コロナウイルス感染症に関する情報」が21.9%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「医療機関の情報」が21.7%、療育手帳所持者で「普段の生活の中での困ったことについて手助けしてくれるための情報」が37.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「相談できる場の情報」が35.9%と、それぞれ最も高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	ホームヘルパーなど在宅サービスの情報	障害福祉サービスの事業所や介護保険施設の情報	医療機関の情報	相談できる場の情報	障害年金や福祉手当などの情報	福祉に関する法律や政策などの情報	スポーツ・文化活動などの情報	障がいのある方たちの情報	発達障がいに関する支援の情報	普段の生活の中での困ったことについて手助けしてくれるための情報
身体障害者手帳所持者	457	10.7	17.1	21.7	18.4	19.3	10.5	2.2	9.2	0.9	18.2
療育手帳所持者	66	1.5	16.7	19.7	28.8	30.3	16.7	13.6	16.7	22.7	37.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	5.4	17.4	13.0	35.9	34.8	13.0	3.3	12.0	9.8	28.3

区分	N =	地震や大雨・台風などの災害予防や事前の準備に関する情報	新型コロナウイルス感染症に関する情報	その他	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	20.1	21.4	4.4	21.0
療育手帳所持者	66	19.7	18.2	1.5	7.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	20.7	22.8	4.3	17.4

問 18 成年後見制度について、どの程度知っていますか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

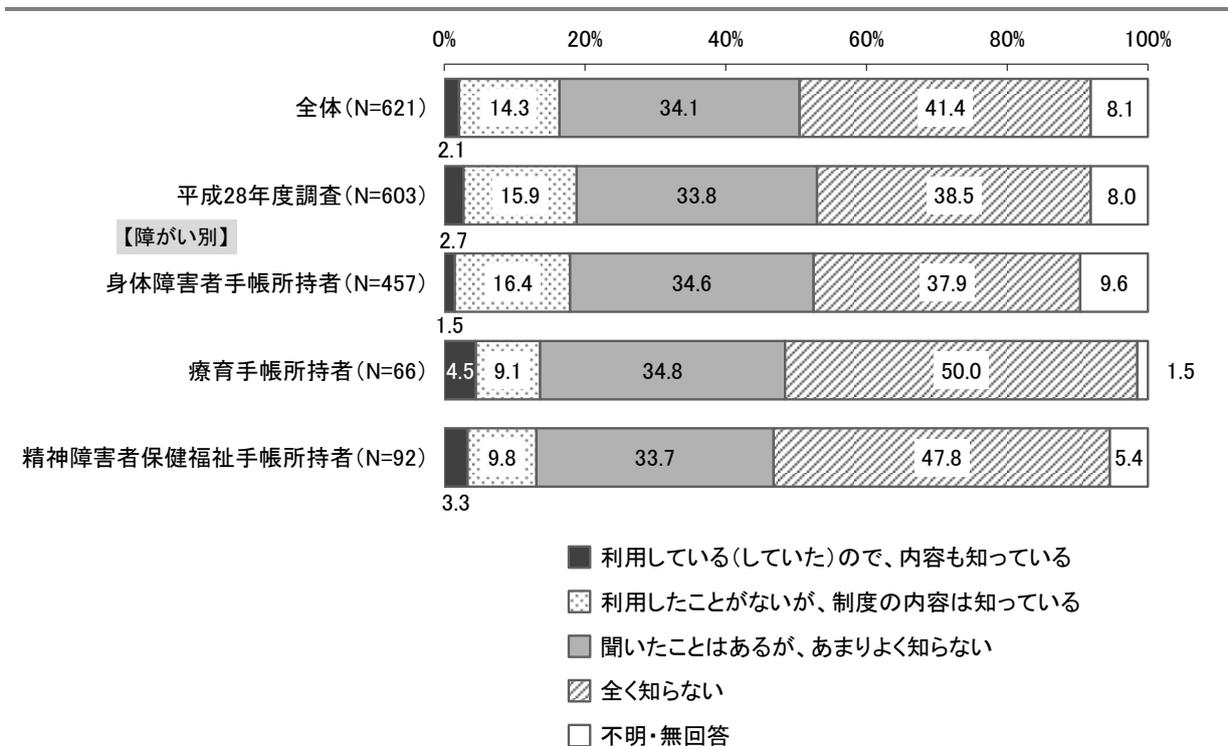
『知っている』 …「利用している(していた)ので、内容も知っている」と「利用したことがないが、制度の内容は知っている」の合算

『知らない』 …「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」と「全く知らない」の合算

成年後見制度をどの程度知っているかについて、全体で『知っている』が16.4%、『知らない』が75.5%となっています。平成28年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

障がい別にみると、『知っている』が身体障害者手帳所持者で17.9%、療育手帳所持者で13.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で13.1%となっています。

年齢区分別にみると、18～39歳で「全く知らない」が53.2%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



※平成28年度調査では、「その他」の選択肢が含まれています。

■クロス集計集

(単位：%)

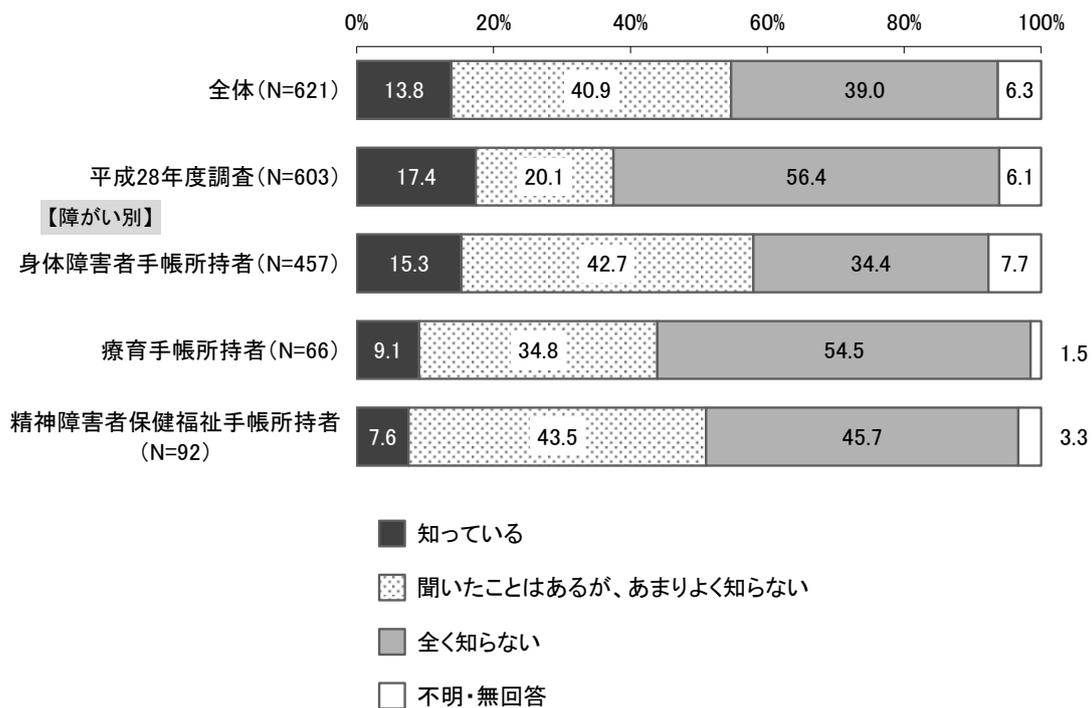
区分		N=	利用している(していた) ので、内容も知っている	利用したことがないが、 制度の内容は知っている	聞いたことはあるが、あ まりよく知らない	全く知らない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	0.0	8.0	44.0	48.0	0.0
	18～39歳	62	0.0	14.5	30.6	53.2	1.6
	40～64歳	142	2.8	11.3	36.6	46.5	2.8
	65～74歳	157	3.2	17.8	36.9	35.0	7.0
	75歳以上	216	1.9	15.3	31.0	37.0	14.8

問 19 あなたは障害者虐待防止法について知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止法を知っているかについて、全体で「知っている」が 13.8%、「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」が 40.9%、「全く知らない」が 39.0%となっています。平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」が 20.8 ポイント高くなっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「知っている」が 15.3%、9.1%、7.6%となっています。

年齢区分別にみると、18 歳未満で「全く知らない」が 64.0%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



※平成 28 年度調査では、「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」は「知っているが、窓口は知らなかった」です。

■クロス集計集

(単位：%)

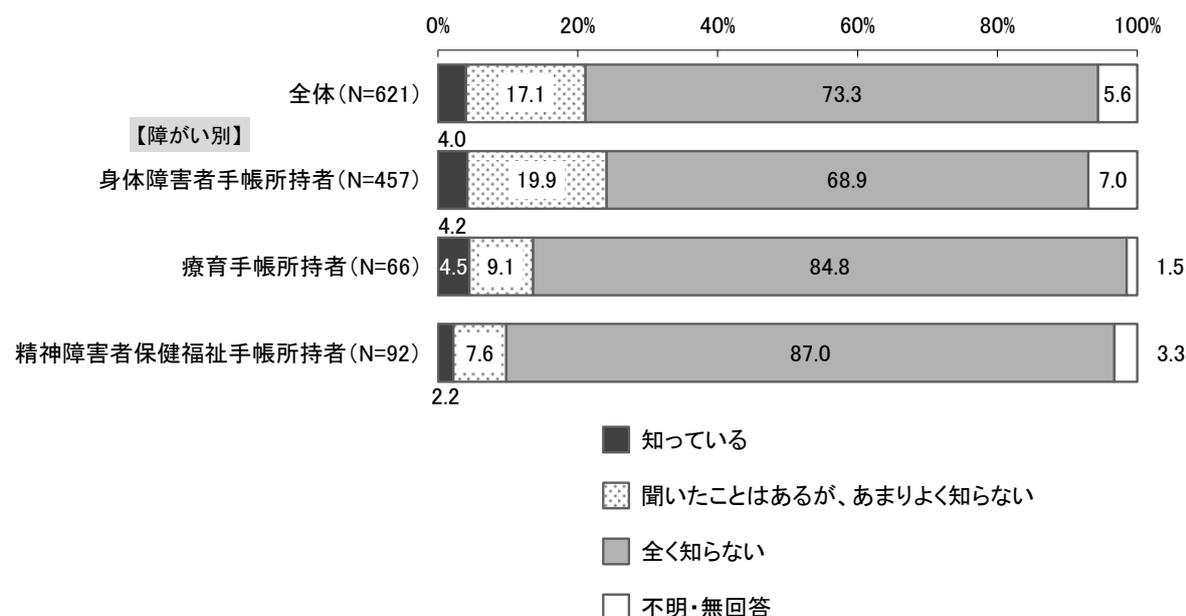
区分		N=	知っている	聞いたことはあるが、あまりよく知らない	全く知らない	不明・無回答
年齢区分別	18 歳未満	25	12.0	24.0	64.0	0.0
	18～39 歳	62	17.7	38.7	41.9	1.6
	40～64 歳	142	9.2	41.5	47.2	2.1
	65～74 歳	157	14.6	43.9	35.7	5.7
	75 歳以上	216	15.3	41.7	31.5	11.6

問 20 あなたは障害者文化芸術推進法について知っていますか。(1つに○)

障害者文化芸術推進法について知っているかについて、全体で「知っている」が4.0%、「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」が17.1%、「全く知らない」が73.3%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「知っている」がそれぞれ4.2%、4.5%、2.2%となっています。

年齢区分別にみると、18歳未満で「全く知らない」が92.0%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	知っている	聞いたことはあるが、あまりよく知らない	全く知らない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	4.0	4.0	92.0	0.0
	18～39歳	62	8.1	12.9	77.4	1.6
	40～64歳	142	2.1	12.0	83.8	2.1
	65～74歳	157	3.8	20.4	70.7	5.1
	75歳以上	216	4.2	21.8	63.9	10.2

問 21 以下の項目について希望の程度(希望するかどうか)はどのくらいですか。また、実現の程度(実現しているかどうか)はどのくらいですか。(それぞれに1つずつ○をつけてください)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『思う』 …「そう思う」と「まあそう思う」の合算
『思わない』 …「思わない」と「あまり思わない」の合算

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

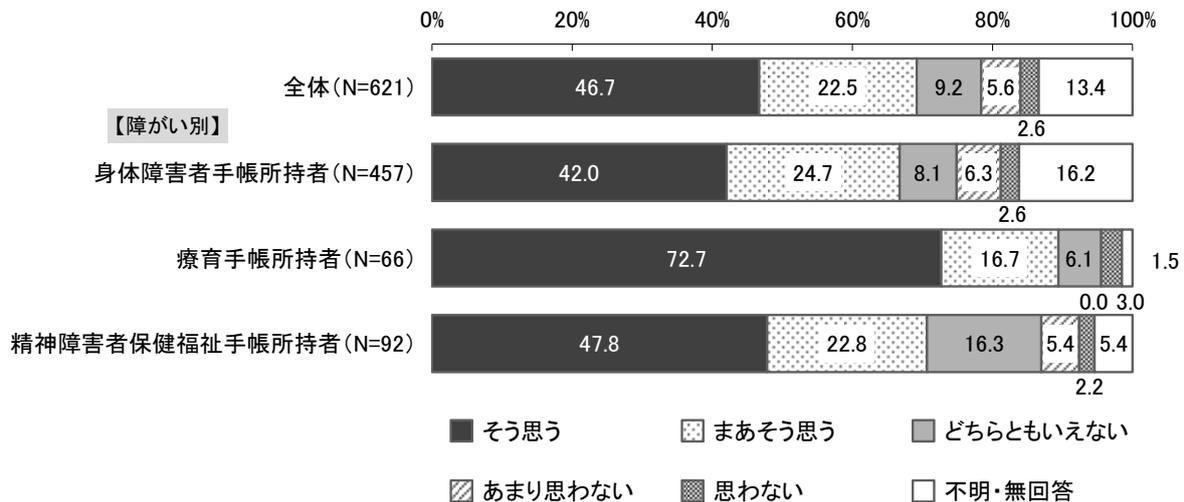
『実現している』 …「すでに実現している」と「やや実現している」の合算
『実現していない』 …「実現していない」と「あまり実現していない」の合算

①障がいや障がいのある方について理解してほしい

▼希望の程度

障がいや障がいのある方への理解について、全体で『思う』が69.2%となっています。

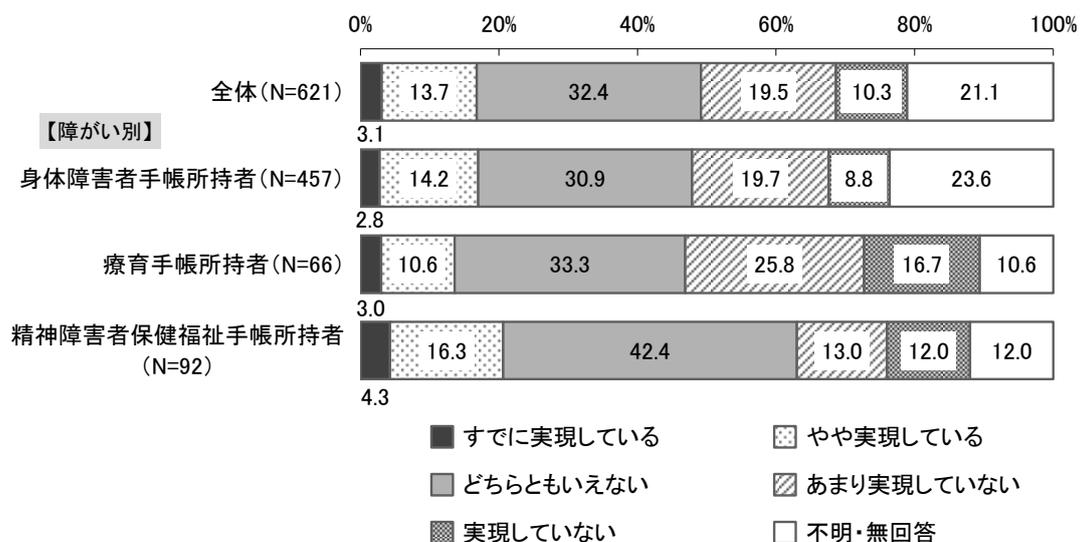
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者が66.7%、療育手帳所持者が89.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者が70.6%となっています。



▼実現の程度

障がいや障がいのある方について理解してほしいかについて、全体で『実現している』が16.8%となっています。

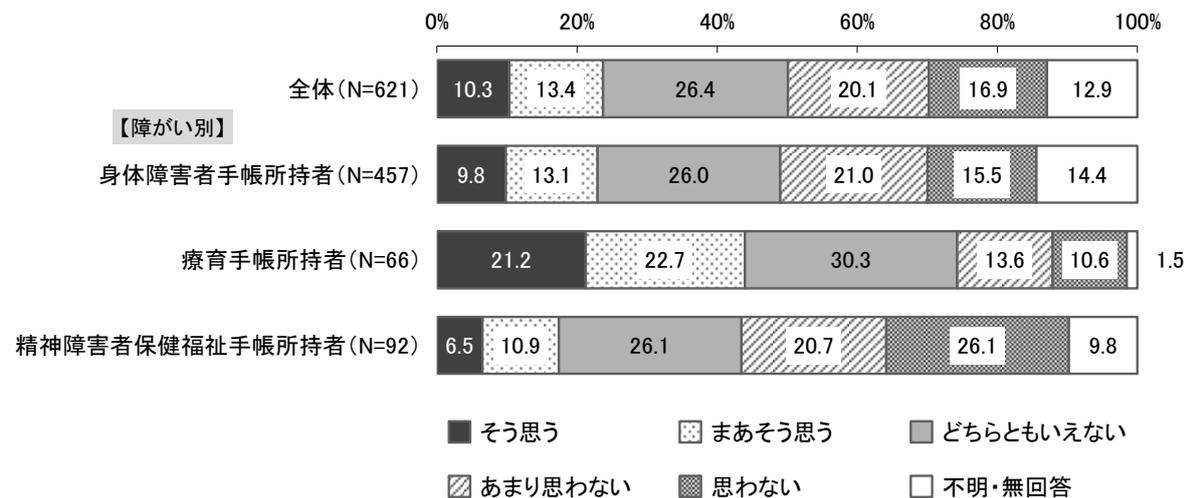
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者が17.0%、療育手帳所持者が13.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者が20.6%となっています。



②地域のボランティアと知り合いになりたい

▼希望の程度

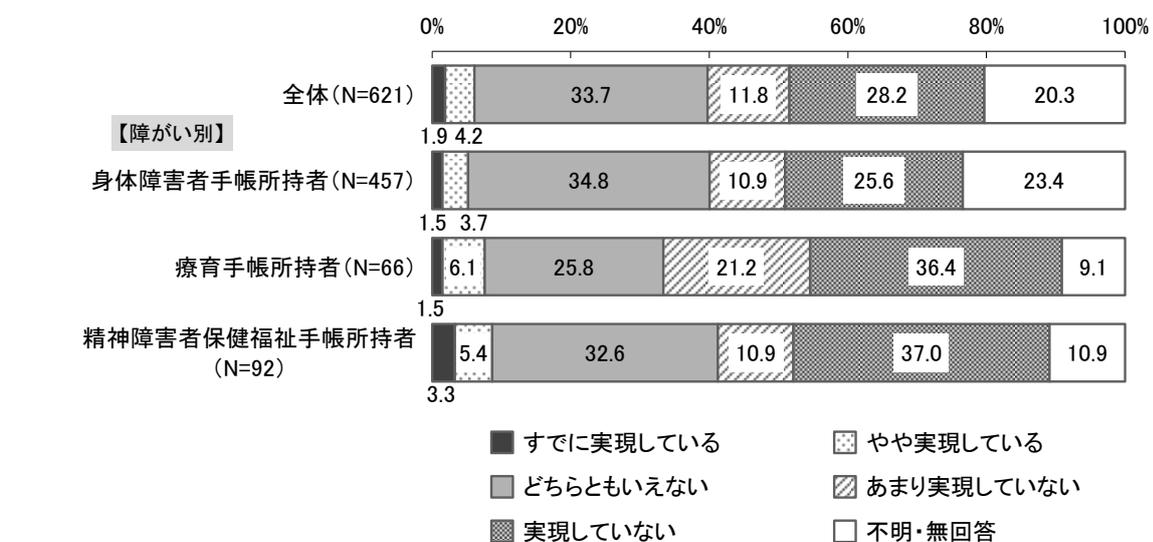
地域のボランティアと知り合いになりたいかについて、全体で『思う』が23.7%となっています。
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で22.9%、療育手帳所持者で43.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で17.4%となっています。



▼実現の程度

地域のボランティアと知り合いになりたいかについて、全体で『実現している』が6.1%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で5.2%、療育手帳所持者で7.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7%となっています。

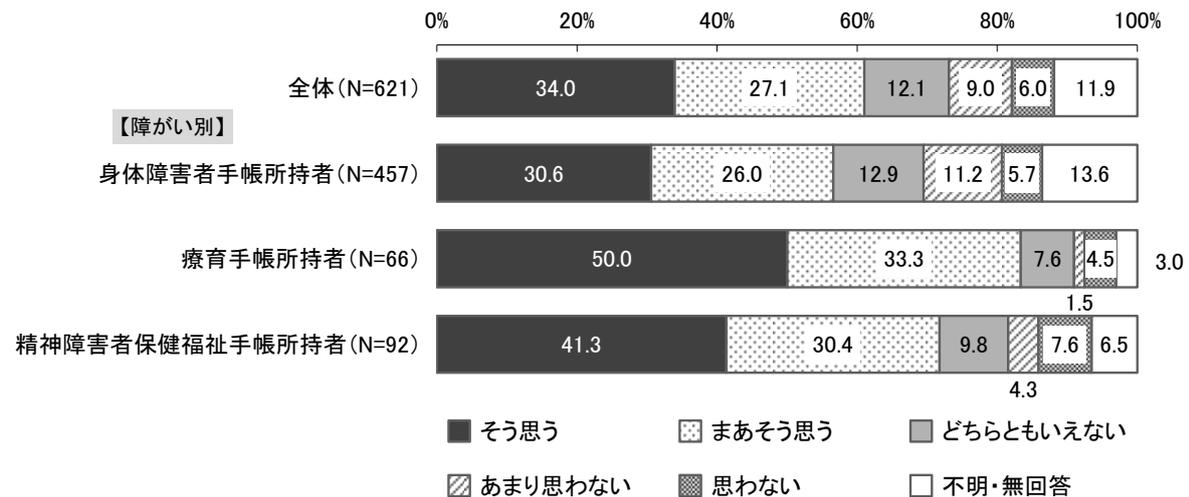


③生活上の困りごとを相談できる人がいるとよい

▼希望の程度

生活上の困りごとを相談できる人がいるとよいかについて、全体で『思う』が61.1%となっています。

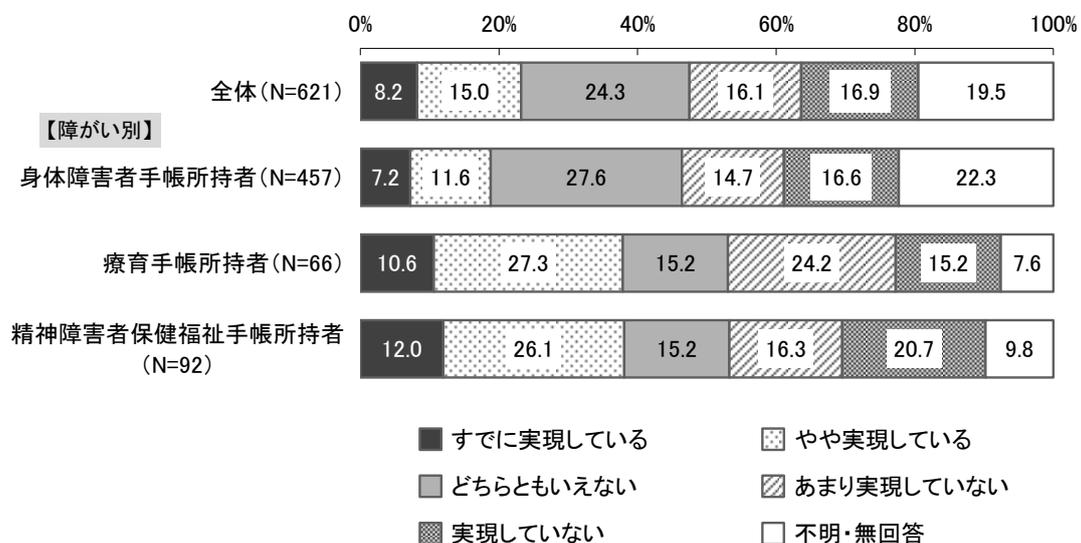
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で56.6%、療育手帳所持者で83.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で71.7%となっています。



▼実現の程度

生活上の困りごとを相談できる人がいるとよいかについて、全体で『実現している』が23.2%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で18.8%、療育手帳所持者で37.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で38.1%となっています。

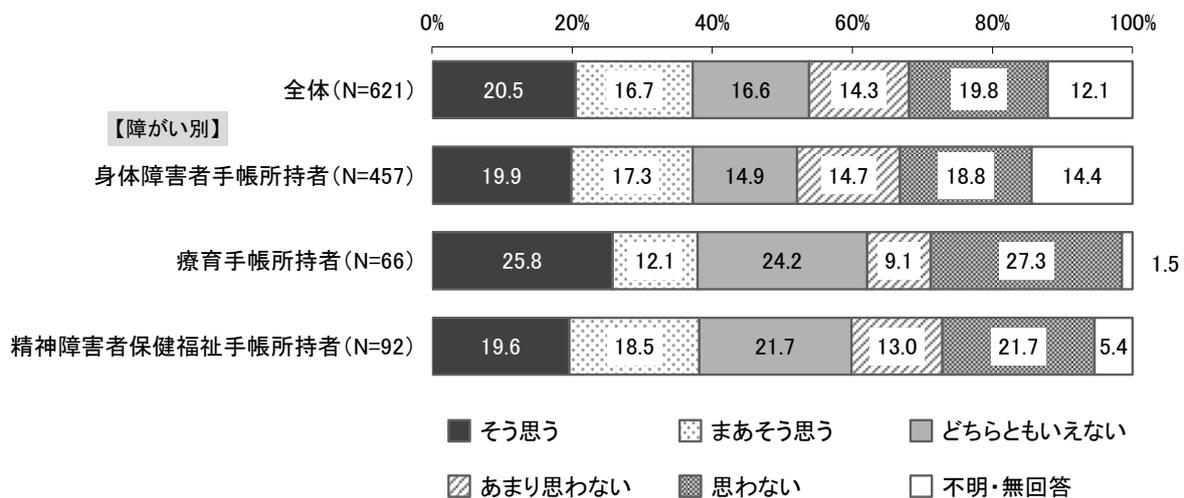


④今の住まいをもっと住みやすく、また、介助しやすいように改修したい

▼希望の程度

今の住まいをもっと住みやすく、また、介助しやすいように改修したいかについて、全体で『思う』が37.2%となっています。

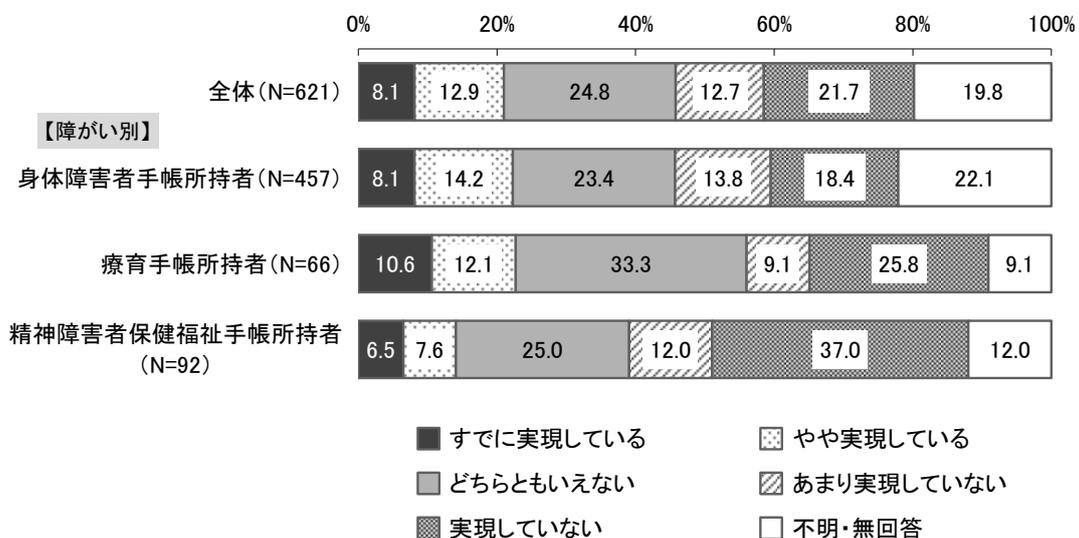
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で37.2%、療育手帳所持者で37.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で38.1%となっています。



▼実現の程度

今の住まいをもっと住みやすく、また、介助しやすいように改修したいかについて、全体で『実現している』が21.0%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で22.3%、療育手帳所持者で22.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で14.1%となっています。

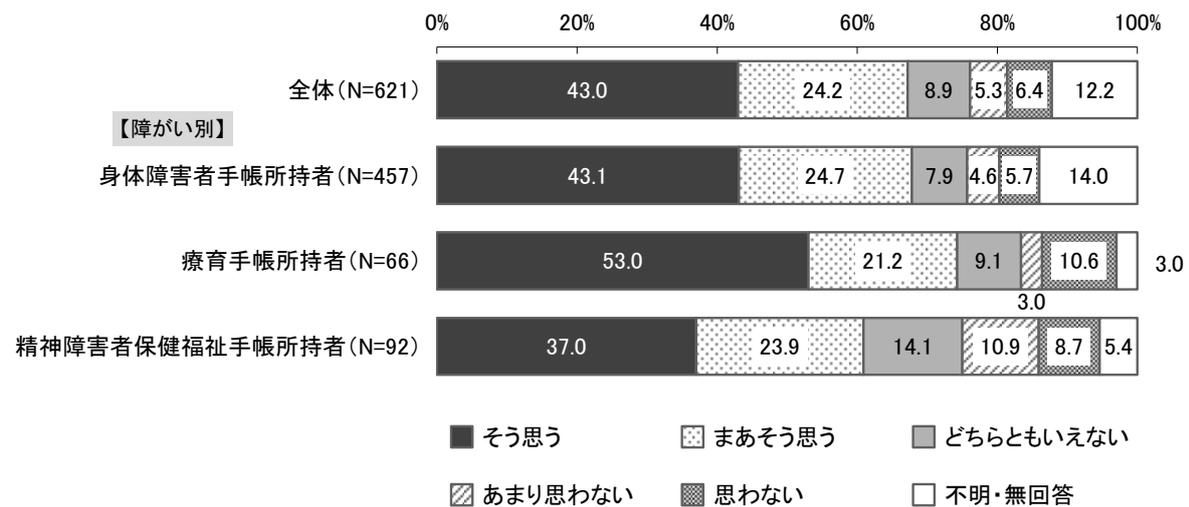


⑤地震などの災害の時、安否を確認してほしい

▼希望の程度

地震などの災害の時、安否を確認してほしいかについて、全体で『思う』が67.2%となっています。

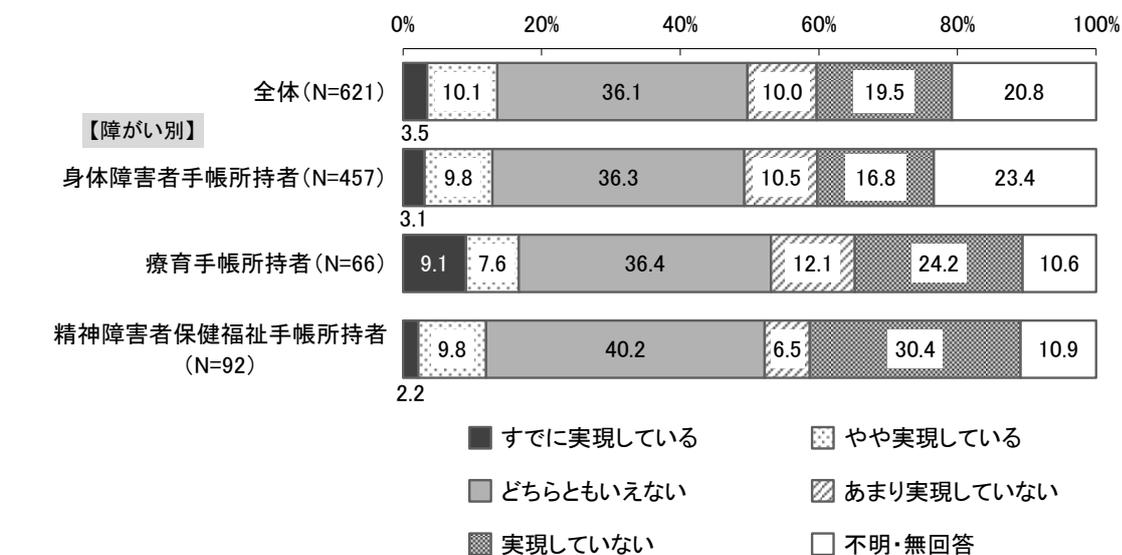
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で67.8%、療育手帳所持者で74.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者で60.9%となっています。



▼実現の程度

地震などの災害の時、安否を確認してほしいかについて、全体で『実現している』が13.6%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で12.9%、療育手帳所持者で16.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で12.0%となっています。

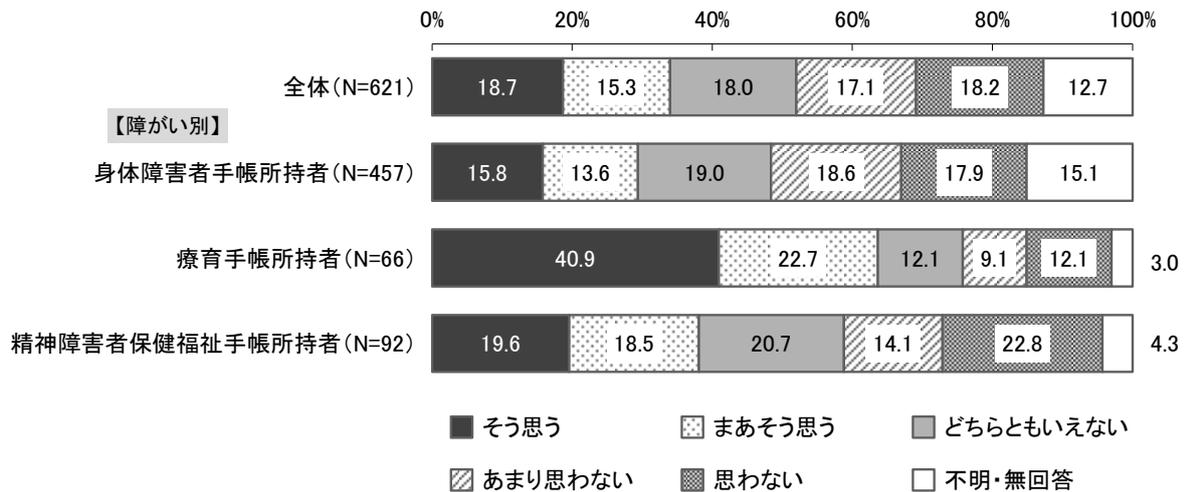


⑥仲間同士での集まり、一人でも参加できる場所がほしい

▼希望の程度

仲間同士での集まり、一人でも参加できる場所がほしいかについて、全体で『思う』が34.0%となっています。

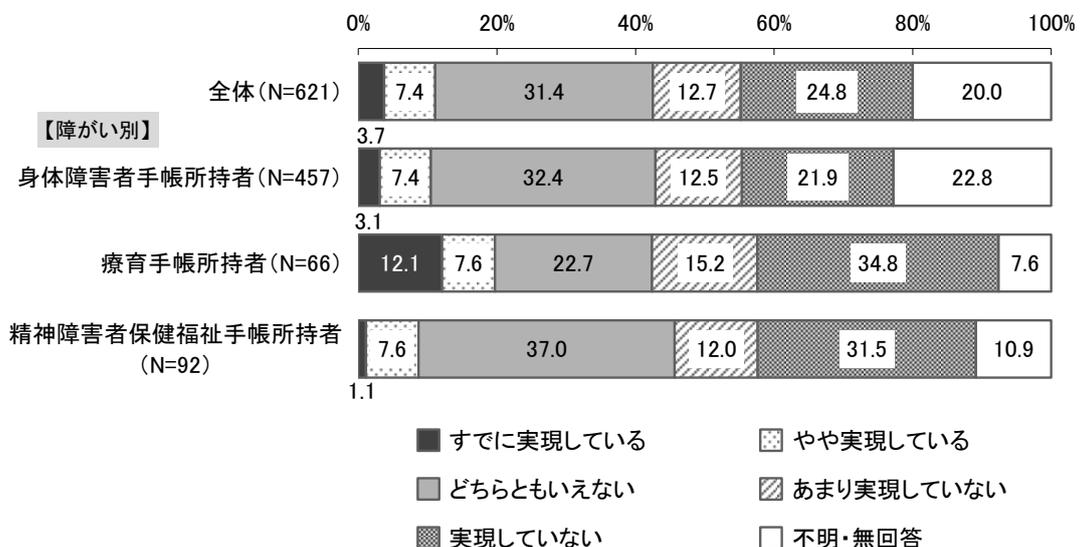
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で29.4%、療育手帳所持者で63.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で38.1%となっています。



▼実現の程度

仲間同士での集まり、一人でも参加できる場所がほしいかについて、全体で『実現している』が11.1%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で10.5%、療育手帳所持者で19.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7%となっています。

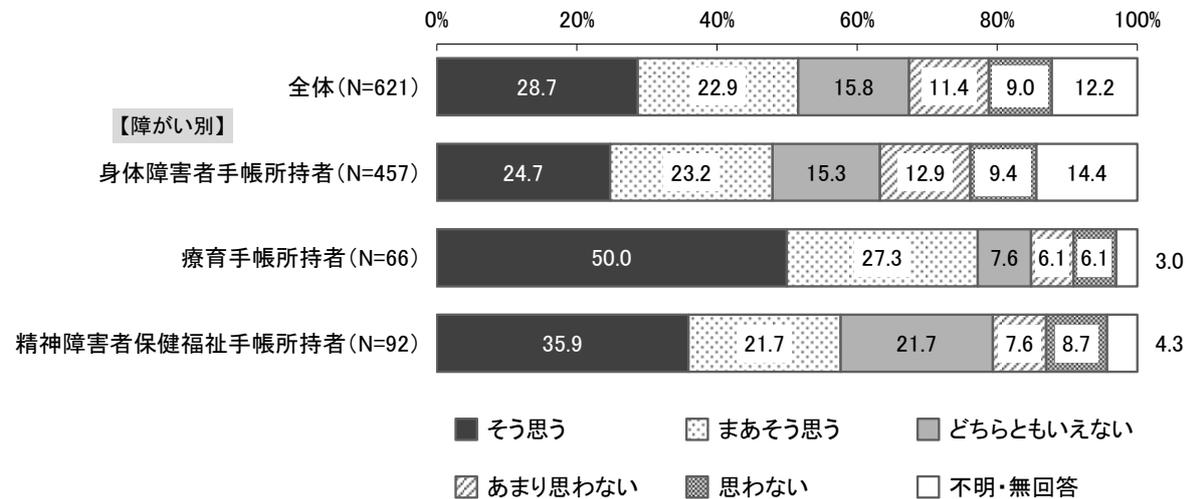


⑦買い物や旅行など余暇を充実させたい

▼希望の程度

買い物や旅行など余暇を充実させたいかについて、全体で『思う』が51.6%となっています。

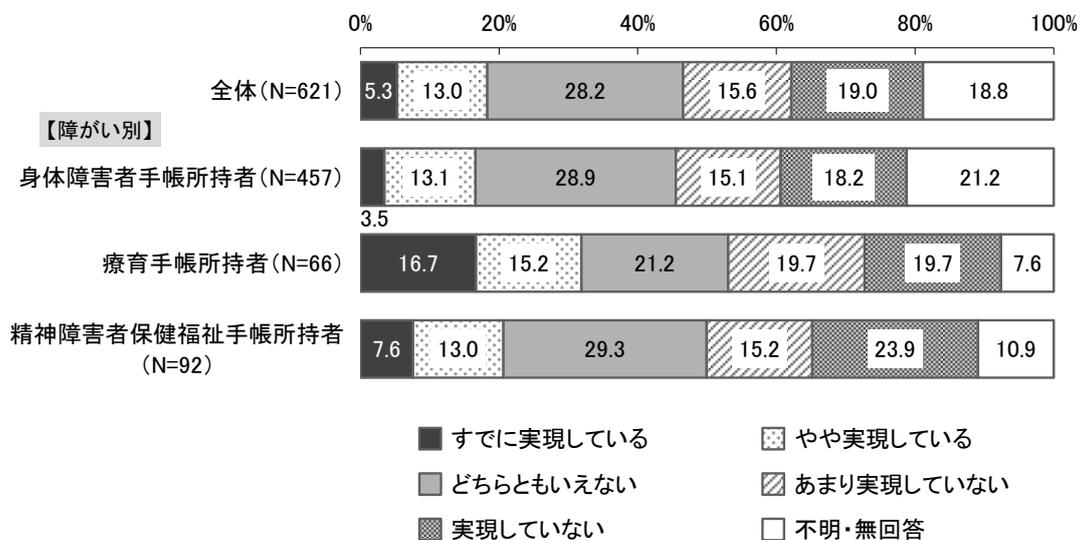
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で47.9%、療育手帳所持者で77.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で57.6%となっています。



実現の程度

買い物や旅行など余暇を充実させたいかについて、全体で『実現している』が18.3%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で16.6%、療育手帳所持者で31.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で20.6%となっています。

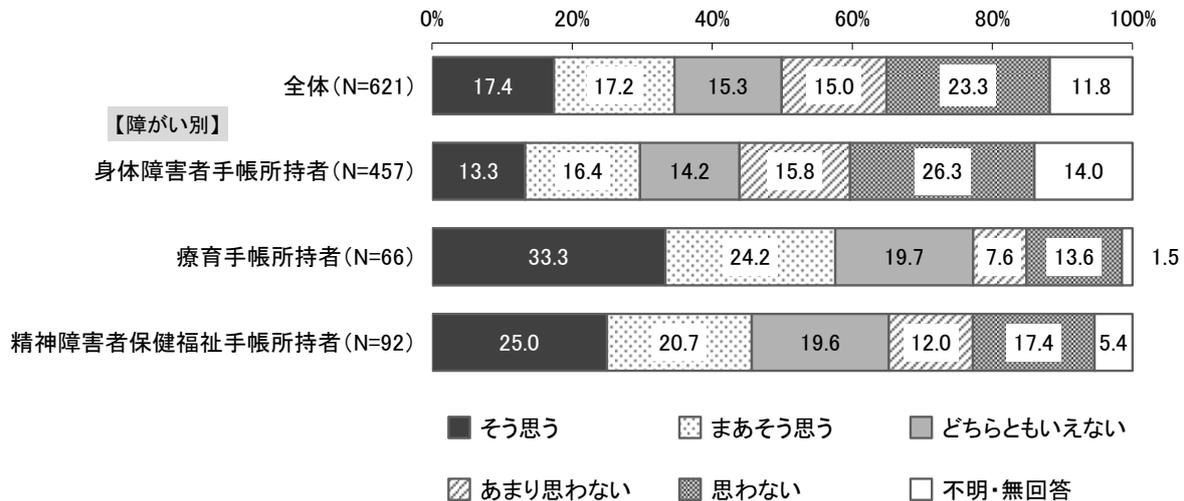


⑧スポーツや運動をしたい

▼希望の程度

スポーツや運動をしたいかについて、全体で『思う』が34.6%となっています。

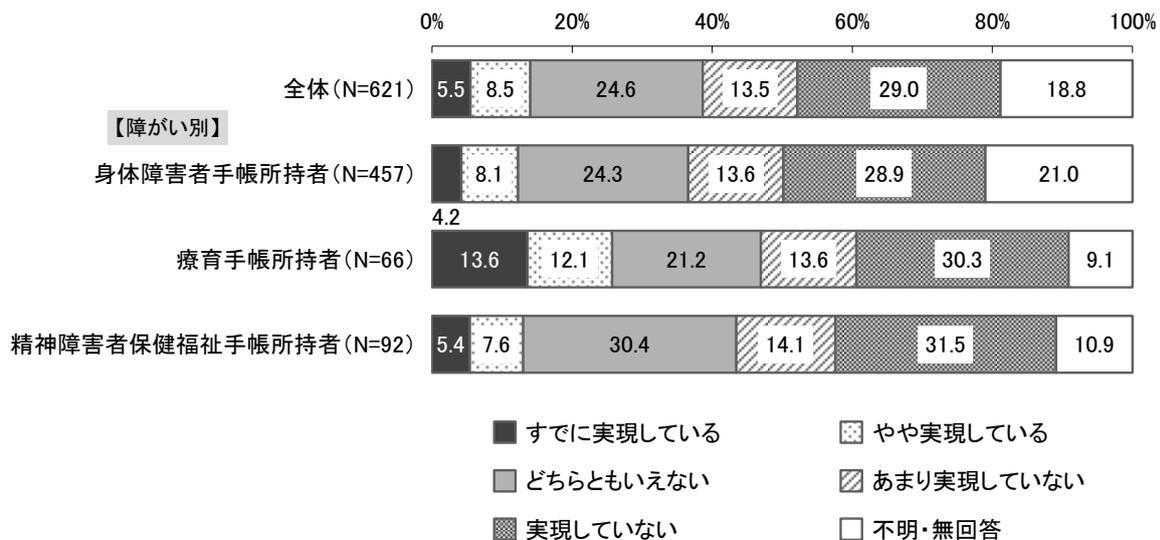
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で29.7%、療育手帳所持者で57.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者で45.7%となっています。



▼実現の程度

スポーツや運動をしたいかについて、全体で『実現している』が14.0%となっています。

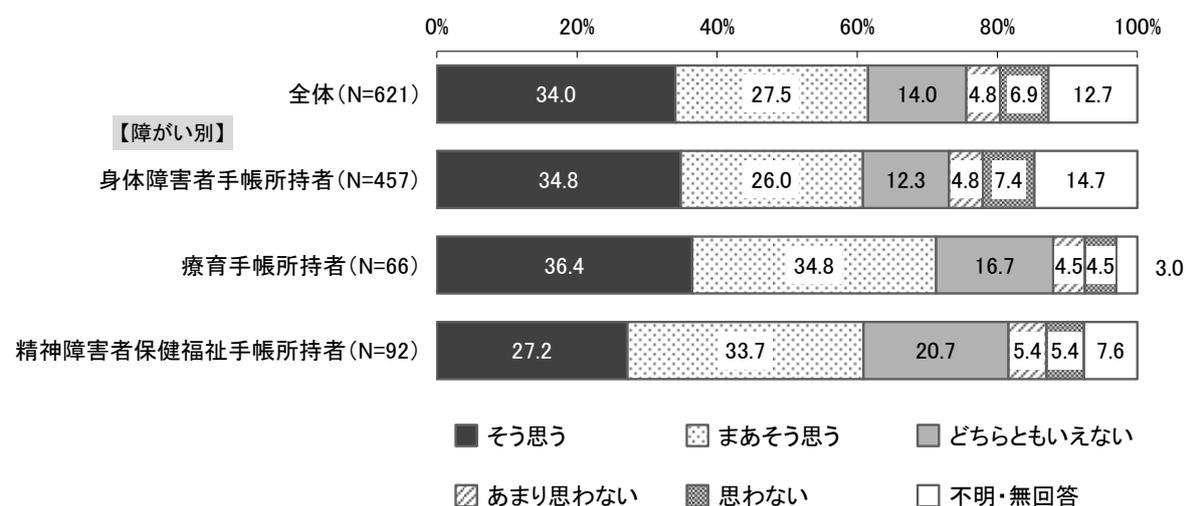
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で12.3%、療育手帳所持者で25.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で13.0%となっています。



⑨ バリアフリーな場所がもっと増えるとよい

▼希望の程度

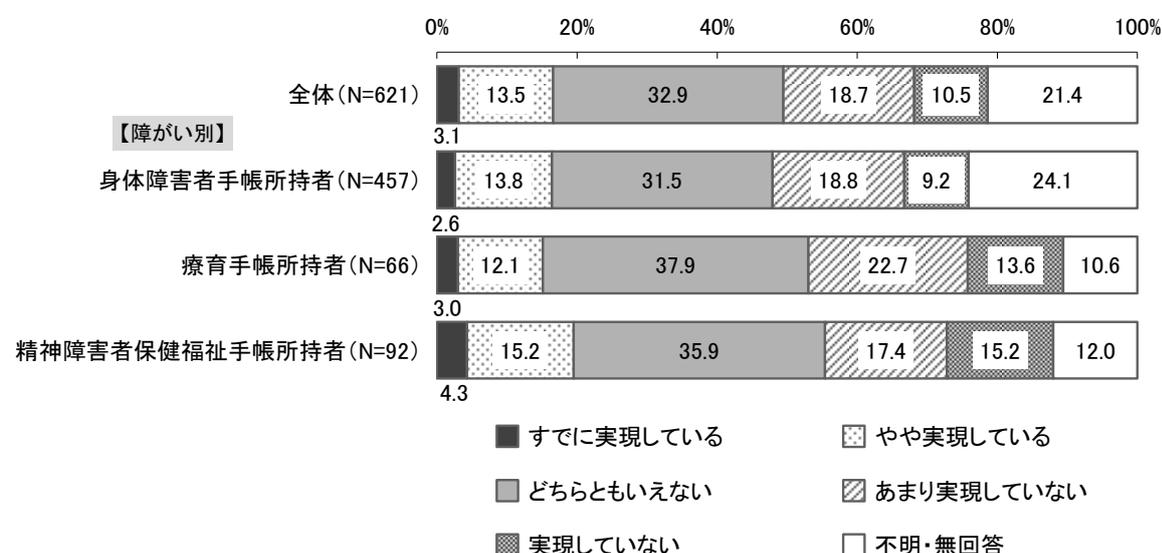
バリアフリーな場所がもっと増えるとよいかについて、全体で『思う』が61.5%となっています。
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で60.8%、療育手帳所持者で71.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者で60.9%となっています。



▼実現の程度

バリアフリーな場所がもっと増えるとよいかについて、全体で『実現している』が16.6%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で16.4%、療育手帳所持者で15.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で19.5%となっています。

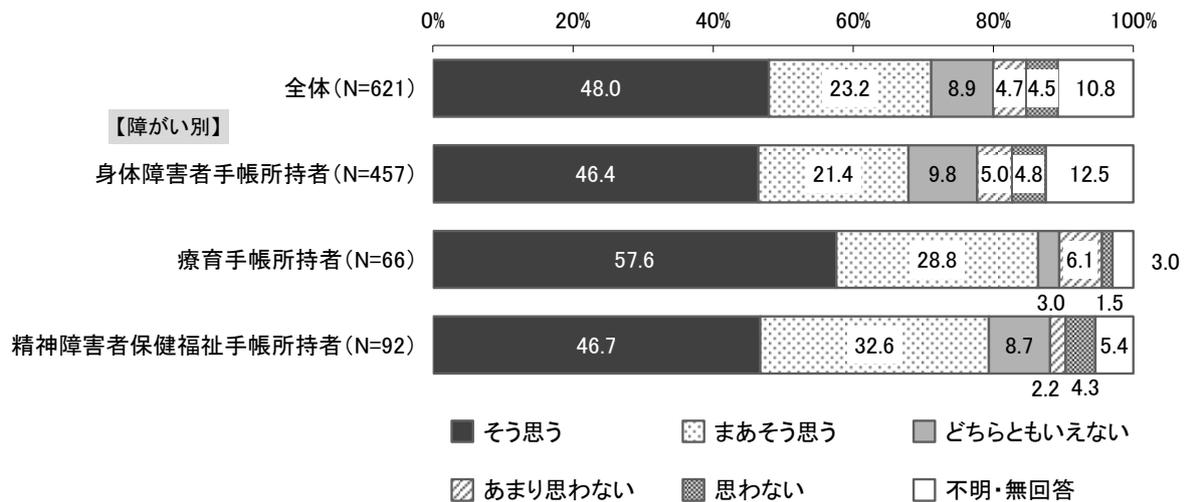


⑩公共交通機関(バス・鉄道)などが利用しやすくなるとうい

▼希望の程度

公共交通機関(バス・鉄道)などが利用しやすくなるとういかにについて、全体で『思う』が71.2%となっています。

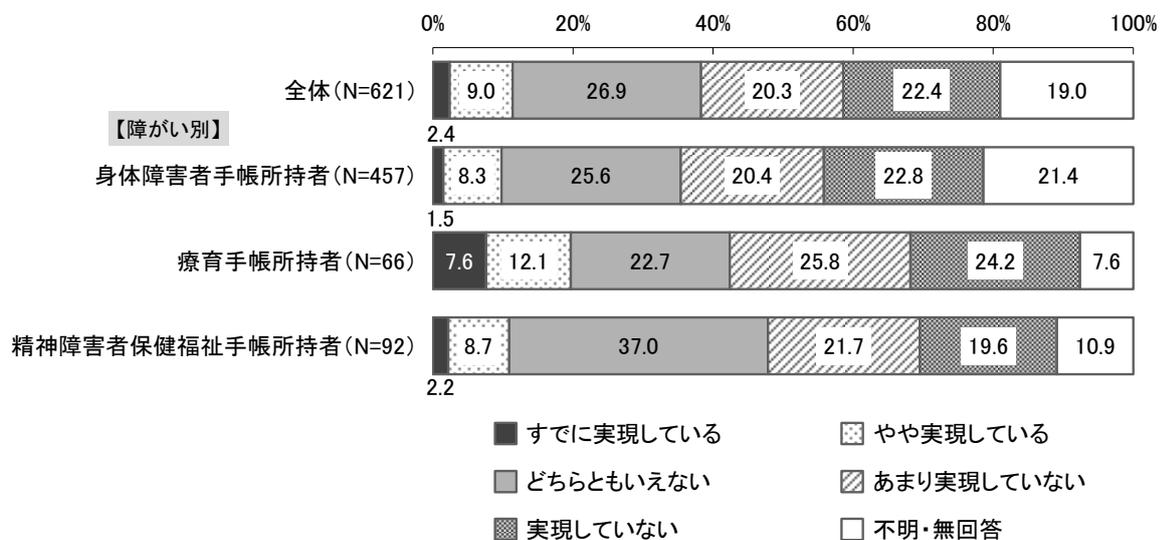
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で67.8%、療育手帳所持者で86.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で79.3%となっています。



▼実現の程度

公共交通機関(バス・鉄道)などが利用しやすくなるとういかにについて、全体で『実現している』が11.4%となっています。

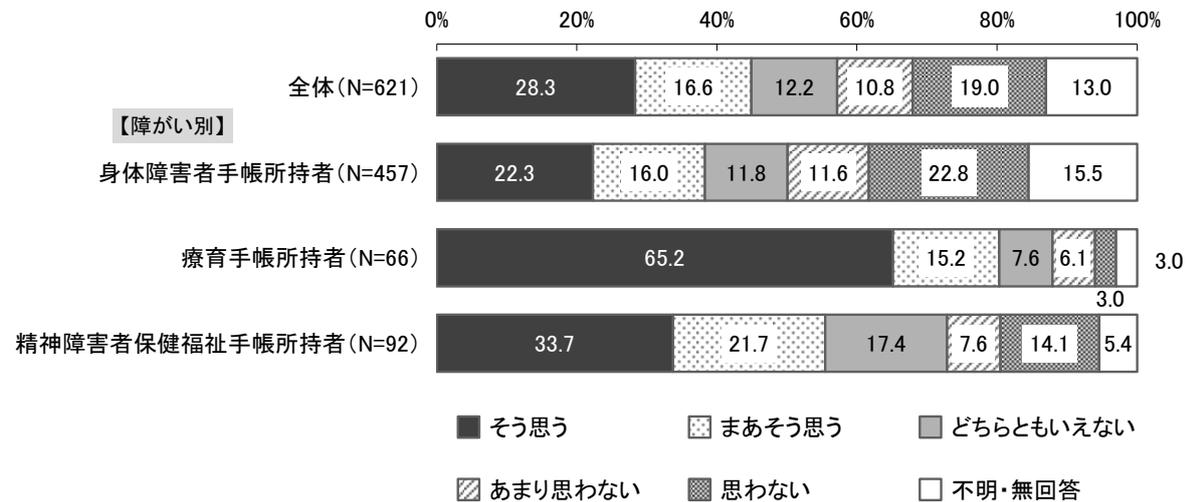
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で9.8%、療育手帳所持者で19.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で10.9%となっています。



⑪ 自分にあった仕事や作業をしたい

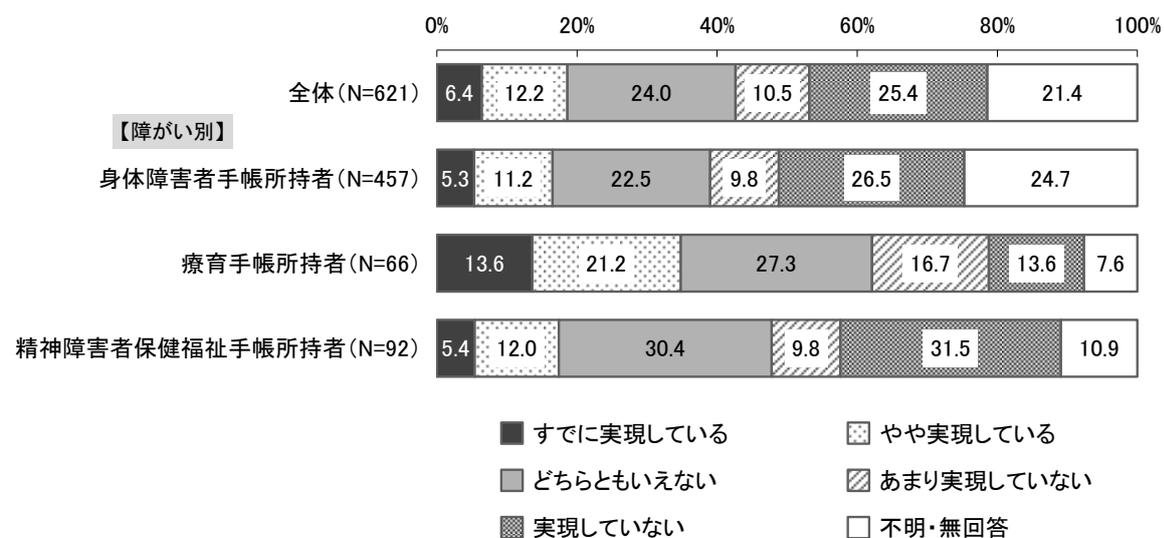
▼希望の程度

自分にあった仕事や作業をしたいかについて、全体で『思う』が44.9%となっています。
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で38.3%、療育手帳所持者で80.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で55.4%となっています。



▼実現の程度

自分にあった仕事や作業をしたいかについて、全体で『実現している』が18.6%となっています。
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で16.5%、療育手帳所持者で34.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者で17.4%となっています。

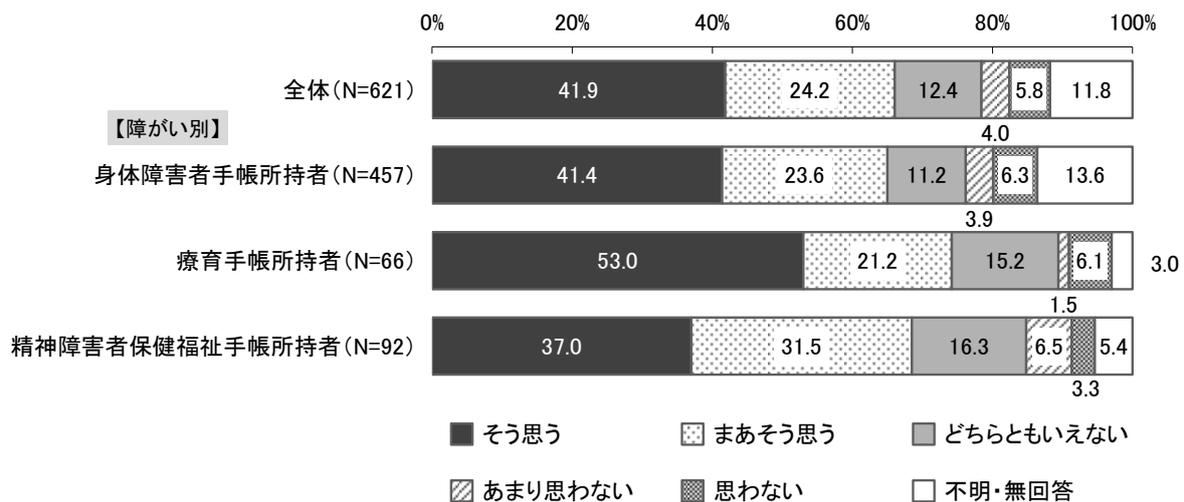


⑫家族や支援者の支援を受けながらも、できるだけ自立した生活をしたい

▼希望の程度

家族や支援者の支援を受けながらも、できるだけ自立した生活をしたいかについて、全体で『思う』が66.1%となっています。

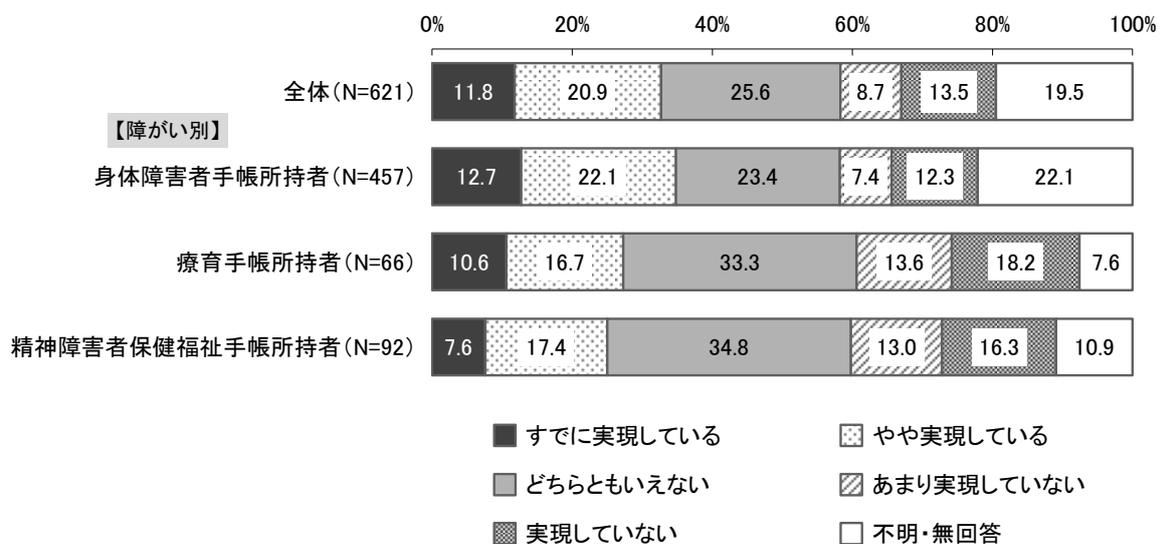
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で65.0%、療育手帳所持者で74.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者で68.5%となっています。



▼実現の程度

家族や支援者の支援を受けながらも、できるだけ自立した生活をしたいかについて、全体で『実現している』が32.7%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で34.8%、療育手帳所持者で27.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で25.0%となっています。

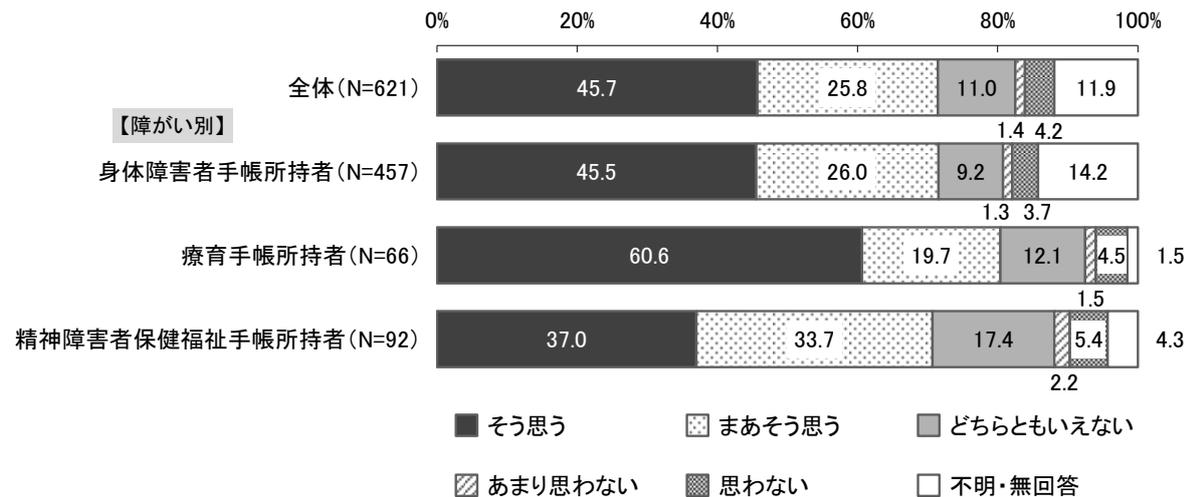


⑬ 介助する家族などの健康管理にも気を配りたい

▼希望の程度

介助する家族などの健康管理にも気を配りたいかについて、全体で『思う』が71.5%となっています。

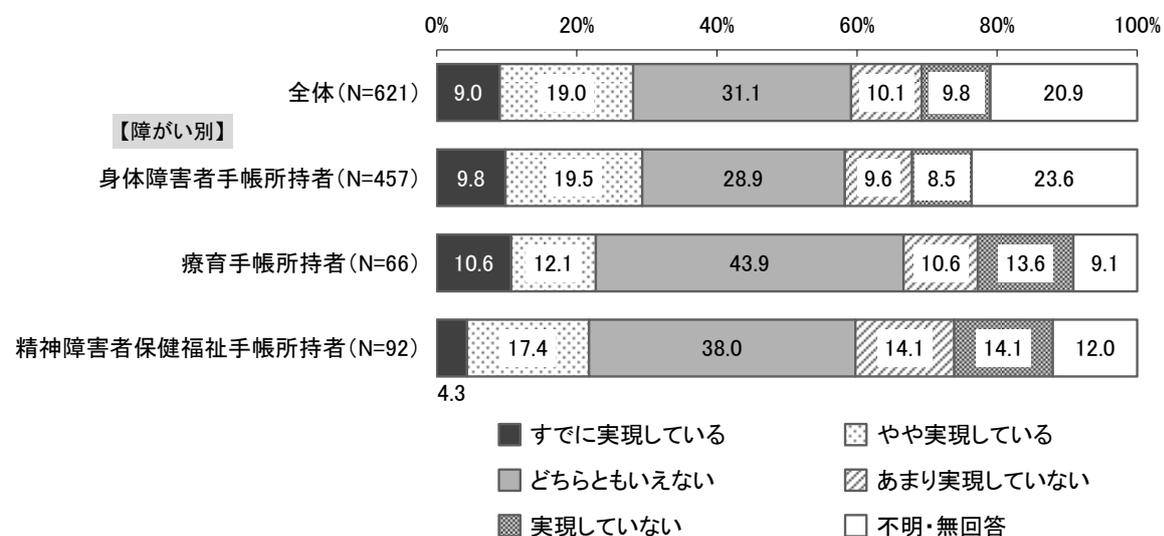
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で71.5%、療育手帳所持者で80.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で70.7%となっています。



▼実現の程度

介助する家族などの健康管理にも気を配りたいかについて、全体で『実現している』が28.0%となっています。

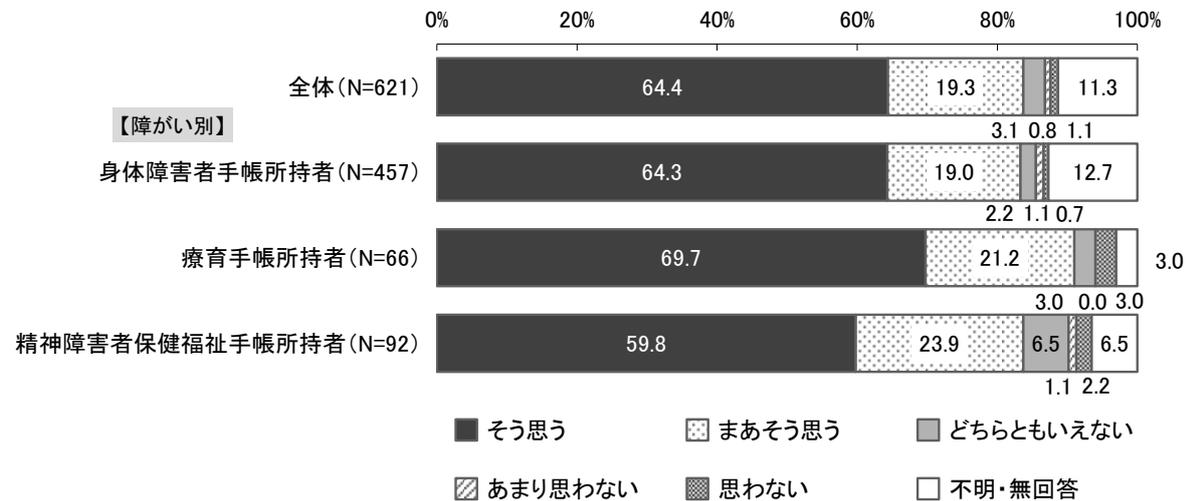
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で29.3%、療育手帳所持者で22.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で21.7%となっています。



⑭信頼できる「かかりつけ医」がいるとよい

▼希望の程度

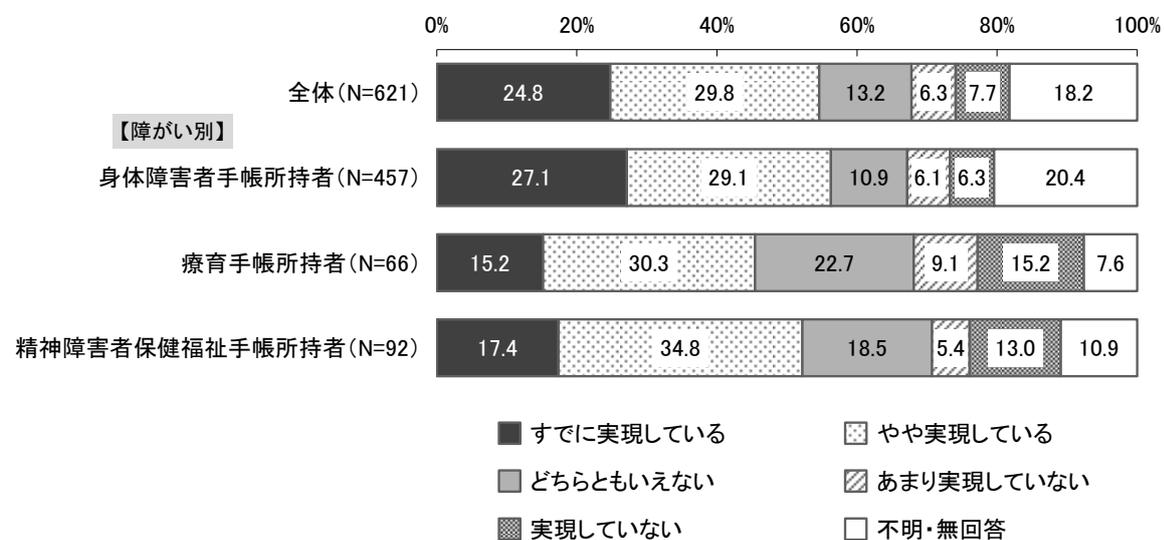
信頼できる「かかりつけ医」がいるとよいかについて、全体で『思う』が83.7%となっています。
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で83.3%、療育手帳所持者で90.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で83.7%となっています。



▼実現の程度

信頼できる「かかりつけ医」がいるとよいかについて、全体で『実現している』が54.6%となっています。

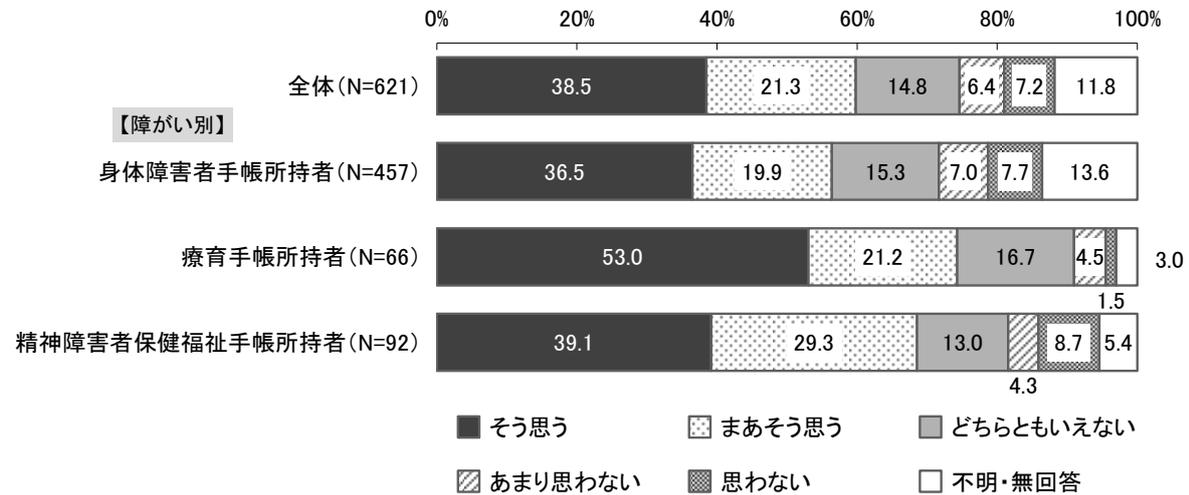
障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で56.2%、療育手帳所持者で45.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者で52.2%となっています。



⑮現在利用できるサービスをもっと知りたい

▼希望の程度

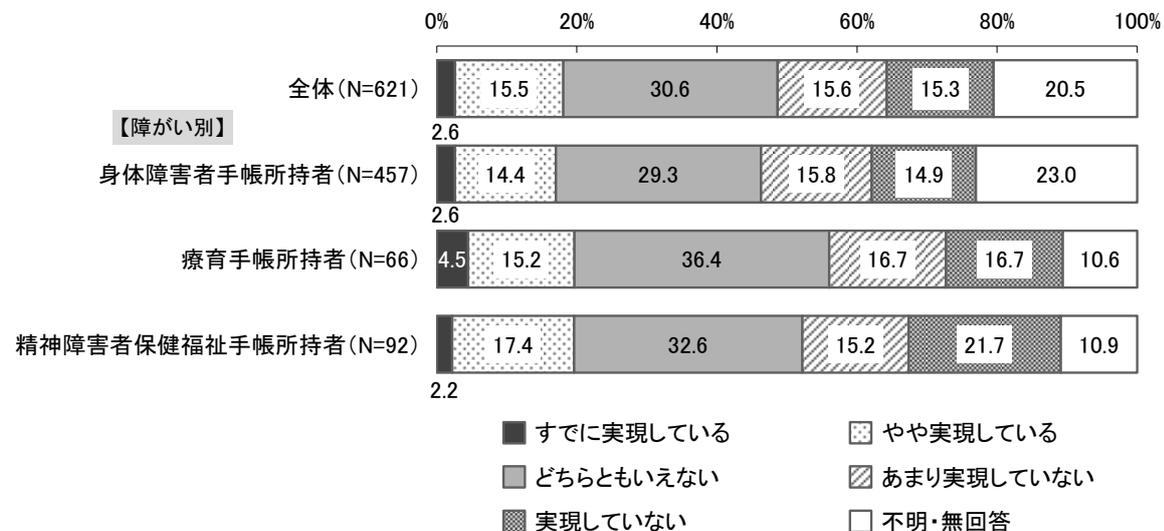
現在利用できるサービスをもっと知りたいかについて、全体で『思う』が59.8%となっています。
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で56.4%、療育手帳所持者で74.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者で68.4%となっています。



▼実現の程度

現在利用できるサービスをもっと知りたいかについて、全体で『実現している』が18.1%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で17.0%、療育手帳所持者で19.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で、19.6%となっています。

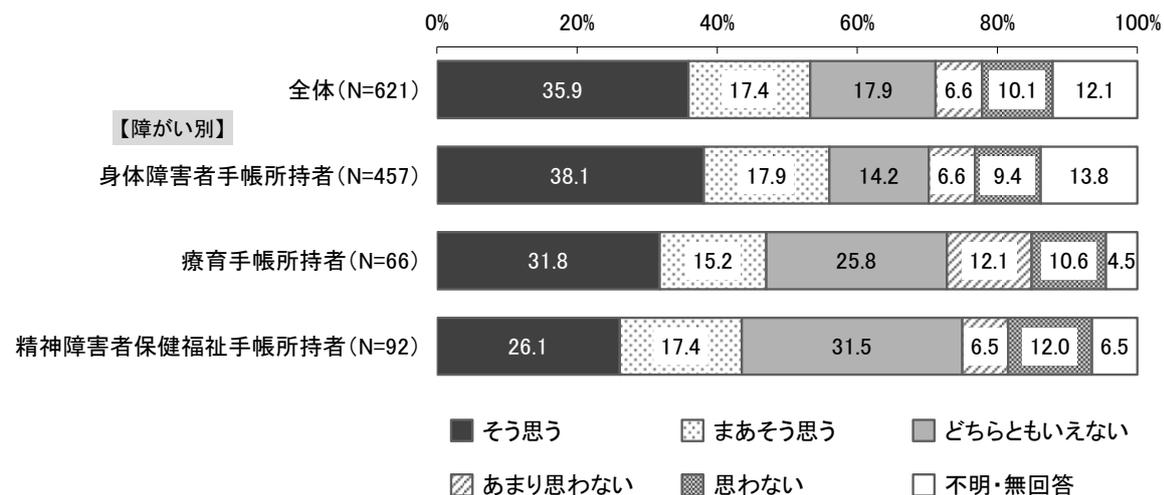


⑩ 自宅で必要な介助をしてもらいながら暮らしたい

▼希望の程度

自宅で必要な介助をしてもらいながら暮らしたいかについて、全体で『思う』が53.3%となっています。

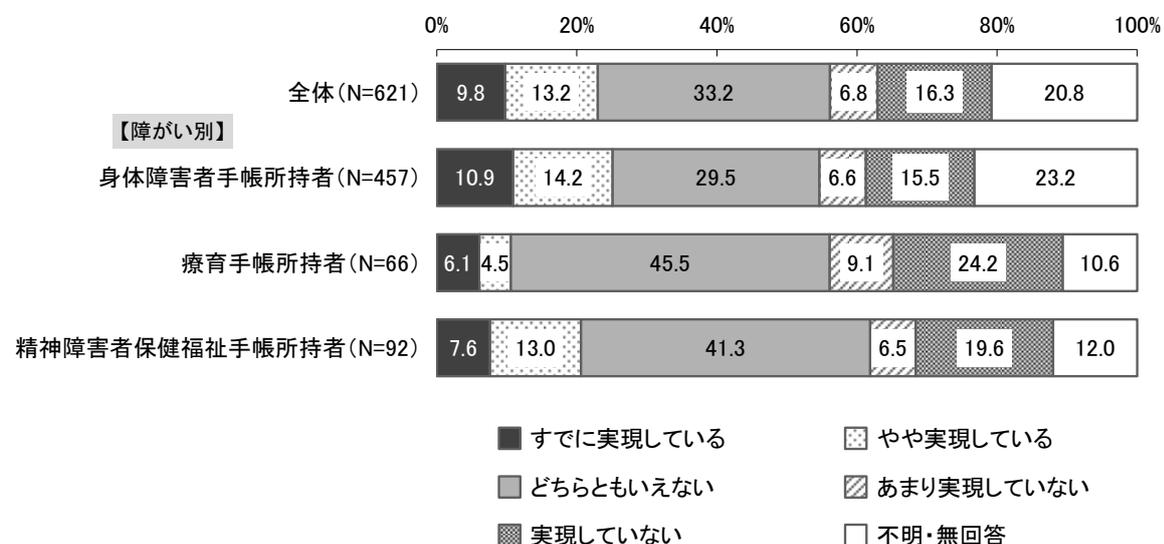
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で56.0%、療育手帳所持者で47.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で43.5%となっています。



▼実現の程度

自宅で必要な介助をしてもらいながら暮らしたいかについて、全体で『実現している』が23.0%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で25.1%、療育手帳所持者で10.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で20.6%となっています。

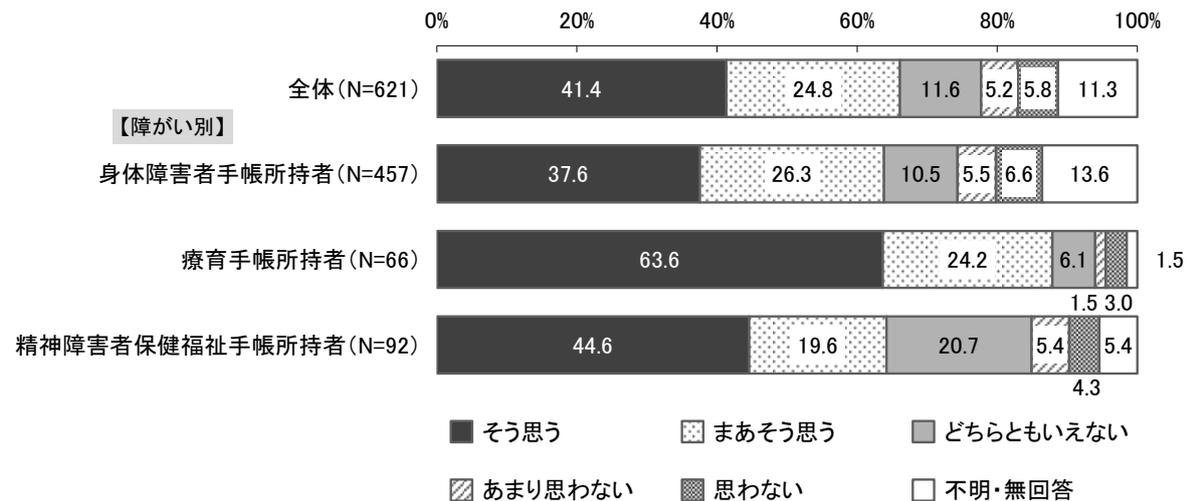


⑰自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたい

▼希望の程度

自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたいかについて、全体で『思う』が66.2%となっています。

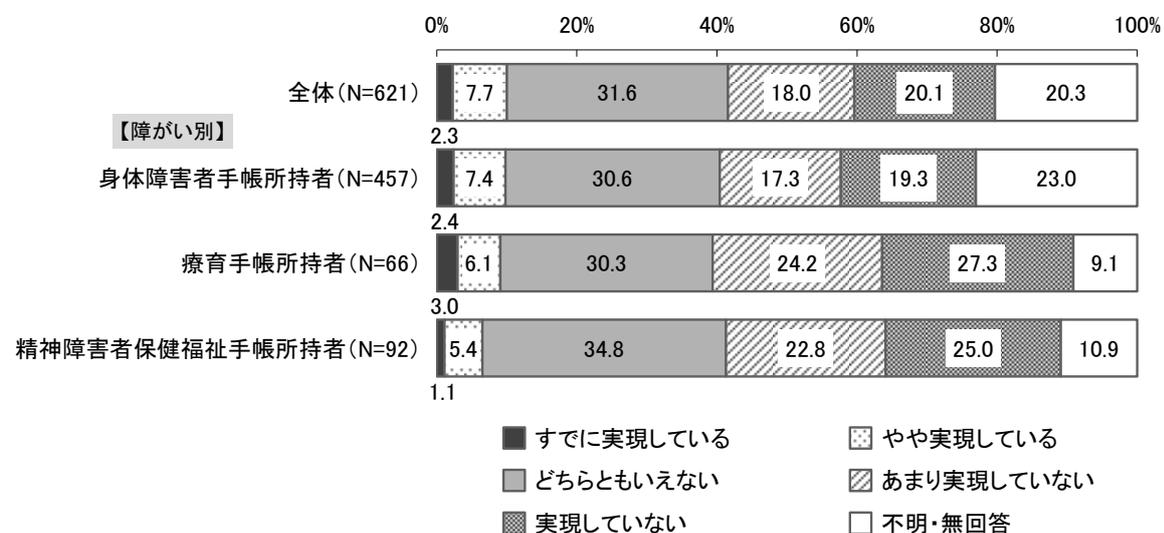
障がい別にみると、『思う』が身体障害者手帳所持者で63.9%、療育手帳所持者で87.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者で64.2%となっています。



▼実現の程度

自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたいかについて、全体で『実現している』が10.0%となっています。

障がい別にみると、『実現している』が身体障害者手帳所持者で9.8%、療育手帳所持者で9.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で6.5%となっています。



3 介助の状況について、おうかがいします。

問 22 次の①～③のことをするのに介助が必要ですか。

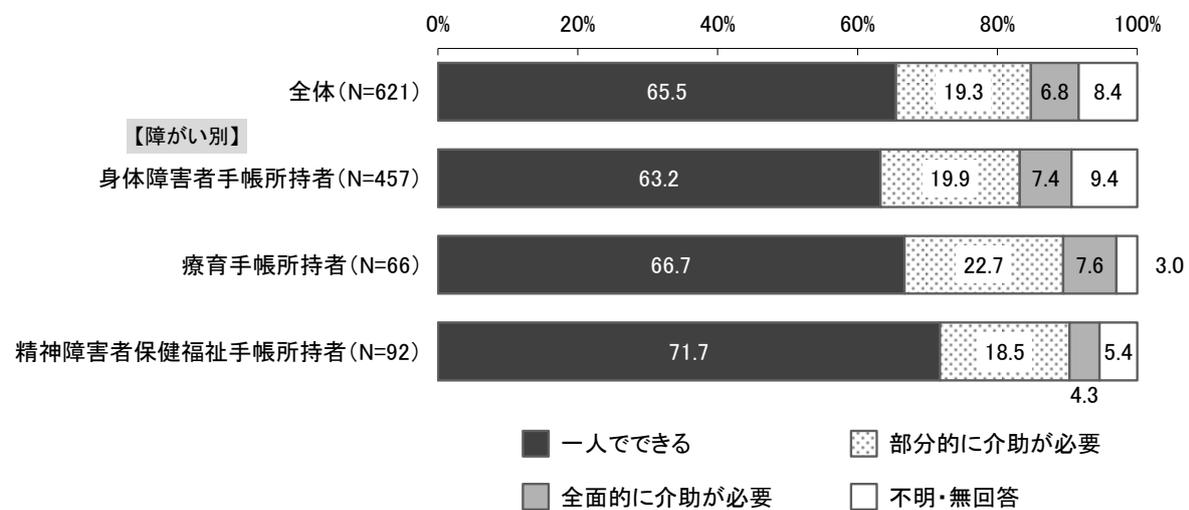
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『介助が必要』 …「部分的に介助が必要」と「全面的に介助が必要」の合算

①身のまわりのこと(食事・入浴・着がえなど)

身のまわりのこと（食事・入浴・着がえなど）をするのに介助が必要かについて、全体で「一人
でできる」が65.5%、『介助が必要』が26.1%となっています。

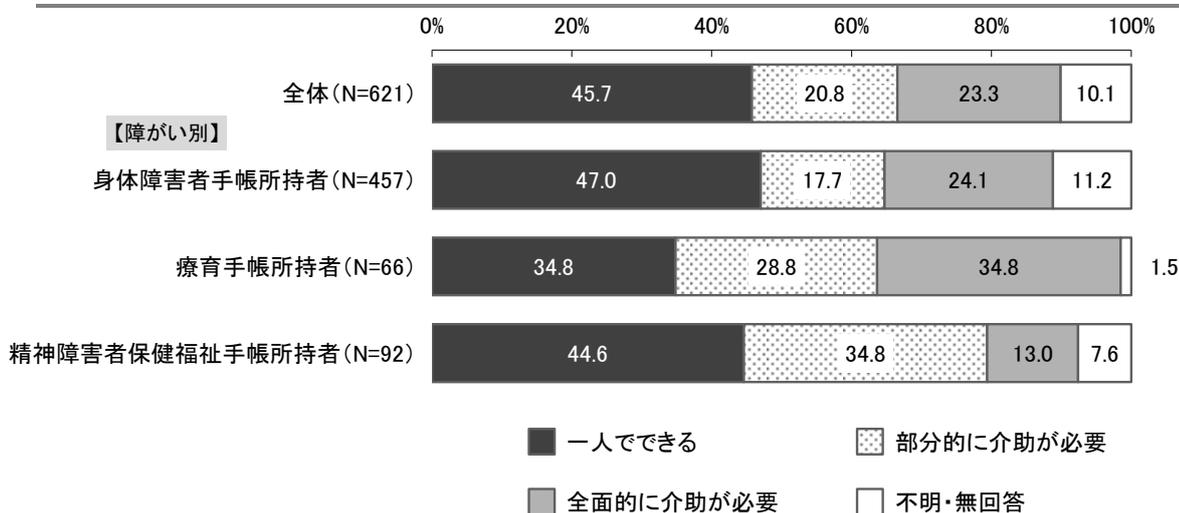
障がい別にみると、『介助が必要』が身体障害者手帳所持者で27.3%、療育手帳所持者で30.3%、
精神障害者保健福祉手帳所持者で22.8%となっています。



②洗濯・炊事などの家事

洗濯・炊事などの家事をするのに介助が必要かについて、全体で「一人でできる」が45.7%、『介助が必要』が44.1%となっています。

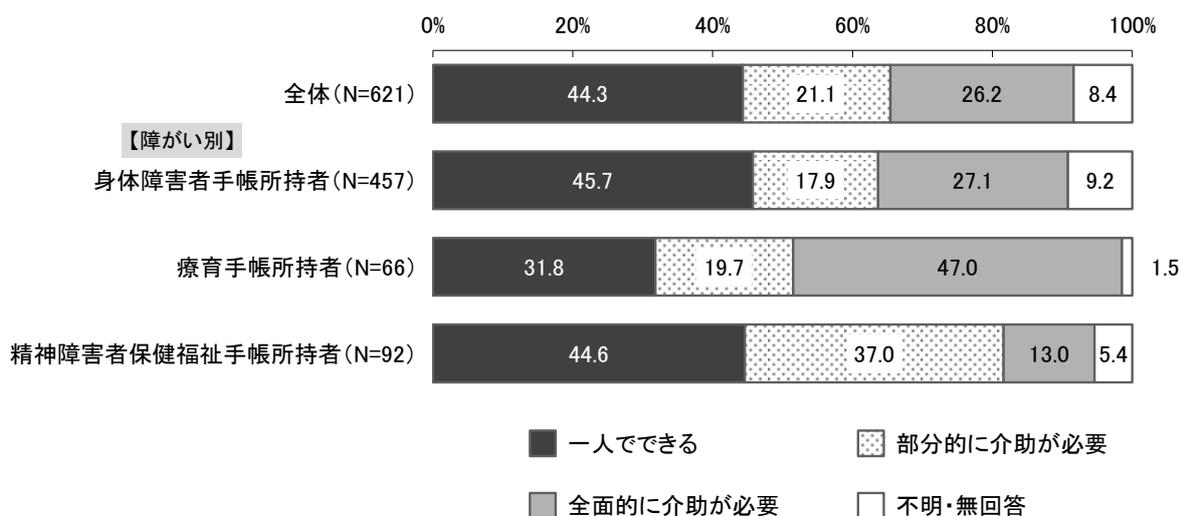
障がい別にみると、『介助が必要』が身体障害者手帳所持者が41.8%、療育手帳所持者が63.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者が47.8%となっています。



③外出(買い物、通院など)

外出(買い物、通院など)をするのに介助が必要かについて、全体で「一人でできる」が44.3%、『介助が必要』が47.3%となっています。

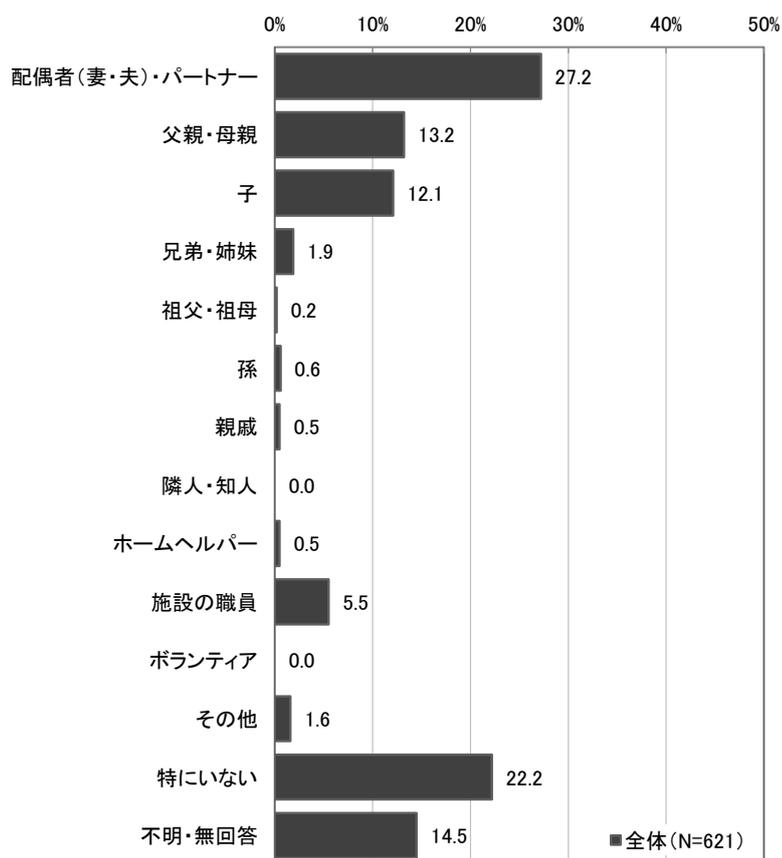
障がい別にみると、『介助が必要』が身体障害者手帳所持者が45.0%、療育手帳所持者が66.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者が50.0%となっています。特に療育手帳所持者で「全面的に解除が必要」が高くなっています。



問 23 主に介助をしている方は誰ですか。(1つに○)

主に介助をしている方について、全体で「配偶者(妻・夫)・パートナー」が27.2%と最も高く、次いで「父親・母親」が13.2%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「配偶者(妻・夫)・パートナー」が34.4%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「父親・母親」がそれぞれ53.0%、29.3%と、それぞれ最も高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	配偶者(妻・夫・パートナー)	父親・母親	子	兄弟・姉妹	祖父・祖母	孫	親戚	隣人・知人	ホームヘルパー	施設の職員
身体障害者手帳所持者	457	34.4	4.6	15.3	0.9	0.2	0.7	0.7	0.0	0.4	5.3
療育手帳所持者	66	0.0	53.0	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	8.7	29.3	4.3	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	3.3

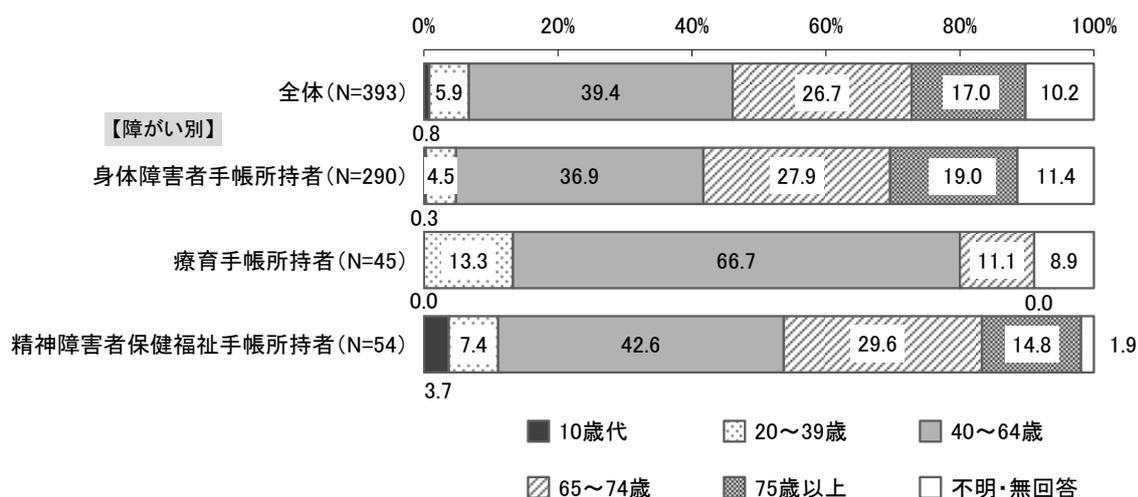
区分	N =	ボランティア	その他	特いない	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	0.0	1.1	21.0	15.5
療育手帳所持者	66	0.0	0.0	21.2	10.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	0.0	6.5	25.0	16.3

問 23 で「1～12」と答えた(介助者がいる)方に、おうかがいします。

問 24 主に介助をしている方の年齢は何歳ですか。(1つに○)

主に介助をしている方の年齢について、全体で「40～64歳」が39.4%と最も高く、次いで「65～74歳」が26.7%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「40～64歳」がそれぞれ最も高くなっています。年齢区分別にみると、75歳以上で「75歳以上」が他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位: %)

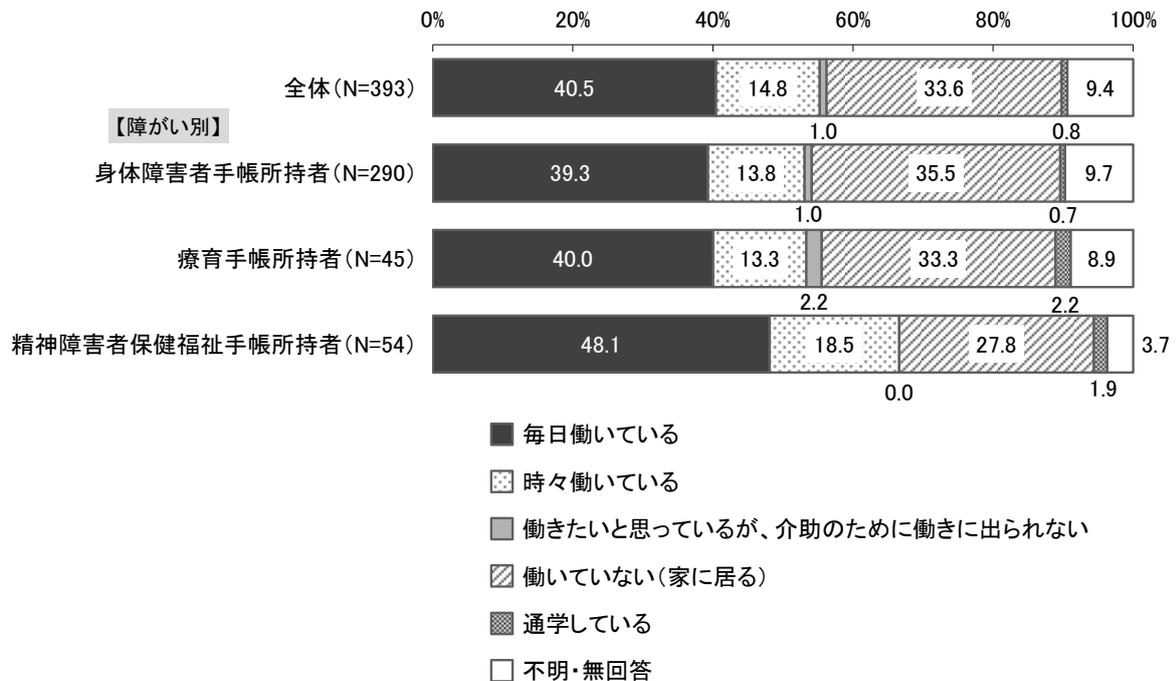
区分		N=	10歳代	20～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	19	0.0	26.3	68.4	0.0	0.0	5.3
	18～39歳	38	0.0	10.5	65.8	18.4	0.0	5.3
	40～64歳	77	3.9	6.5	42.9	26.0	13.0	7.8
	65～74歳	92	0.0	3.3	31.5	42.4	12.0	10.9
	75歳以上	154	0.0	3.2	33.1	23.4	27.9	12.3

問 23 で「1～12」と答えた(介助者がいる)方に、おうかがいします。

問 25 主に介助をしている方は、現在仕事をされていますか。(1つに○)

主に介助をしている方が現在仕事をしているかについて、全体で「毎日働いている」が40.5%と最も高く、次いで「働いていない(家に居る)」が33.6%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「毎日働いている」がそれぞれ最も高くなっています。

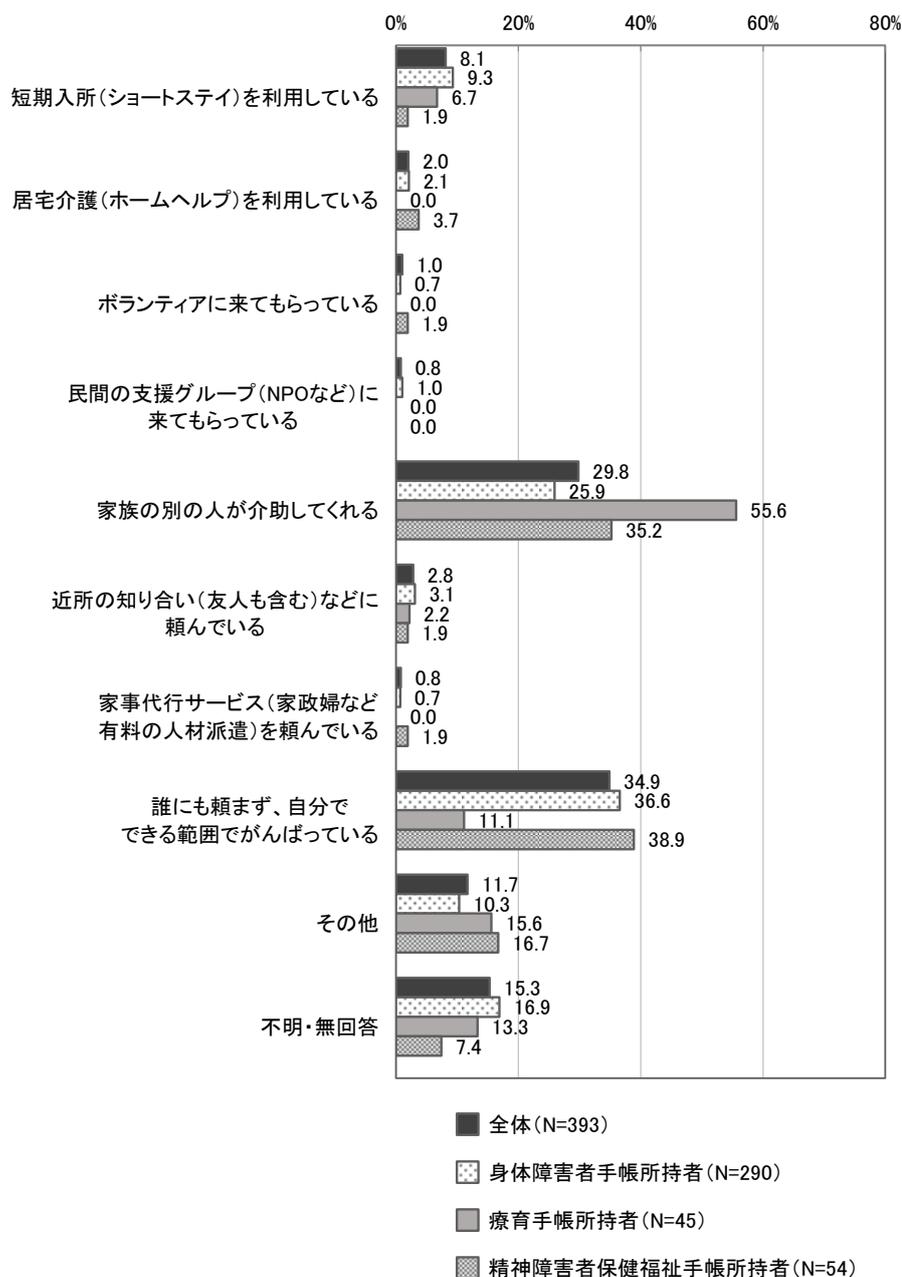


問 23 で「1～12」と答えた(介助者がいる)方に、おうかがいします。

問 26 主に介助をしている方が、病気や冠婚葬祭などで一時的に介助(介護)できない場合、どのようにされていますか。(主なもの3つまでに○)

主に介助をしている方が、病気や冠婚葬祭などで一時的に介助(介護)できない場合の対応について、全体で「誰にも頼まず、自分でできる範囲でがんばっている」が34.9%と最も高く、次いで「家族の別の人が介助してくれる」が29.8%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「誰にも頼まず、自分でできる範囲でがんばっている」がそれぞれ36.6%、38.9%、療育手帳所持者で「家族の別の人が介助してくれる」が55.6%と、それぞれ最も高くなっています。

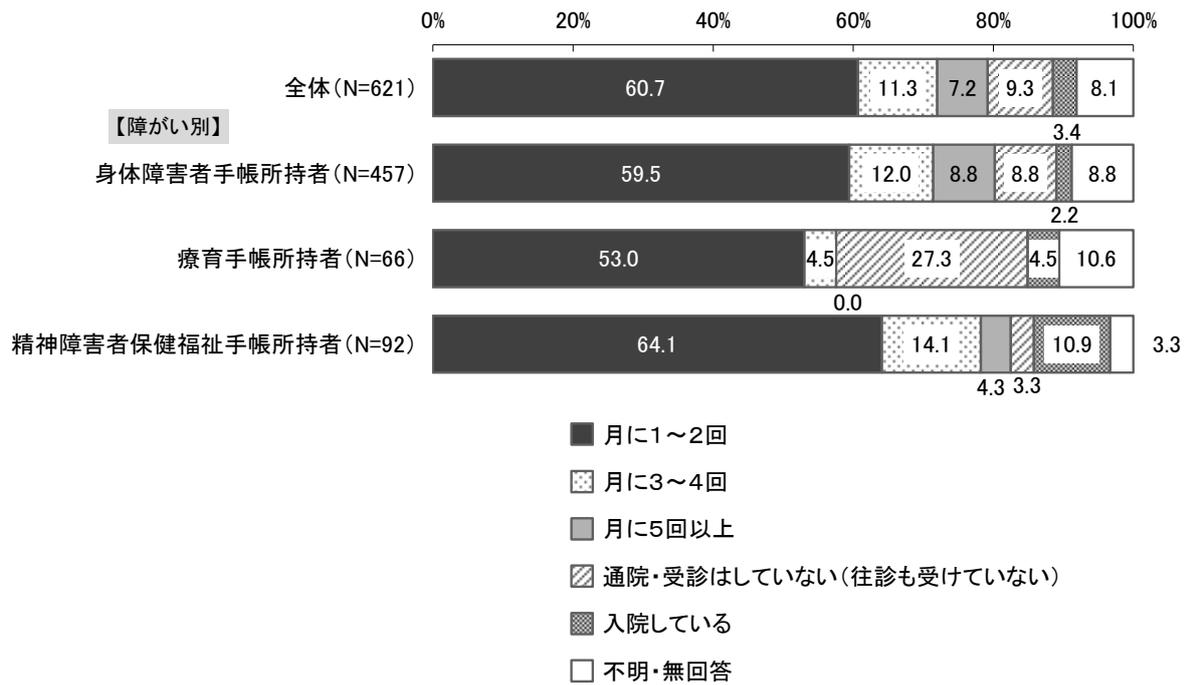


4 保健・医療について、おうかがいします。

問 27 毎月どのくらいの頻度で医療機関を受診していますか。※往診も1回とします。 (1つに○)

毎月どのくらいの頻度で医療機関を受診しているかについて、全体で「月に1～2回」が60.7%と最も高く、次いで「月に3～4回」が11.3%となっています。

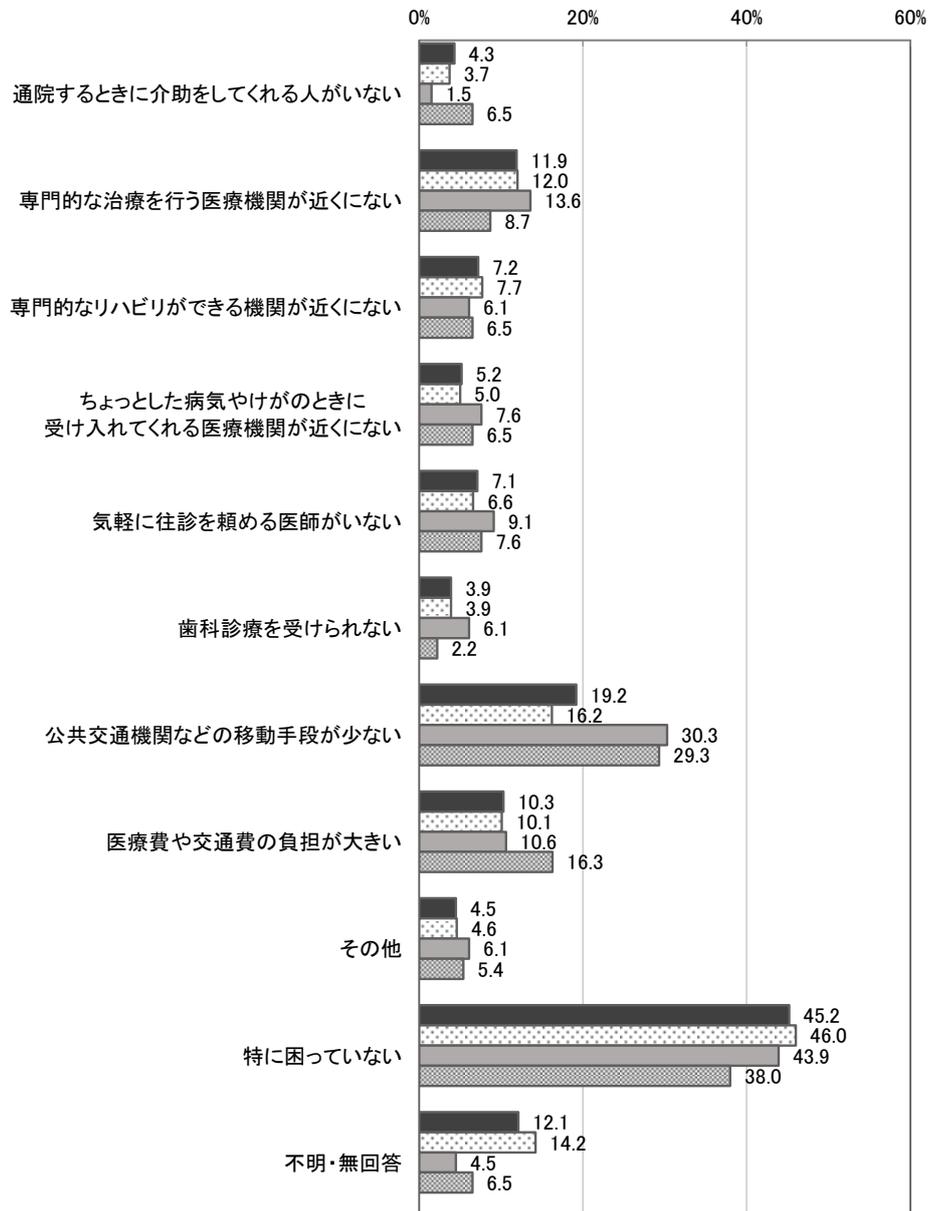
障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「月に1～2回」がそれぞれ最も高くなっています。



問 28 通院などでお困りのことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

通院などでお困りのことがあるかについて、全体で「特に困っていない」が45.2%と最も高く、次いで「公共交通機関などの移動手段が少ない」が19.2%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「公共交通機関などの移動手段が少ない」がそれぞれ最も高くなっています。

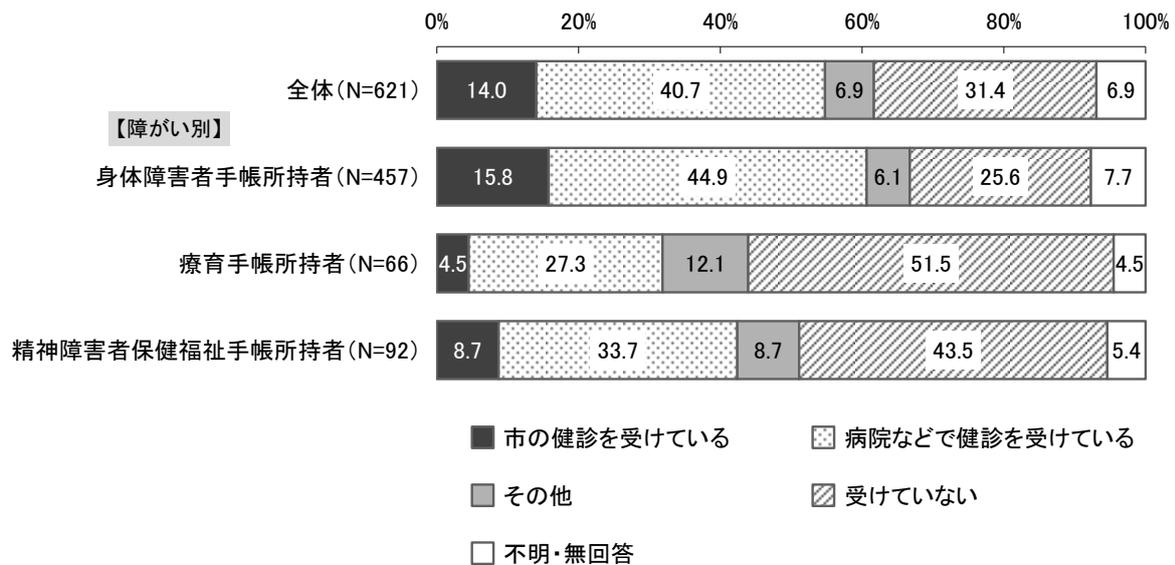


- 全体(N=621)
- ▨ 身体障害者手帳所持者(N=457)
- 療育手帳所持者(N=66)
- ▨ 精神障害者保健福祉手帳所持者(N=92)

問 29 あなたは定期健診(人間ドックなど)を受けていますか。(1つに○)

定期健診(人間ドックなど)を受けているかについて、全体で「病院などで健診を受けている」が40.7%と最も高く、次いで「受けていない」が31.4%となっています。

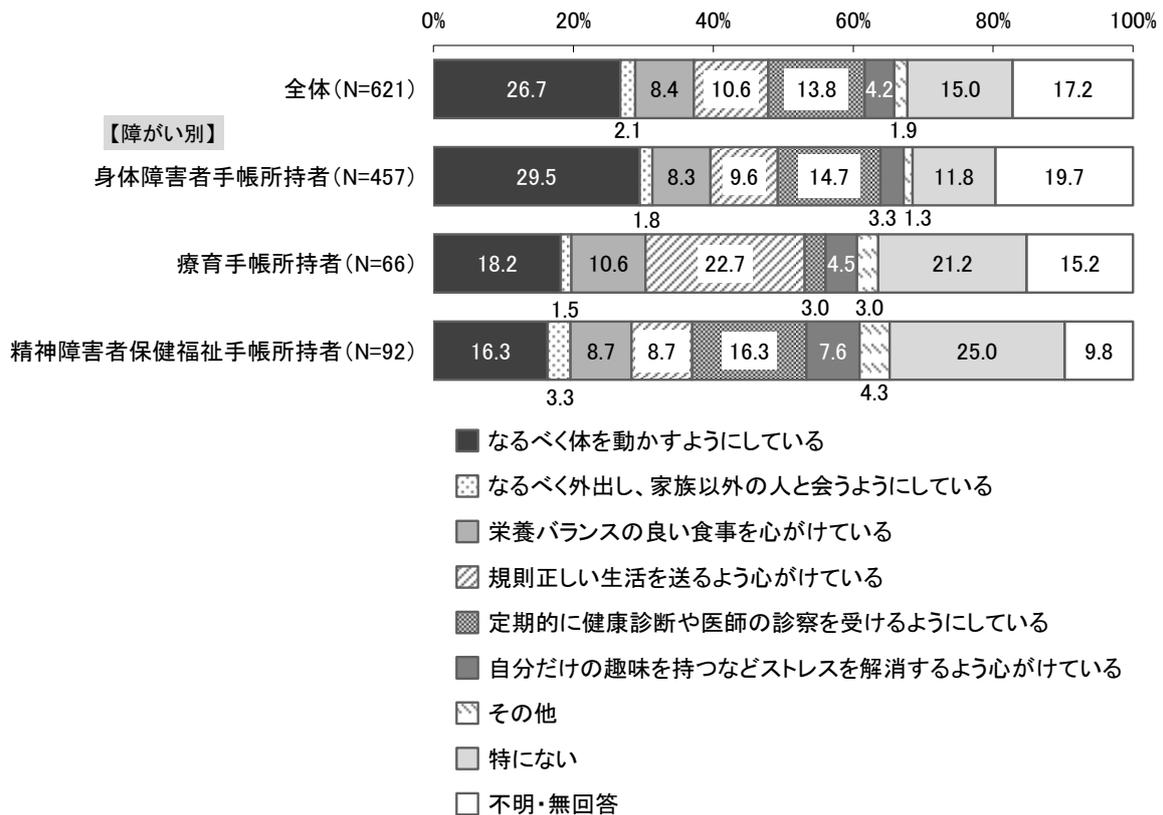
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「病院などで健診を受けている」が44.9%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「受けていない」がそれぞれ51.5%、43.5%と、最も高くなっています。



問 30 健康を維持するために、最も心がけていることを教えてください。(1つに○)

健康を維持するために、最も心がけていることについて、全体で「なるべく体を動かすようにしている」が26.7%と最も高く、次いで「特にない」が15.0%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「なるべく体を動かすようにしている」が29.5%、療育手帳所持者で「規則正しい生活を送るよう心がけている」が22.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「特にない」が25.0%と、それぞれ最も高くなっています。

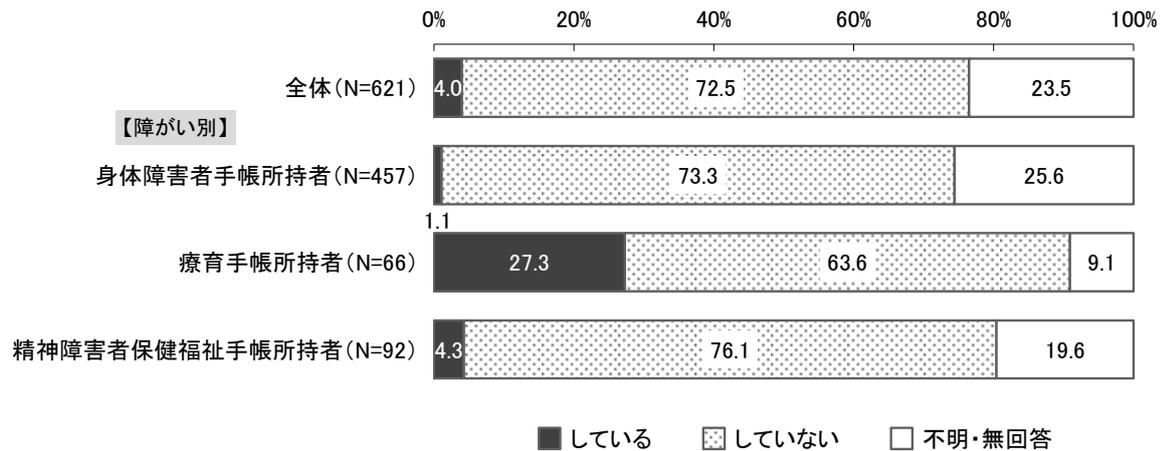


5 通園・通学について、おうかがいします。

問 31 あなたは現在、通園・通学していますか。(1つに○)

通園・通学しているかについて、全体で「している」が4.0%、「していない」が72.5%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「している」がそれぞれ1.1%、27.3%、4.3%となっています。

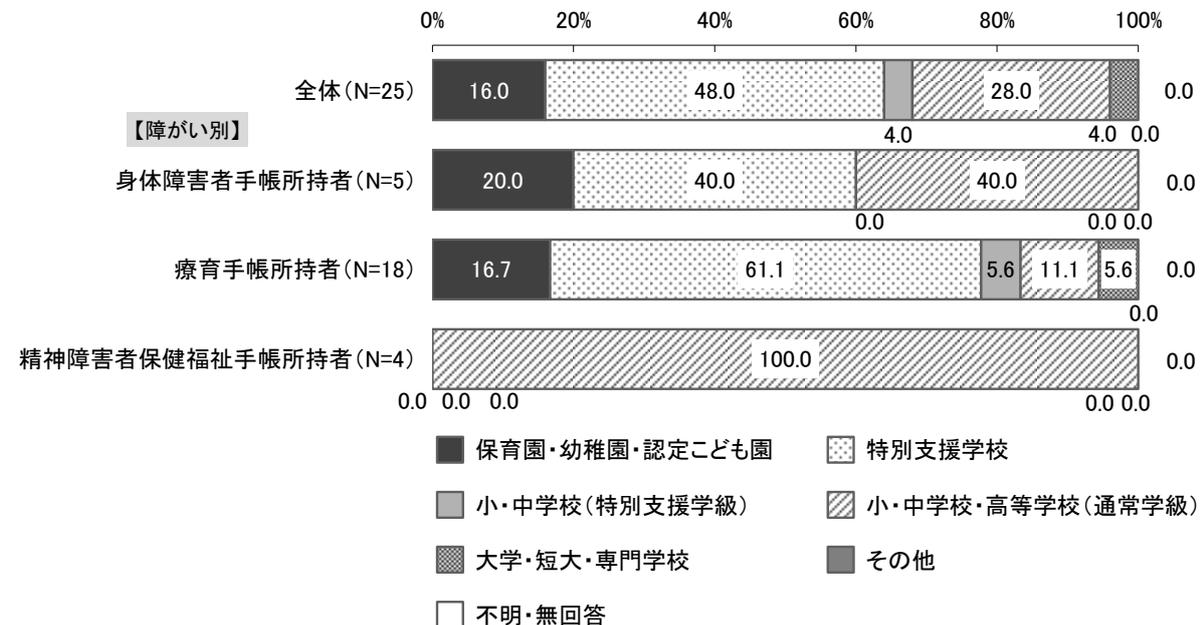


問 31 で「1. している」と答えた方におうかがいします。

問 32 あなたの通園・通学先は次のどれにあたりますか。(1つに○)

通園・通学先について、全体で「特別支援学校」が48.0%と最も高く、次いで「小・中学校・高等学校(通常学級)」が28.0%となっています。

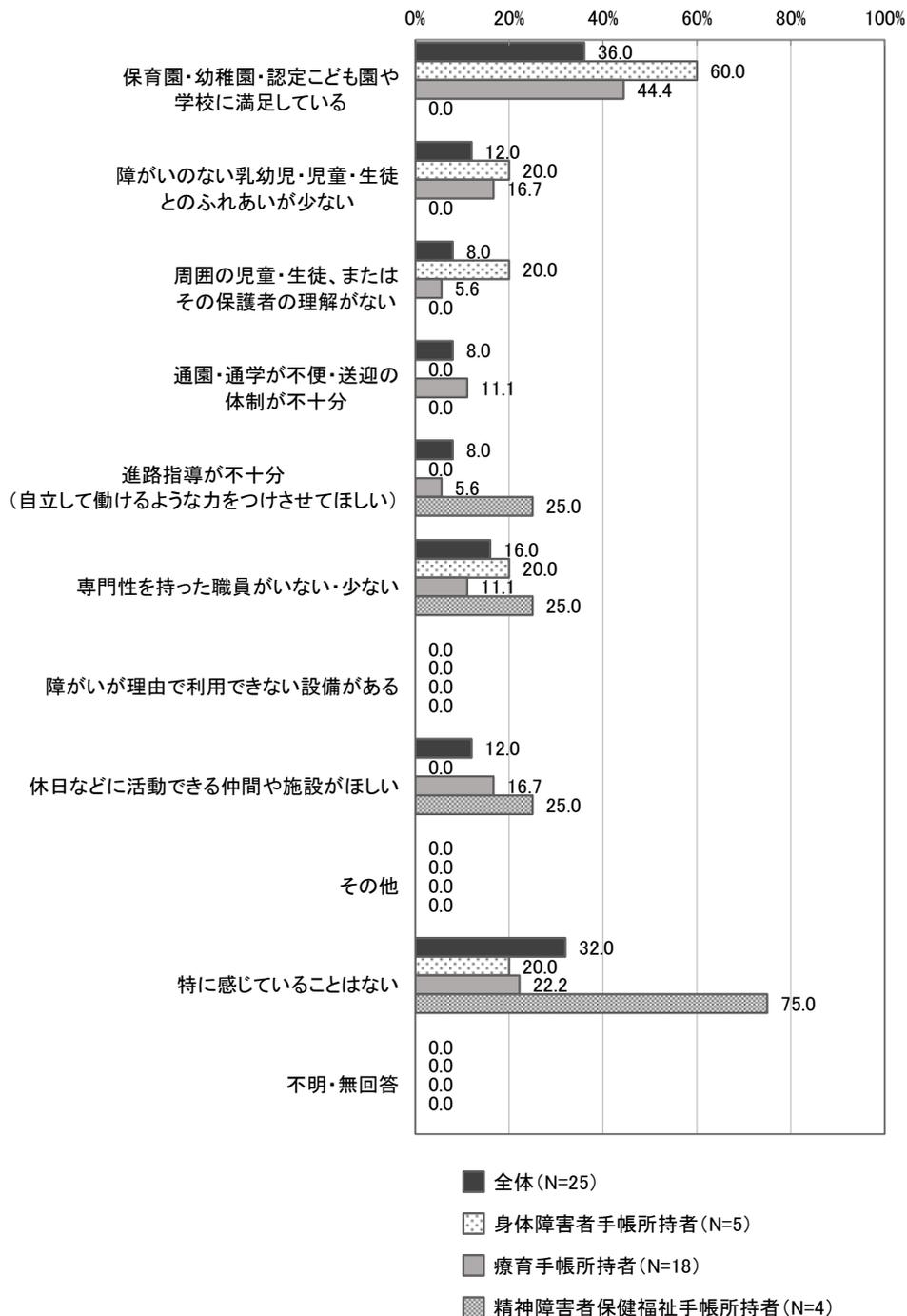
障がい別にみると、療育手帳所持者で「特別支援学校」が61.1%と最も高くなっています。



問 33 通園・通学していて、感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

通園・通学していて、感じていることについて、全体で「保育園・幼稚園・認定こども園や学校に満足している」が36.0%と最も高く、次いで「特に感じていることはない」が32.0%となっています。

障がい別にみると、療育手帳所持者で「保育園・幼稚園・認定こども園や学校に満足している」が44.4%と、最も高くなっています。



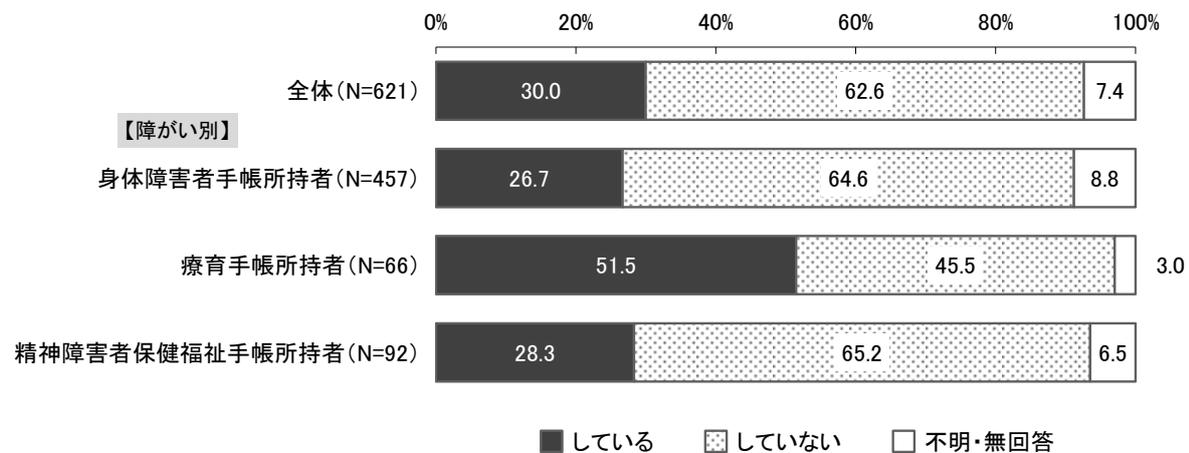
6 仕事について、おうかがいします。

問 34 あなたは現在、仕事をしていますか。(1つに○)

現在、仕事をしているかについて、全体で「している」が30.0%、「していない」が62.6%となっています。

障がい別にみると、「している」が身体障害者手帳所持者で26.7%、療育手帳所持者で51.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者で28.3%となっています。

年齢区分別にみると、18～39歳で「している」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	している	していない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	4.0	92.0	4.0
	18～39歳	62	67.7	30.6	1.6
	40～64歳	142	45.1	52.1	2.8
	65～74歳	157	33.1	58.0	8.9
	75歳以上	216	10.6	78.2	11.1

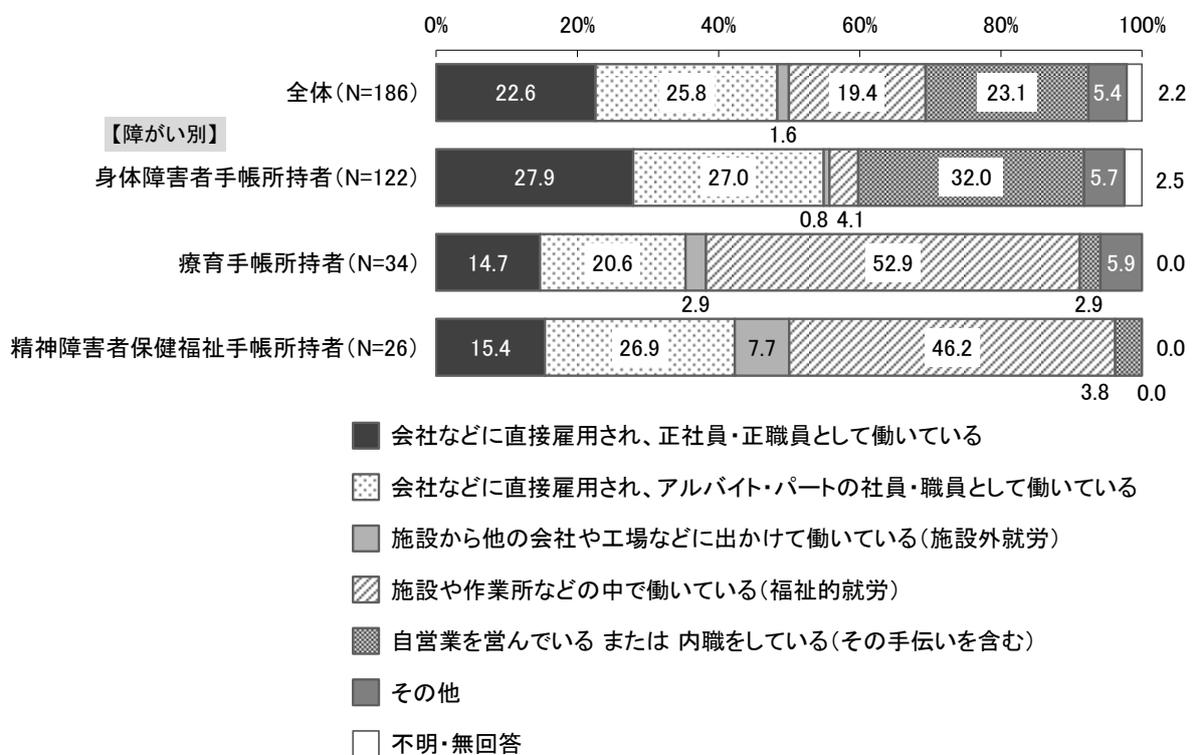
問 34 で「1. している」と答えた方におうかがいします。

問 35 あなたは、どこで働いていますか。(1つに○)

どこで働いているかについて、全体で「会社などに直接雇用され、アルバイト・パートの社員・職員として働いている」が 25.8%と最も高く、次いで「自営業を営んでいる または 内職をしている (その手伝いを含む)」が 23.1%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「自営業を営んでいる または 内職をしている (その手伝いを含む)」が 32.0%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「施設や作業所などの中で働いている (福祉的就労)」がそれぞれ 52.9%、46.2%と、最も高くなっています。

年齢区分別にみると、18～39 歳で「施設や作業所などの中で働いている (福祉的就労)」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	会社などに直接雇用され、正社員・正職員として働いている	会社などに直接雇用され、アルバイト・パートの社員・職員として働いている	施設から他の会社や工場などに出かけて働いている(施設外就労)	施設や作業所などで働いている(福祉的就労)	自営業を営んでいる または 内職をしている(その手伝いを含む)	その他	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	42	16.7	23.8	2.4	47.6	4.8	4.8	0.0
	40～64歳	64	40.6	25.0	3.1	17.2	14.1	0.0	0.0
	65～74歳	52	15.4	32.7	0.0	7.7	38.5	3.8	1.9
	75歳以上	23	4.3	17.4	0.0	0.0	39.1	26.1	13.0

問 34 で「1. している」と答えた方におうかがいします。

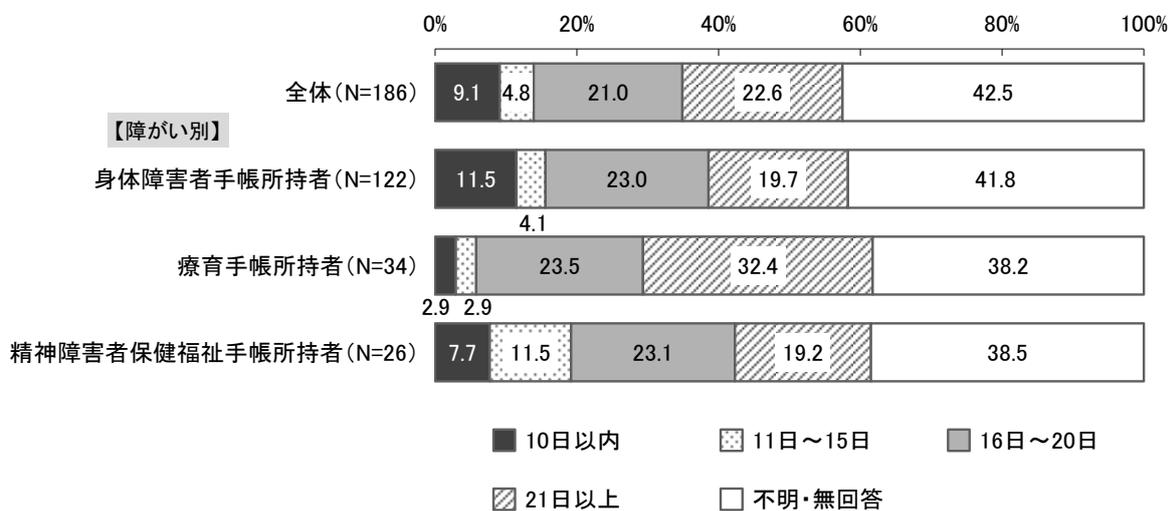
問 36 1か月に何日くらい働いていますか。あてはまる番号をそれぞれの()に書いてください。

①現在

現在、1か月に何日くらい働いているかについて、全体で「21日以上」が22.6%と最も高く、次いで「16日～20日」が21.0%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「16日～20日」がそれぞれ23.0%、23.1%、療育手帳所持者で「21日以上」が32.4%と、それぞれ最も高くなっています。

年齢区分別にみると、18～39歳で「21日以上」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

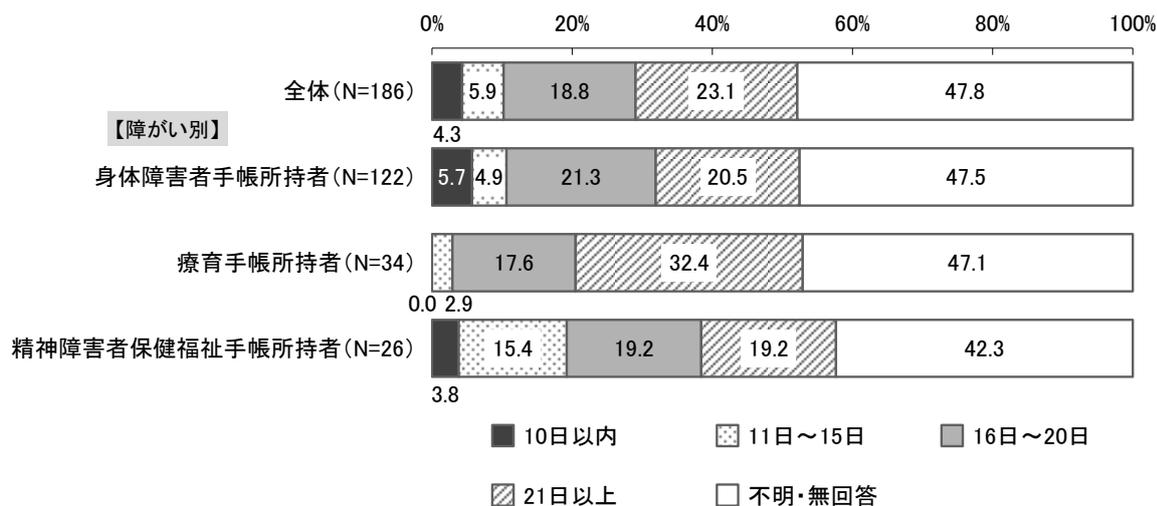
区分		N=	10日以内	11日～15日	16日～20日	21日以上	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	42	2.4	4.8	16.7	45.2	31.0
	40～64歳	64	9.4	6.3	20.3	21.9	42.2
	65～74歳	52	15.4	3.8	28.8	13.5	38.5
	75歳以上	23	8.7	4.3	13.0	0.0	73.9

②新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前、1か月に何日くらい働いていたかについて、全体で「21日以上」が23.1%と最も高く、次いで「16日～20日」が18.8%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「16日～20日」が21.3%、療育手帳所持者で「21日以上」が32.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「16日～20日」「21日以上」がそれぞれ19.2%と、最も高くなっています。

年齢区分別にみると、18～39歳で「21日以上」が他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	10日以内	11日～15日	16日～20日	21日以上	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	42	0.0	7.1	11.9	42.9	38.1
	40～64歳	64	3.1	3.1	21.9	26.6	45.3
	65～74歳	52	9.6	7.7	26.9	13.5	42.3
	75歳以上	23	4.3	8.7	4.3	0.0	82.6

【「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の比較結果】

「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の1か月に何日くらい働いているかの比較は、「10日以内」が4.8ポイント差で最も高くなっています。

区分	N=	10日以内	11日～15日	16日～20日	21日以上	不明・無回答
①現在	186	9.1	4.8	21.0	22.6	42.5
②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前	186	4.3	5.9	18.8	23.1	47.8

問 34 で「1. している」と答えた方におうかがいします。

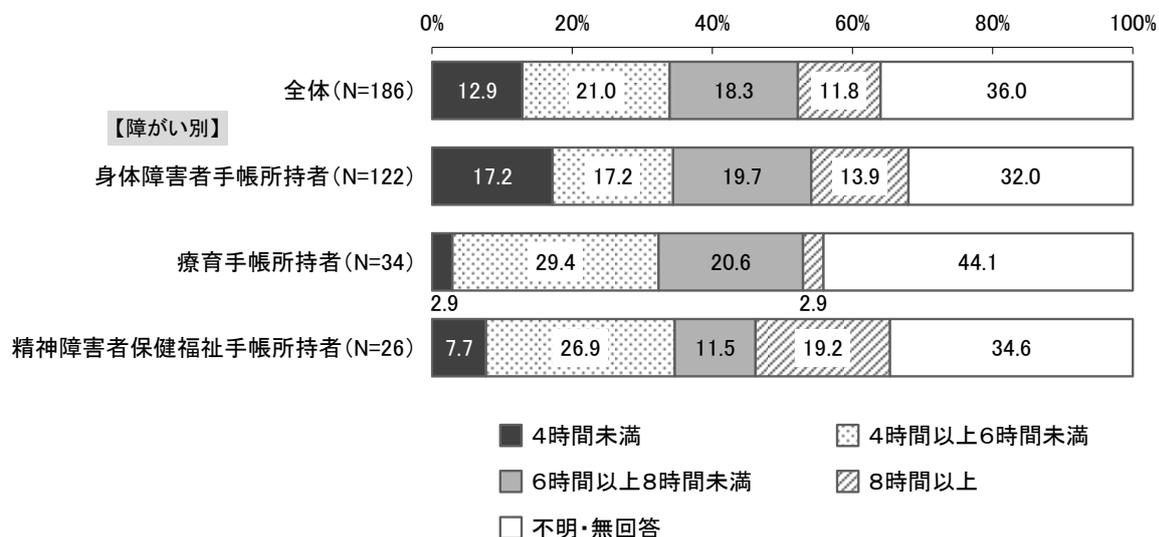
問 37 1日に何時間くらい働いていますか。あてはまる番号をそれぞれの()に書いてください。

①現在

現在、1日に何時間くらい働いているかについて、全体で「4時間以上6時間未満」が21.0%と最も高く、次いで「6時間以上8時間未満」が18.3%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「6時間以上8時間未満」が19.7%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「4時間以上6時間未満」がそれぞれ29.4%、26.9%と、最も高くなっています。

年齢区分別にみると、40～64歳で「8時間以上」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

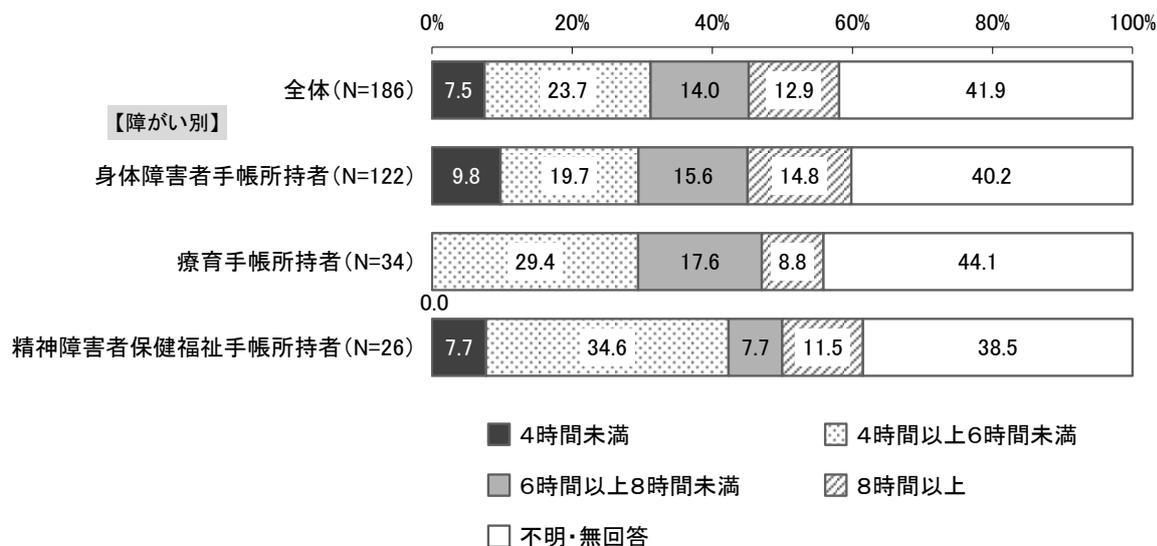
区分		N=	4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	42	4.8	31.0	26.2	7.1	31.0
	40～64歳	64	12.5	17.2	23.4	18.8	28.1
	65～74歳	52	15.4	25.0	13.5	7.7	38.5
	75歳以上	23	17.4	4.3	4.3	8.7	65.2

②新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前、1日に何時間くらい働いていたかについて、全体で「4時間以上6時間未満」が23.7%と最も高く、次いで「6時間以上8時間未満」が14.0%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「4時間以上6時間未満」が、それぞれ最も高くなっています。

年齢区分別にみると、40～64歳で「8時間以上」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	42	2.4	38.1	19.0	7.1	33.3
	40～64歳	64	7.8	18.8	14.1	25.0	34.4
	65～74歳	52	11.5	23.1	15.4	7.7	42.3
	75歳以上	23	8.7	8.7	4.3	0.0	78.3

【「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の比較結果】

「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の1日に何時間くらい働いているかの比較は、「4時間未満」が5.4ポイント差で最も高くなっています。

区分	N=	4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	不明・無回答
①現在	186	12.9	21.0	18.3	11.8	36.0
②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前	186	7.5	23.7	14.0	12.9	41.9

問 34 で「1. している」と答えた方におうかがいします。

問 38 現在の仕事や職場に満足していますか。(項目ごと1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

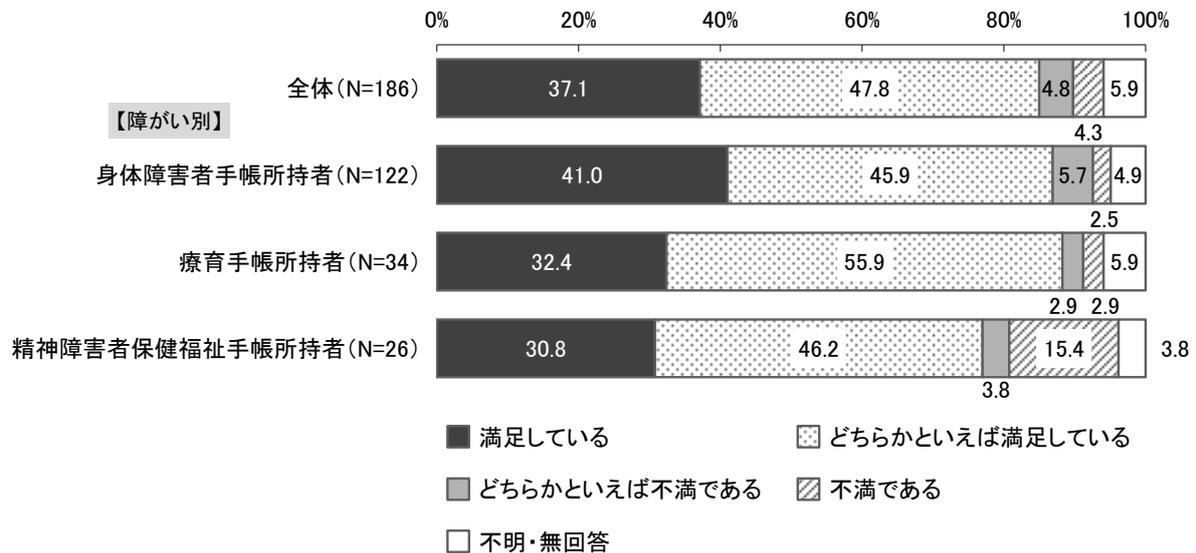
『満足している』 …「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合算

『不満である』 …「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合算

①仕事の内容

仕事の内容について、全体で『満足している』が 84.9%、『不満である』が 9.1%となっています。

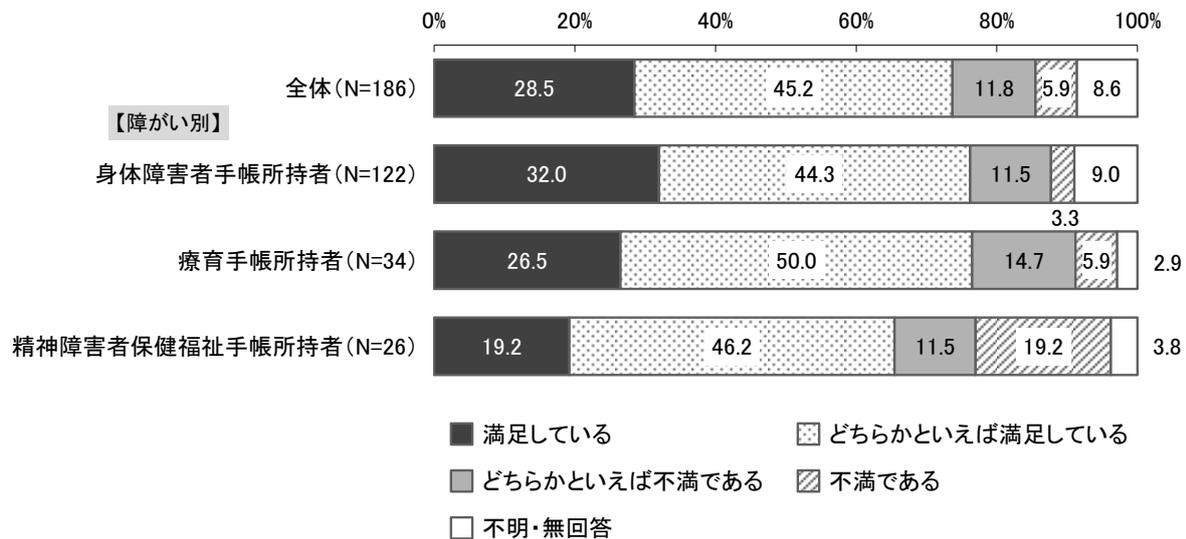
障がい別にみると、『満足している』が身体障害者手帳所持者で 86.9%、療育手帳所持者で 88.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で 77.0%となっています。



②職場の環境(設備・人間関係など)

職場の環境(設備・人間関係など)について、全体で『満足している』が73.7%、『不満である』が17.7%となっています。

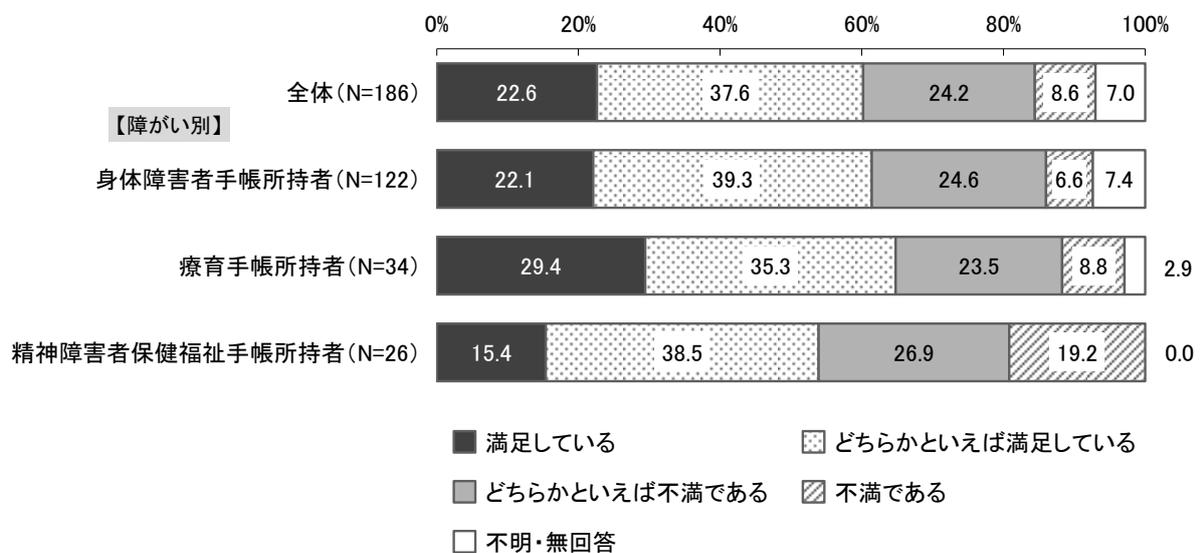
障がい別にみると、『満足している』が身体障害者手帳所持者で76.3%、療育手帳所持者で76.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者で65.4%となっています。



③就労による収入

就労による収入について、全体で『満足している』が60.2%、『不満である』が32.8%となっています。

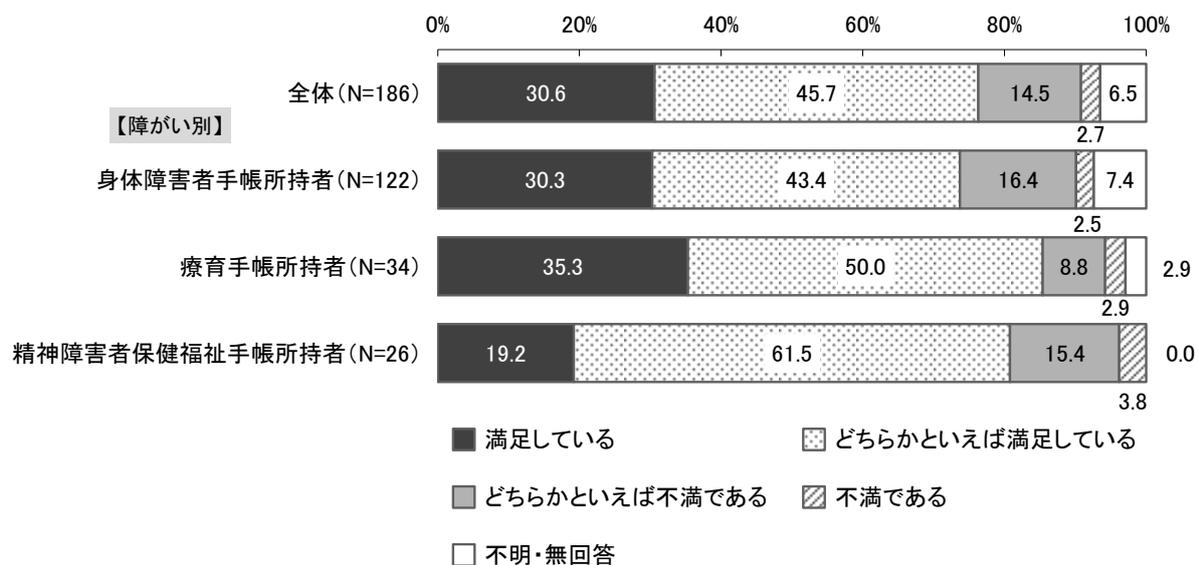
障がい別にみると、『満足している』が身体障害者手帳所持者で61.4%、療育手帳所持者で64.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で53.9%となっています。



④今の働き方(勤務時間・休暇など)

今の働き方(勤務時間・休暇など)について、全体で『満足している』が76.3%、『不満である』が17.2%となっています。

障がい別にみると、『満足している』が身体障害者手帳所持者で73.7%、療育手帳所持者で85.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で80.7%となっています。



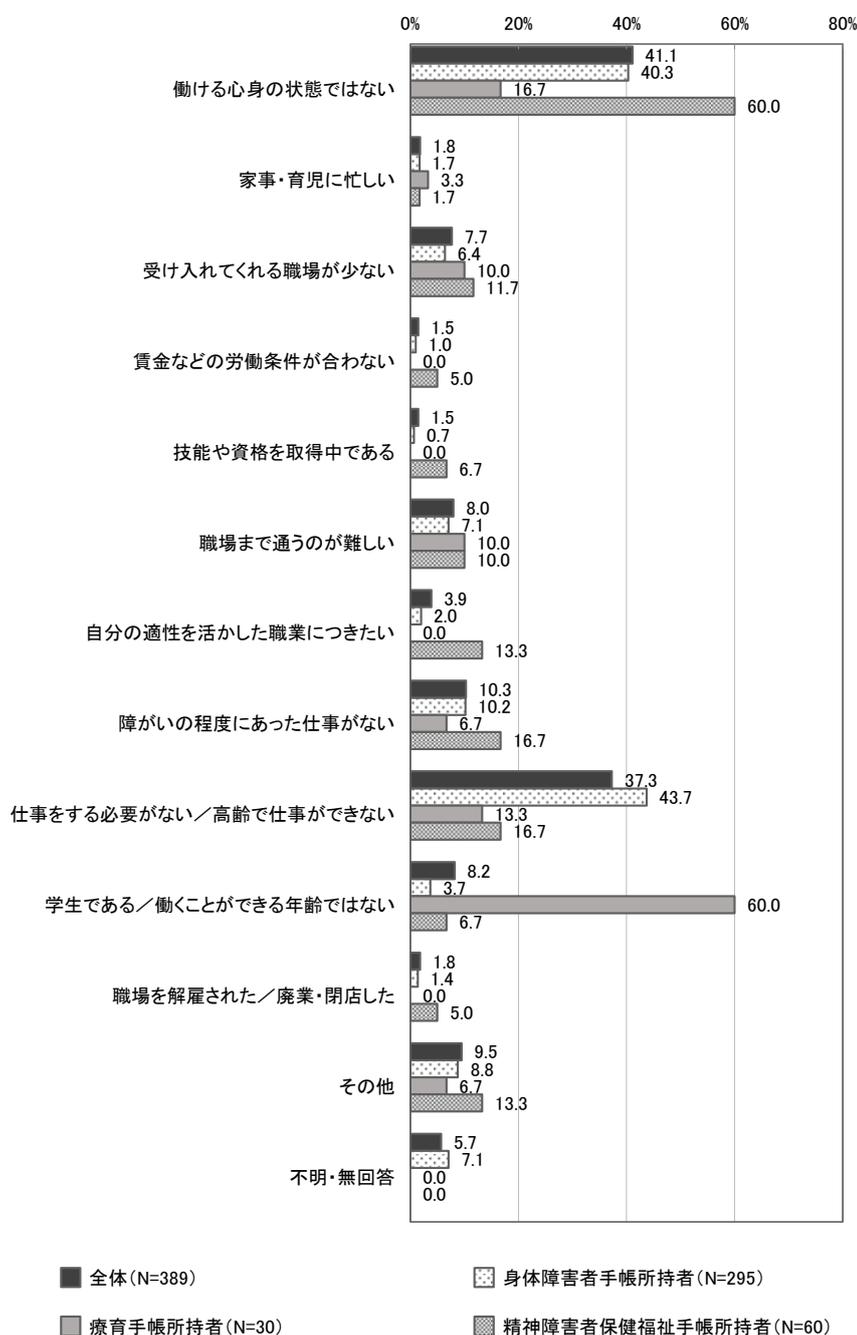
問 34 で「2. していない」と答えた方におうかがいします。

問 39 現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在仕事をしていない理由について、全体で「働ける心身の状態ではない」が41.1%と最も高く、次いで「仕事をする必要がない／高齢で仕事ができない」が37.3%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「仕事をする必要がない／高齢で仕事ができない」が43.7%、療育手帳所持者で「学生である／働くことができる年齢ではない」が60.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「働ける心身の状態ではない」が60.0%と、それぞれ最も高くなっています。

年齢区分別にみると、40～64歳で「働ける心身の状態ではない」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	働ける心身の状態ではない	家事・育児に忙しい	受け入れてくれる職場が少ない	賃金などの労働条件が合わない	技能や資格を取得中である	職場まで通うのが難しい	自分の適性を活かした職業につきたい	障がいの程度にあつた仕事がない	仕事をする必要がない／高齢で仕事ができない	学生である／働くことができる年齢ではない
年齢区分別	18歳未満	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	19	52.6	5.3	15.8	5.3	5.3	21.1	15.8	15.8	5.3	5.3
	40～64歳	74	63.5	2.7	18.9	4.1	4.1	14.9	9.5	20.3	14.9	1.4
	65～74歳	91	49.5	1.1	6.6	1.1	2.2	7.7	3.3	13.2	44.0	1.1
	75歳以上	169	30.8	1.8	2.4	0.0	0.0	3.6	0.6	4.1	52.7	3.6

区分		N=	職場を解雇された／廃業・閉店した	その他	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	23	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	19	0.0	10.5	0.0
	40～64歳	74	4.1	12.2	0.0
	65～74歳	91	4.4	9.9	3.3
	75歳以上	169	0.0	10.1	10.7

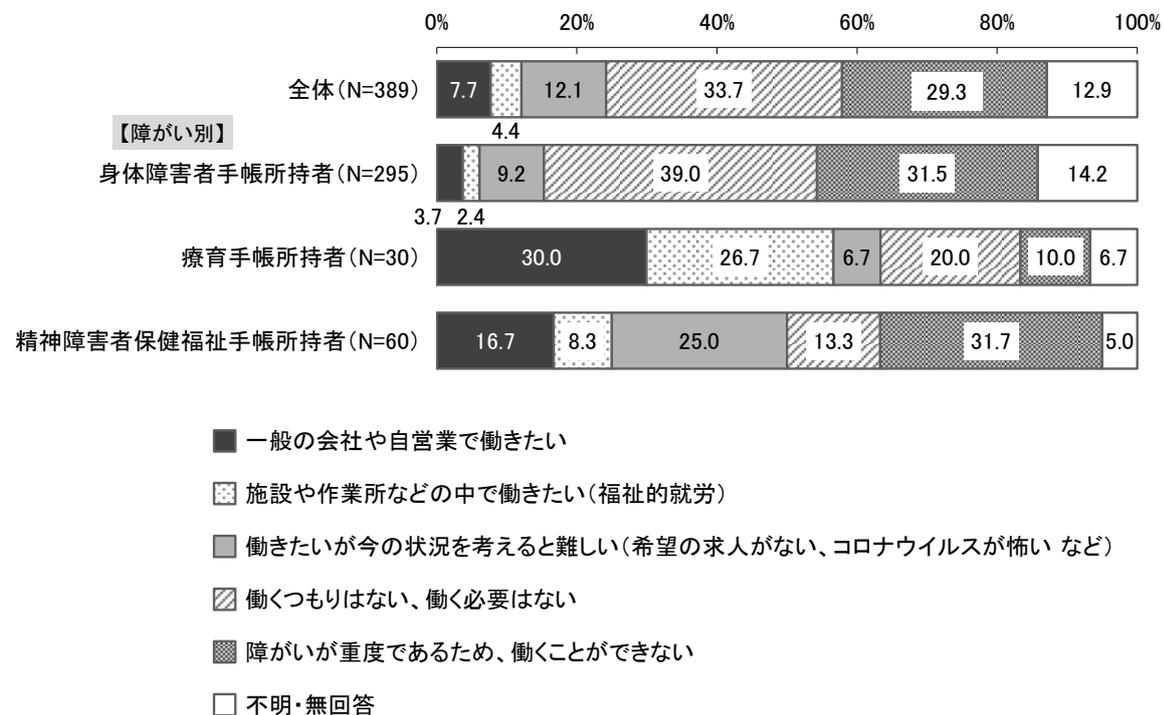
問 34 で「2. していない」と答えた方におうかがいします。

問 40 今後、働きたいと思いますか。(1つに○)

今後、働きたいかについて、全体で「働くつもりはない、働く必要はない」が 33.7%と最も高く、次いで「障がいがあるため、働くことができない」が 29.3%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「働くつもりはない、働く必要はない」が 39.0%、療育手帳所持者で「一般の会社や自営業で働きたい」が 30.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「障がいがあるため、働くことができない」が 31.7%と、それぞれ最も高くなっています。

年齢区分別にみると、18歳未満で「一般の会社や自営業で働きたい」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	一般の会社や自営業で働きたい	施設や作業所などの中で働きたい(福祉的就労)	働きたいが今の状況を考えると難しい(希望の求人がない、コロナウイルスが怖いなど)	働くつもりはない、働く必要はない	障がいが重度であるため、働くことができない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	23	56.5	26.1	4.3	0.0	4.3	8.7
	18～39歳	19	26.3	15.8	31.6	5.3	21.1	0.0
	40～64歳	74	9.5	5.4	23.0	24.3	33.8	4.1
	65～74歳	91	2.2	1.1	15.4	40.7	34.1	6.6
	75歳以上	169	0.6	1.8	3.6	42.0	30.2	21.9

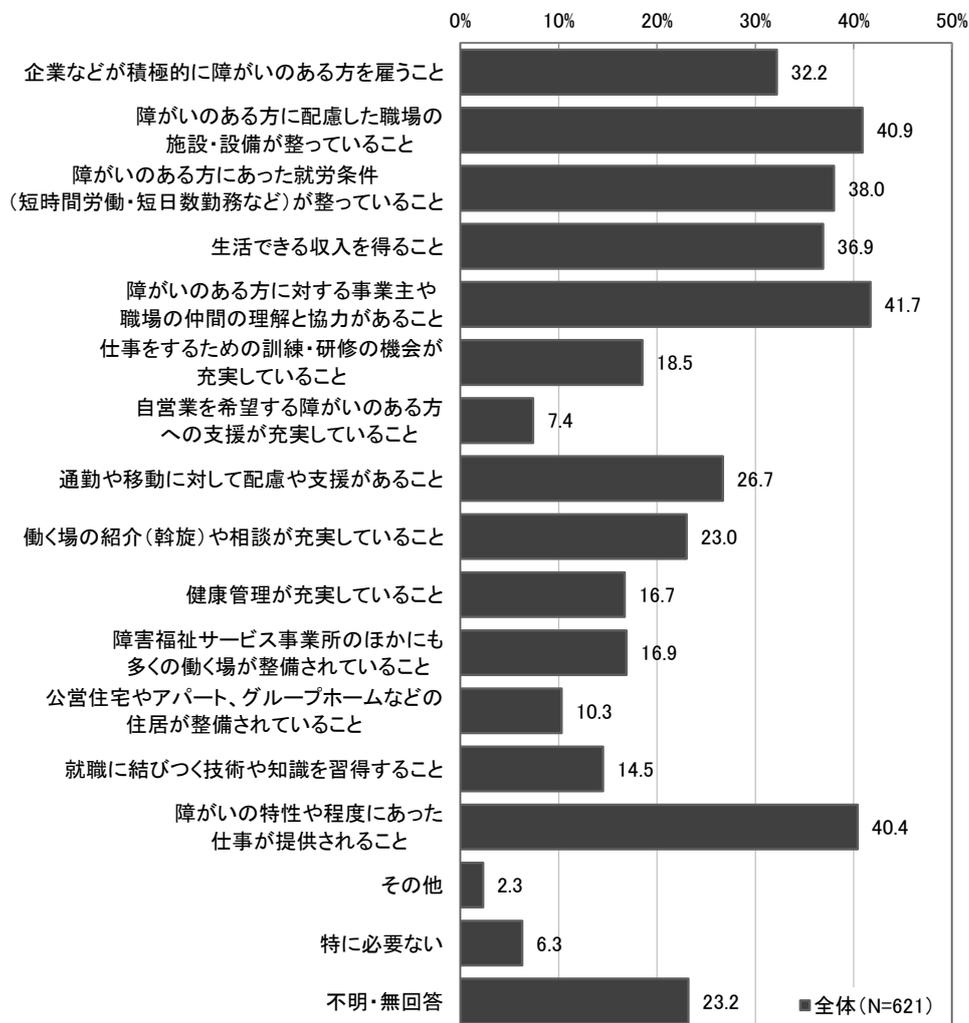
問 34 で「2. していない」と答えた方におうかがいします。

問 41 障がいのある方が働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

障がいのある方が働くためには、どのようなことが必要かについて、全体で「障がいのある方に対する事業主や職場の仲間の理解と協力があること」が41.7%と最も高く、次いで「障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること」が40.9%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること」が37.2%、療育手帳所持者で「障がいの特性や程度にあった仕事が提供されること」が62.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「障がいのある方に対する事業主や職場の仲間の理解と協力があること」「障がいの特性や程度にあった仕事が提供されること」がそれぞれ55.4%と、最も高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	企業が積極的に障がいのある方を雇うこと	障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること	障がいのある方にあつた就労条件(短時間労働・短日数勤務など)が整っていること	生活できる収入を得ること	障がいのある方に対する事業主や職場の仲間の理解と協力があること	仕事をするための訓練・研修の機会が充実していること	自営業を希望する障がいのある方への支援が充実していること	通勤や移動に対して配慮や支援があること	働く場の紹介(斡旋)や相談が充実していること	健康管理が充実していること
身体障害者手帳所持者	457	31.1	37.2	34.8	32.6	37.0	14.2	8.5	22.8	19.9	15.5
療育手帳所持者	66	39.4	54.5	42.4	54.5	60.6	33.3	4.5	43.9	30.3	16.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	34.8	46.7	51.1	46.7	55.4	30.4	4.3	34.8	34.8	23.9

区分	N =	障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること	公営住宅やアパート、グループホームなどの住居が整備されていること	就職に結びつく技術や知識を習得すること	障がいの特性や程度にあつた仕事を提供されること	その他	特に必要ない	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	13.8	7.4	12.3	35.0	2.0	6.8	27.4
療育手帳所持者	66	27.3	24.2	22.7	62.1	1.5	0.0	13.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	27.2	13.0	19.6	55.4	3.3	6.5	9.8

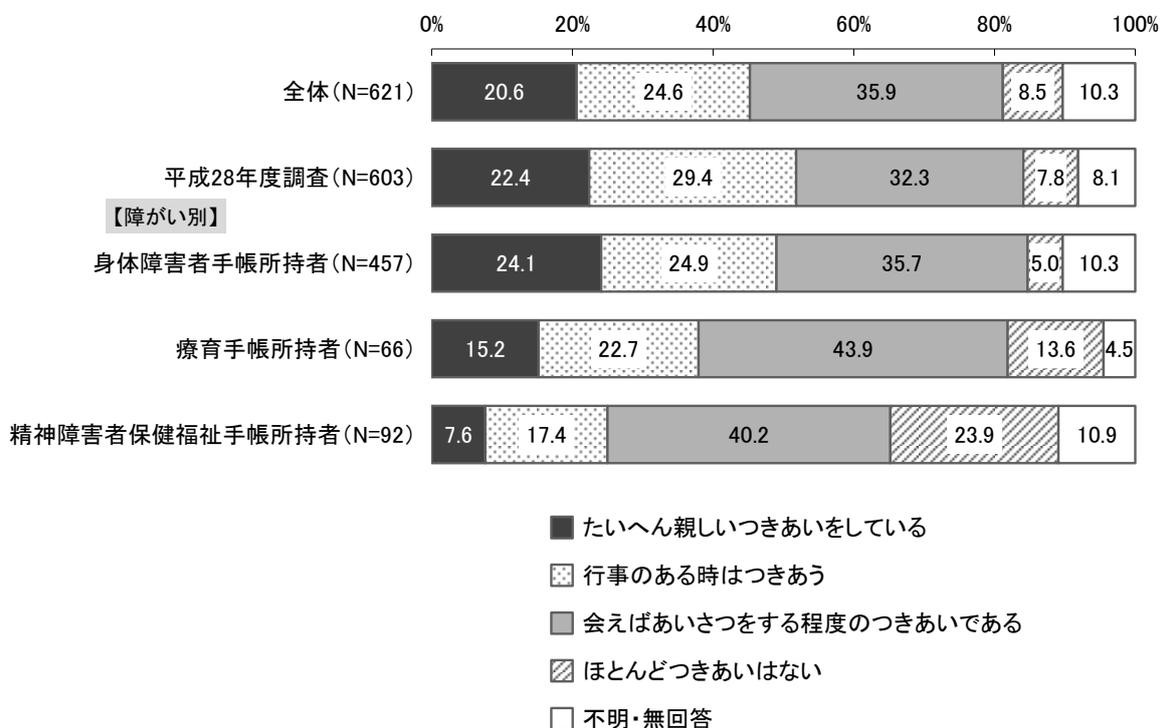
7 地域での生活について、おうかがいします。

問 42 あなたやご家族は、隣近所との程度つきあいをしていますか。(1つに○)

隣近所との程度つきあいをしているかについて、全体で「会えばあいさつをする程度のつきあいである」が35.9%と最も高く、次いで「行事のある時はつきあう」が24.6%となっています。平成28年度調査と比較すると、「会えばあいさつをする程度のつきあいである」が高くなっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「会えばあいさつをする程度のつきあいである」が、それぞれ最も高くなっています。

年齢区分別にみると、18～39歳、40～64歳で「ほとんどつきあいはない」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	たいへん親しいつきあいをしている	行事のある時はつきあう	会えばあいさつをする程度のつきあいである	ほとんどつきあいはない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	16.0	16.0	64.0	4.0	0.0
	18～39歳	62	9.7	27.4	41.9	16.1	4.8
	40～64歳	142	16.2	23.2	38.0	15.5	7.0
	65～74歳	157	21.0	29.9	33.1	5.1	10.8
	75歳以上	216	28.2	19.9	31.9	5.6	14.4

問 43 日常生活において、差別や偏見、疎外感を感じることがありますか。(1つに○)

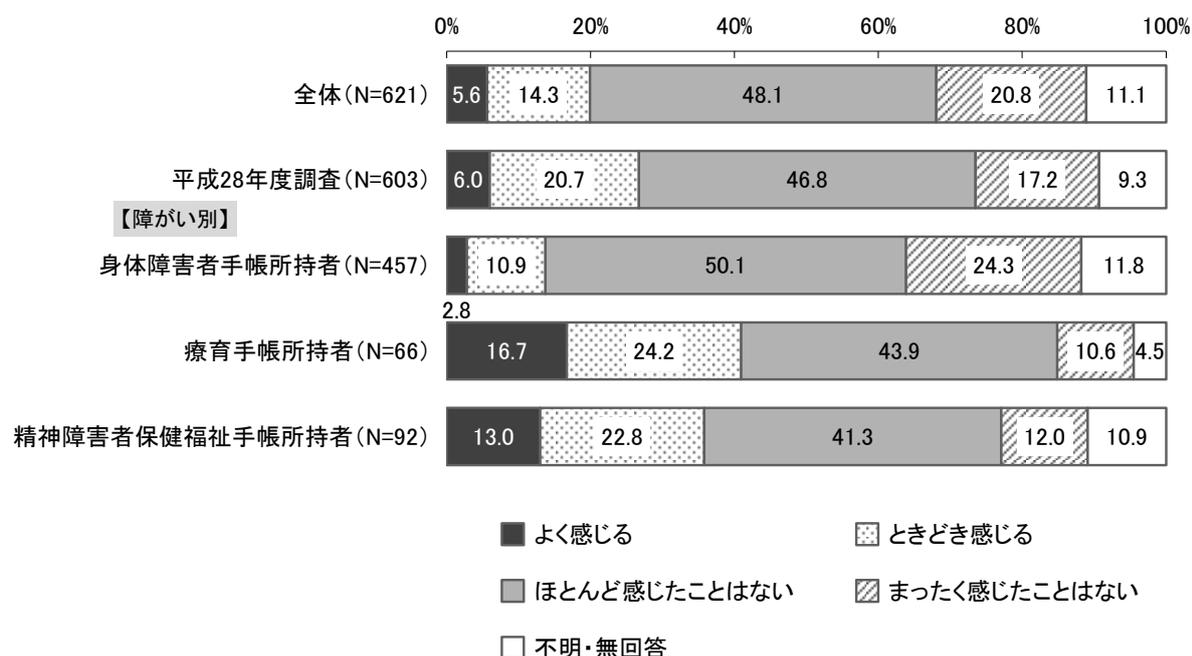
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『感じる』 …「よく感じる」と「ときどき感じる」の合算

『感じない』 …「まったく感じたことはない」と「ほとんど感じたことはない」の合算

日常生活において、差別や偏見、疎外感を感じることがあるかについて、全体で『感じる』が19.9%、『感じない』が68.9%となっています。平成28年度調査と比較すると、『感じる』が6.8ポイント低くなっています。

障がい別にみると、『感じる』が身体障害者手帳所持者で13.7%、療育手帳所持者で40.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で35.8%となっています。

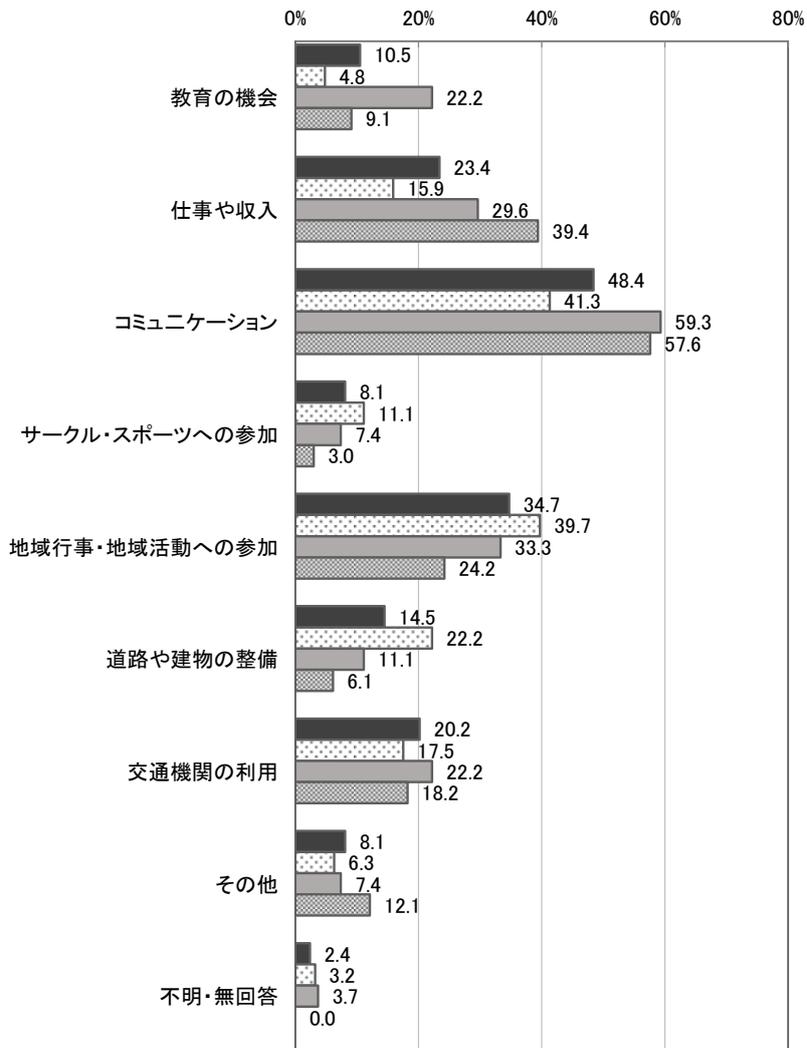


問 43 で「1. よく感じる」「2. ときどき感じる」と答えた方におうかがいします。

問 44 何に関してそれを感じますか。(あてはまるものすべてに○)

差別や偏見、疎外感を感じる場面等について、全体で「コミュニケーション」が48.4%と最も高く、次いで「地域行事・地域活動への参加」が34.7%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「コミュニケーション」がそれぞれ最も高く、特に療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者はそれぞれ約6割となっています。



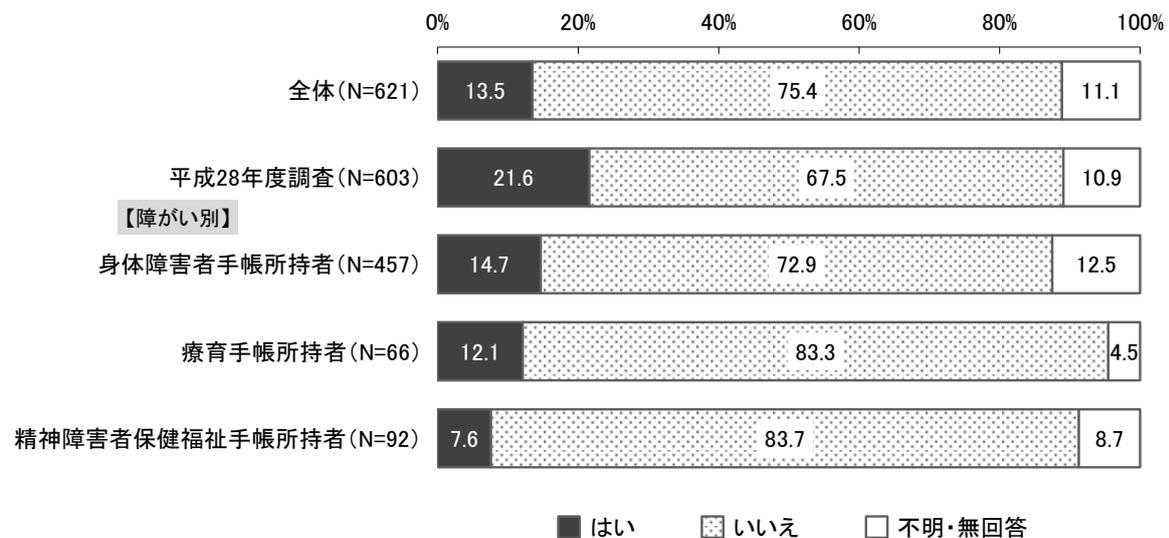
- 全体 (N=124)
- ▨ 身体障害者手帳所持者 (N=63)
- 療育手帳所持者 (N=27)
- ▨ 精神障害者保健福祉手帳所持者 (N=33)

問 45 あなたは、障害者差別解消法が平成 28 年から施行されていることを知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法が平成 28 年から施行されていることを知っているかについて、全体で「はい」が 13.5%、「いいえ」が 75.4%となっています。平成 28 年度調査と比較すると、「はい」が 8.1 ポイント低くなっています。

障がい別にみると、「はい」が身体障害者手帳所持者で 14.7%、療育手帳所持者で 12.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で 7.6%となっています。

年齢区分別にみると、18～39 歳で「はい」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

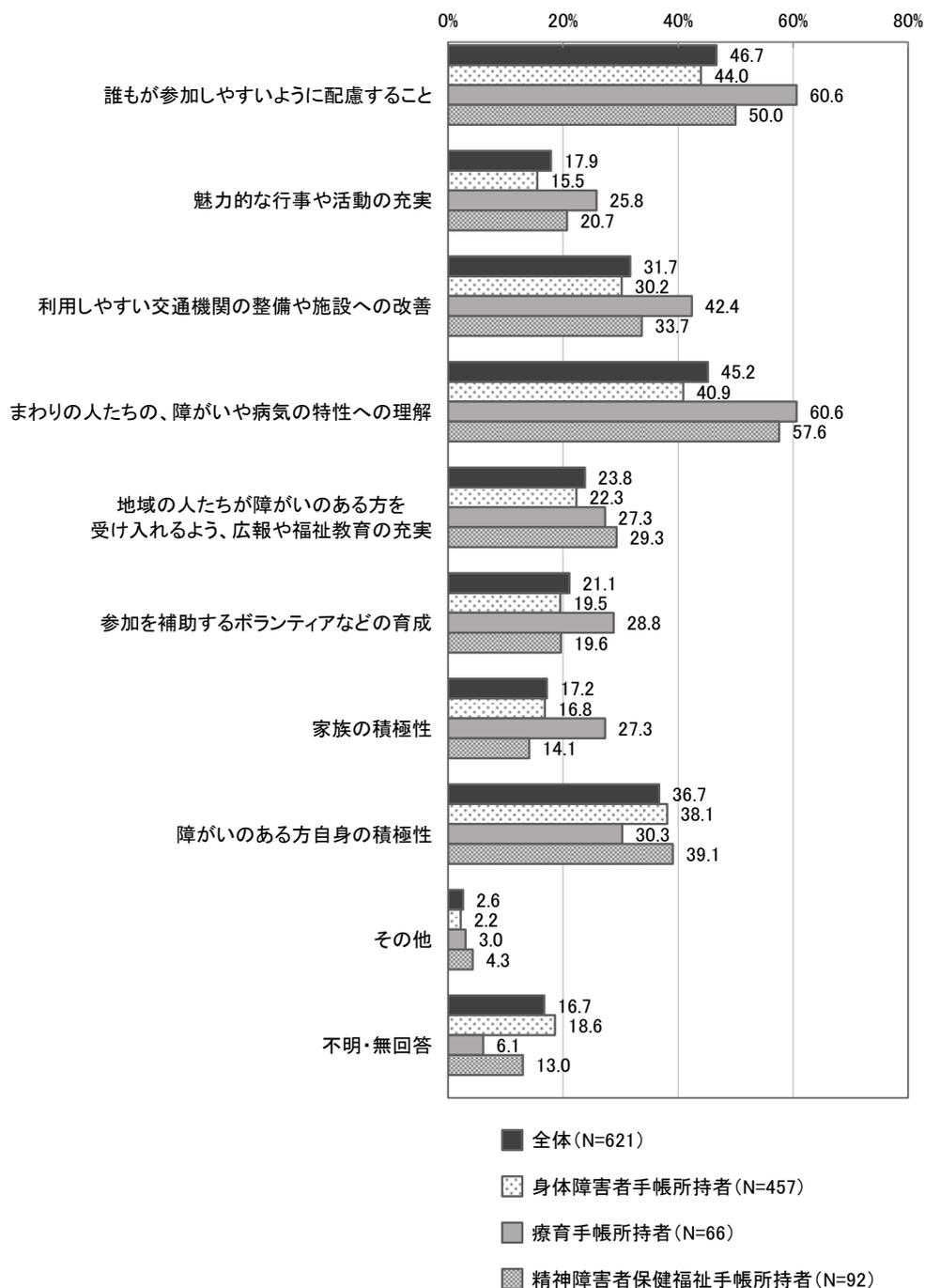
(単位：%)

区分		N=	はい	いいえ	不明・無回答
年齢区分別	18 歳未満	25	12.0	88.0	0.0
	18～39 歳	62	22.6	74.2	3.2
	40～64 歳	142	14.1	81.0	4.9
	65～74 歳	157	9.6	78.3	12.1
	75 歳以上	216	14.4	68.1	17.6

問 46 障がいのある方が地域や社会に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある方が地域や社会に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切かについて、全体で「誰もが参加しやすいように配慮すること」が46.7%と最も高く、次いで「まわりの人たちの、障がいや病気の特性への理解」が45.2%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「誰もが参加しやすいように配慮すること」が44.0%、療育手帳所持者で「誰もが参加しやすいように配慮すること」「まわりの人たちの、障がいや病気の特性への理解」がそれぞれ60.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「まわりの人たちの、障がいや病気の特性への理解」が57.6%と、それぞれ最も高くなっています。

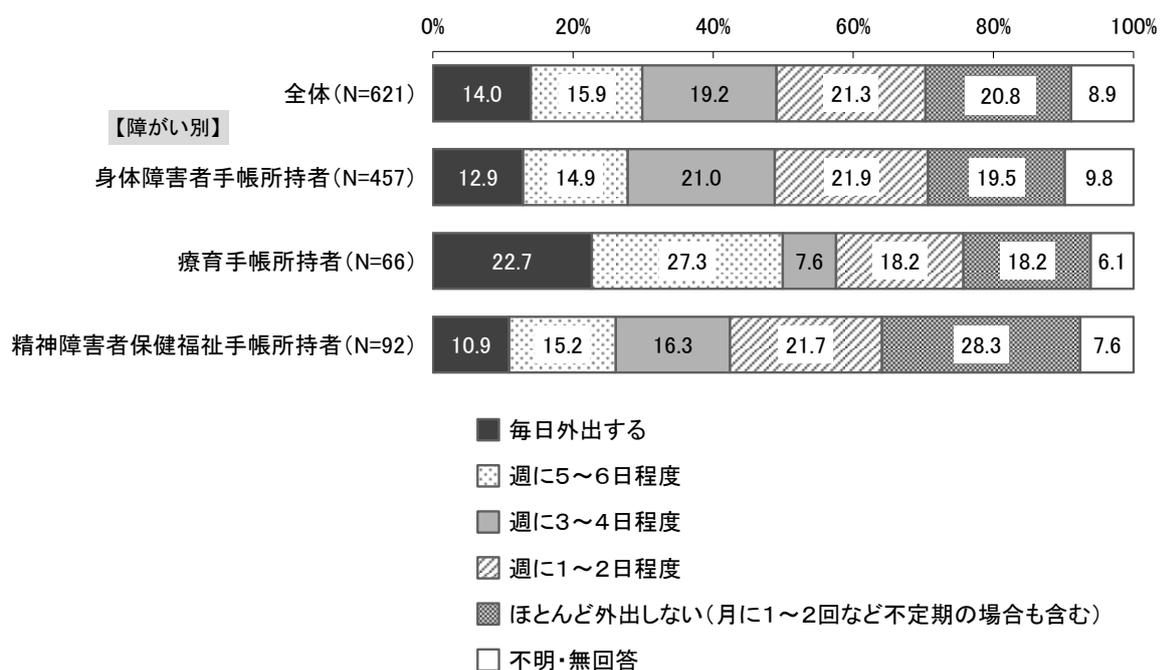


問 47 1週間にどの程度外出されますか。それぞれあてはまる番号に○を付けてください。

(1)現在

現在、1週間にどの程度外出するかについて、全体で「週に1～2日程度」が21.3%と最も高く、次いで「ほとんど外出しない(月に1～2回など不定期の場合も含む)」が20.8%となっています。

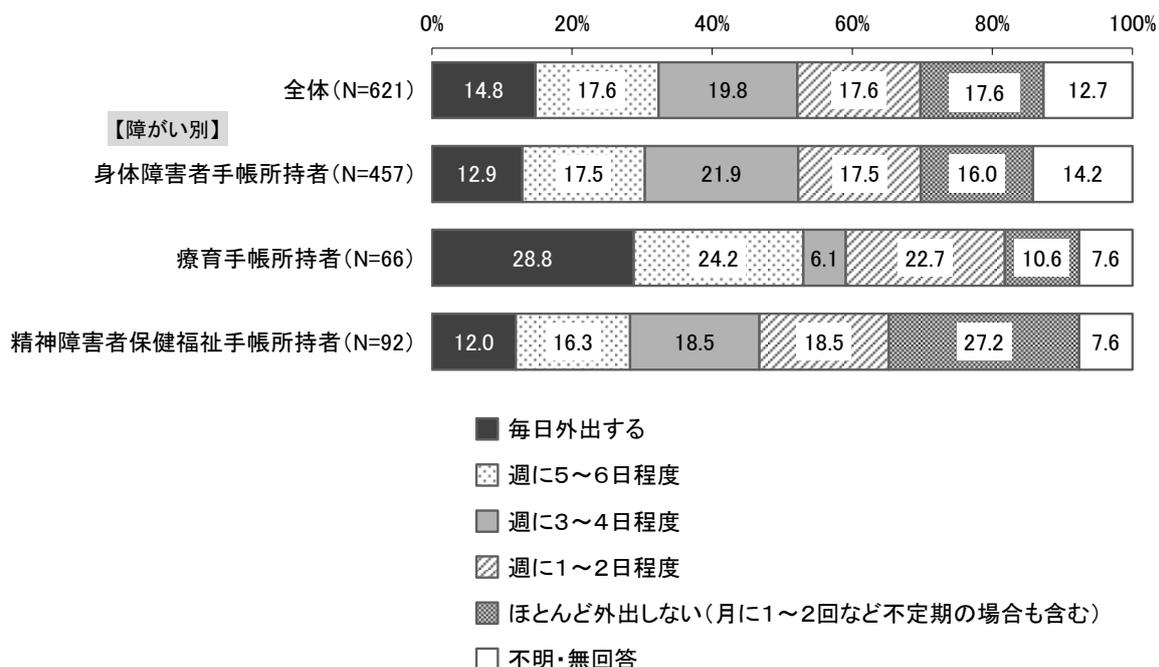
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「週に1～2日程度」が21.9%、療育手帳所持者で「週に5～6日程度」が27.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほとんど外出しない(月に1～2回など不定期の場合も含む)」が28.3%と、それぞれ最も高くなっています。



(2)新型コロナウイルス感染症発生よりも前

新型コロナウイルス感染症発生よりも前、1週間にどの程度外出していたかについて、全体で「週に3～4日程度」が19.8%と最も高く、次いで「週に5～6日程度」「週に1～2日程度」「ほとんど外出しない（月に1～2回など不定期の場合も含む）」がそれぞれ17.6%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「週に3～4日程度」が21.9%、療育手帳所持者で「毎日外出する」が28.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほとんど外出しない（月に1～2回など不定期の場合も含む）」が27.2%と、それぞれ最も高くなっています。



【「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の比較結果】

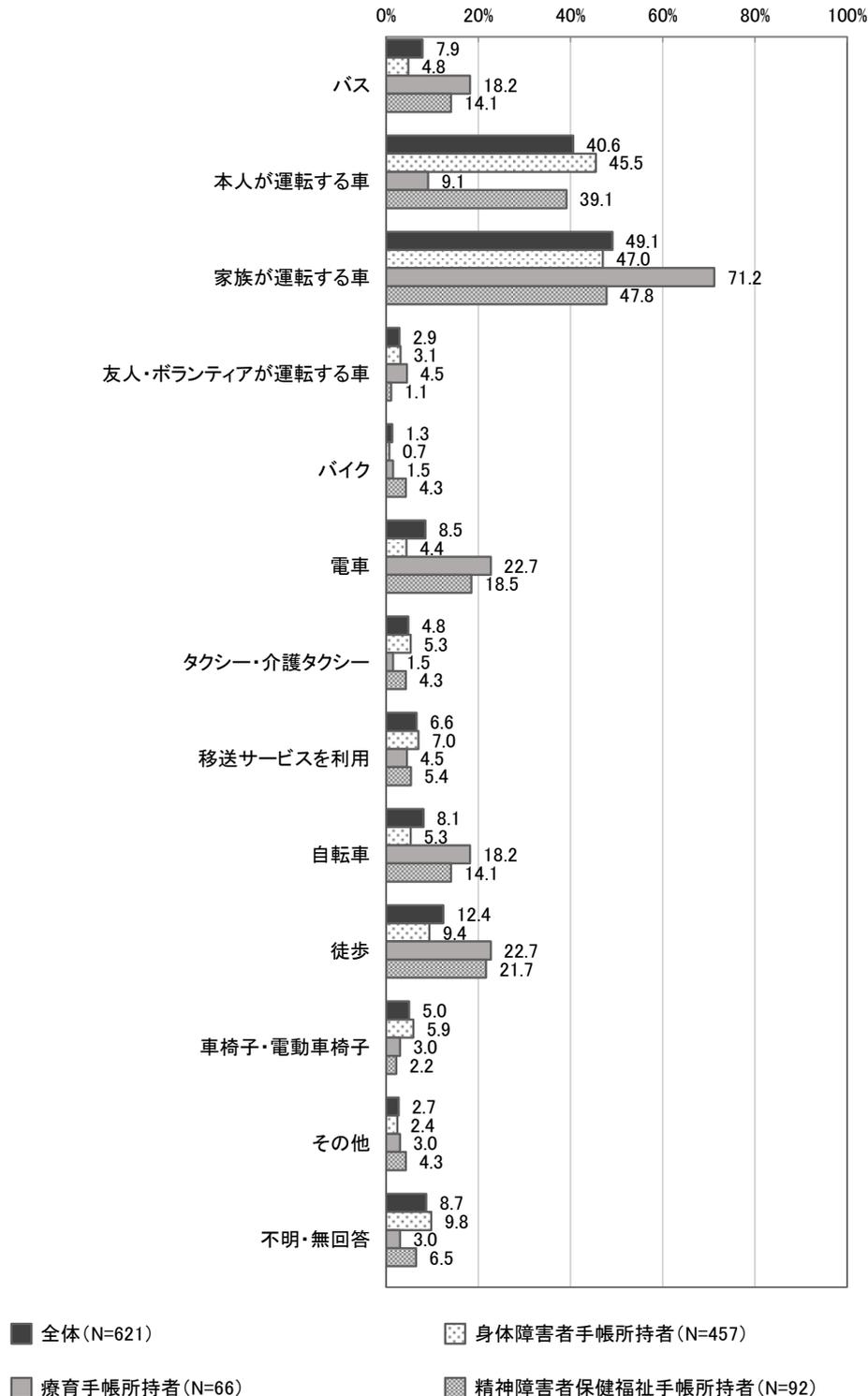
「①現在」と「②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前」の1週間にどの程度外出しているかの比較は、「週に1～2日程度」が3.7ポイント差で最も高くなっています。

区分	N=	毎日外出する	週に5～6日程度	週に3～4日程度	週に1～2日程度	ほとんど外出しない(月に1～2回など不定期の場合も含む)	不明・無回答
①現在	621	14.0	15.9	19.2	21.3	20.8	8.9
②新型コロナウイルス感染症の影響を受けるよりも前	621	14.8	17.6	19.8	17.6	17.6	12.7

問 48 外出する際の交通手段は何ですか。(主なもの3つまでに○)

外出する際の交通手段について、全体で「家族が運転する車」が49.1%と最も高く、次いで「本人が運転する車」が40.6%となっています。

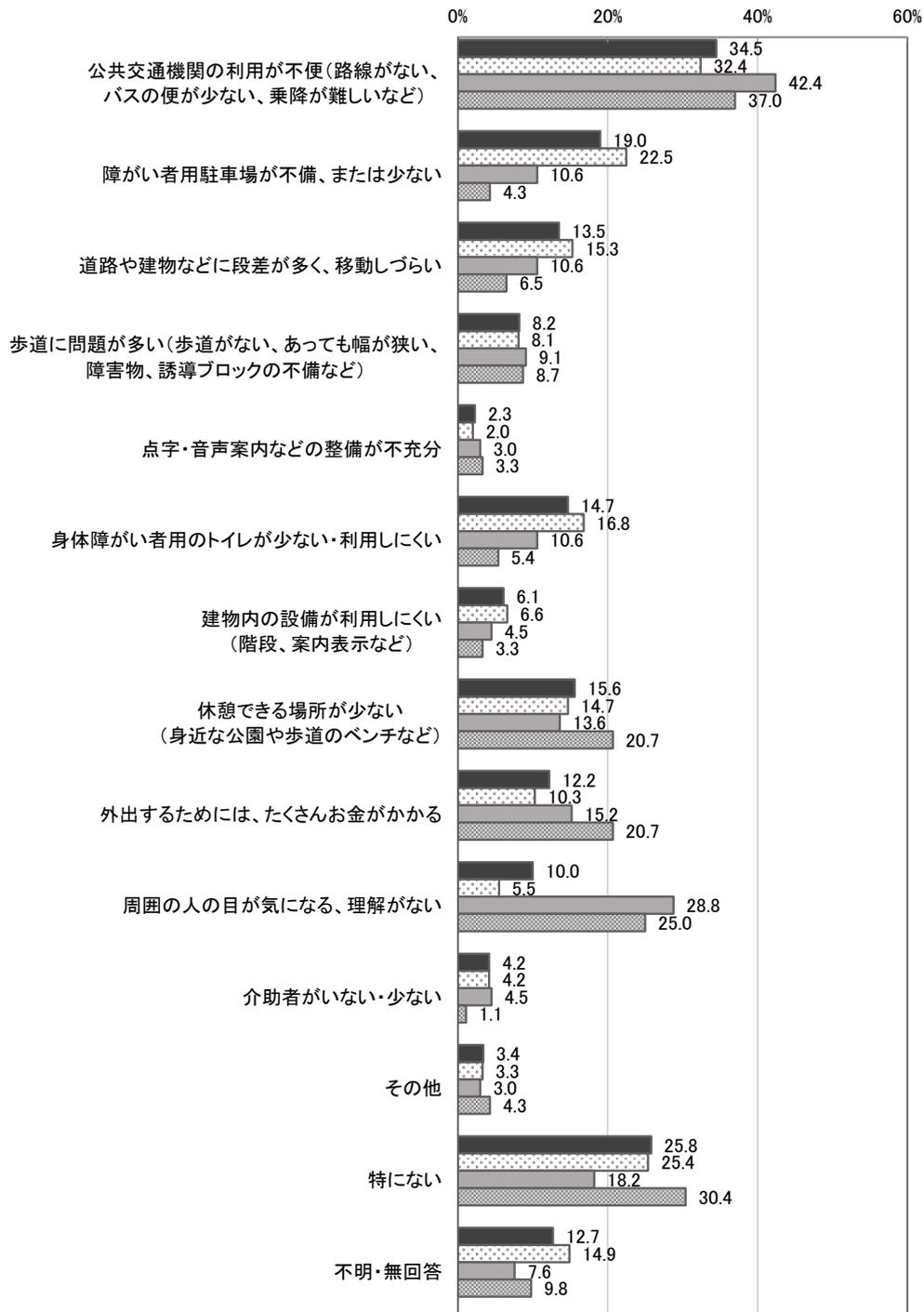
障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「家族が運転する車」が、それぞれ最も高くなっています。



問 49 外出のとき、不便に感じたり困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出のとき、不便に感じたり困ることについて、全体で「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」が34.5%と最も高く、次いで「特にない」が25.8%となっています。

障がい別にみると、いずれの手帳所持者も「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」が、それぞれ最も高くなっています。



■ 全体(N=621)

□ 身体障害者手帳所持者(N=457)

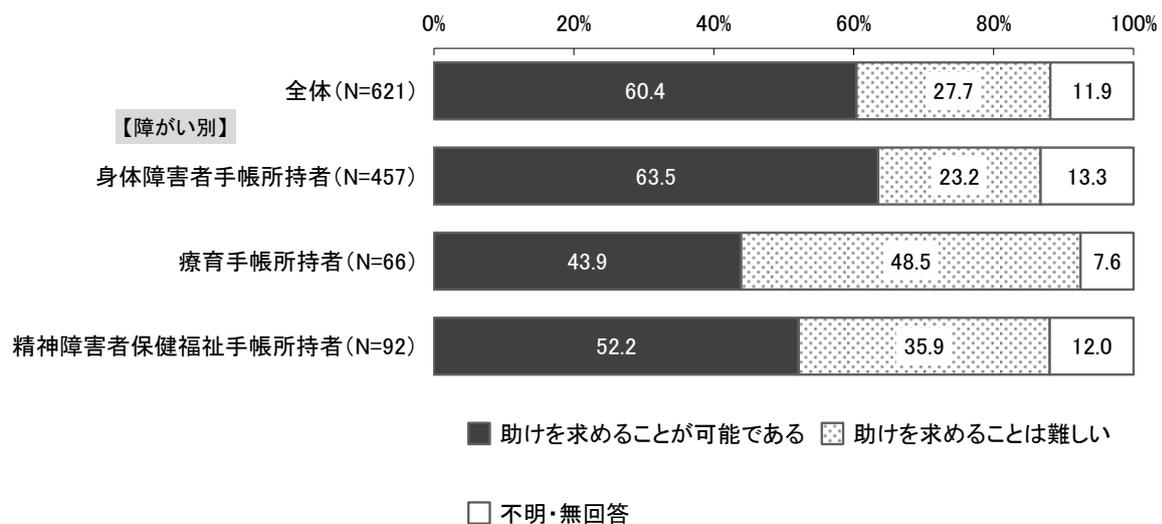
■ 療育手帳所持者(N=66)

■ 精神障害者保健福祉手帳所持者(N=92)

問 50 急な困りごとが発生した際に、あなた自身の力で誰かに助けを求められますか。(1つに○)

急な困りごとが発生した際に、自身の力で誰かに助けを求められるかについて、全体で「助けを求めることが可能である」が60.4%、「助けを求めるとは難しい」が27.7%となっています。

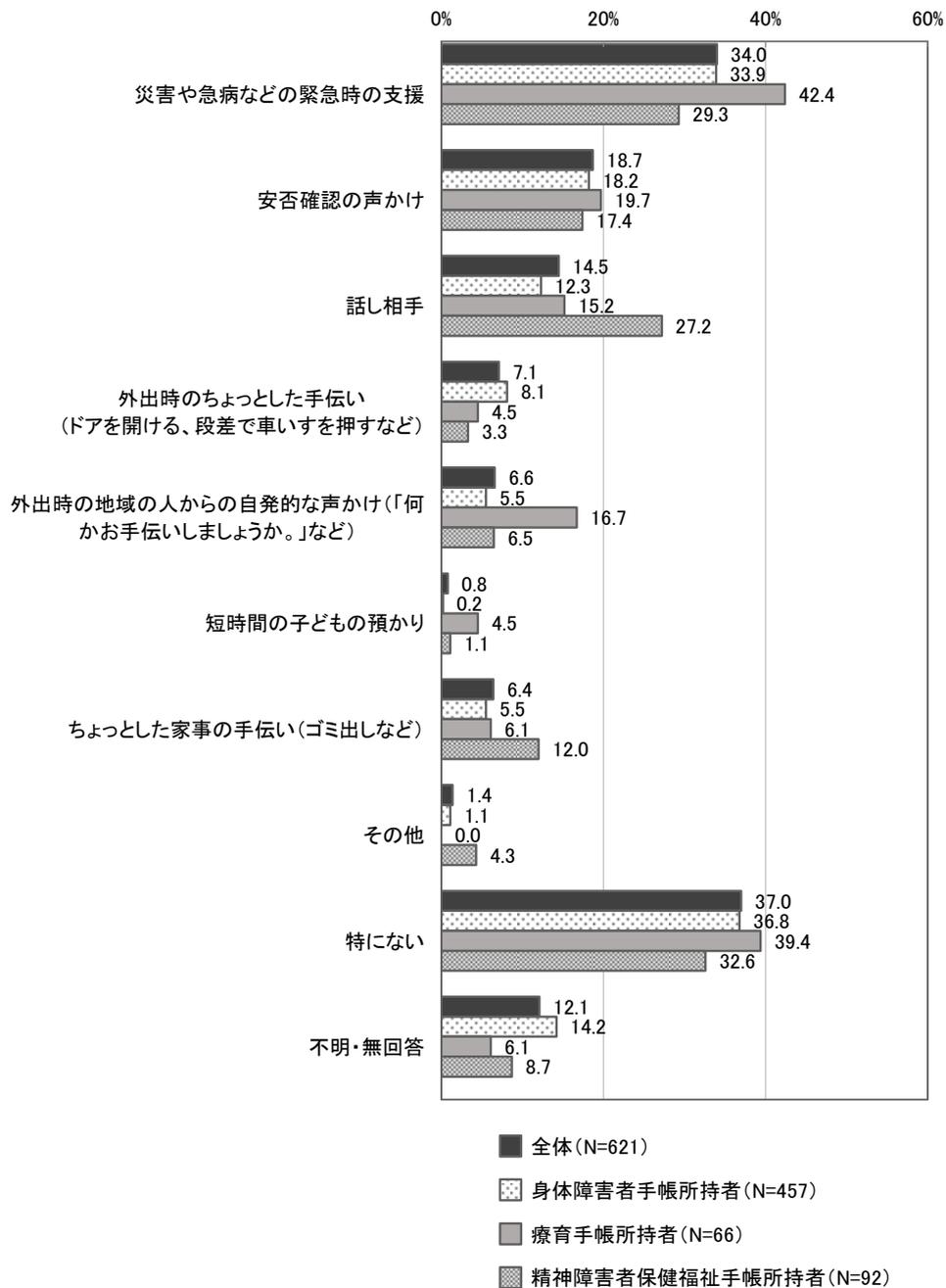
障がい別にみると、「助けを求めるとは難しい」が身体障害者手帳所持者が23.2%、療育手帳所持者が48.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者が35.9%となっています。



問 51 日常生活で地域の人に手助けしてもらった(もらいたい)ことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

日常生活で地域の人に手助けしてもらった(もらいたい)ことについて、全体で「災害や急病などの緊急時の支援」が34.0%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が18.7%となっています。

障がい別にみると、「災害や急病などの緊急時の支援」が身体障害者手帳所持者で33.9%、療育手帳所持者で42.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で29.3%と、それぞれ最も高くなっています。なお、療育手帳所持者で「話し相手」が27.2%と、の障がい区分と比べて高くなっています。

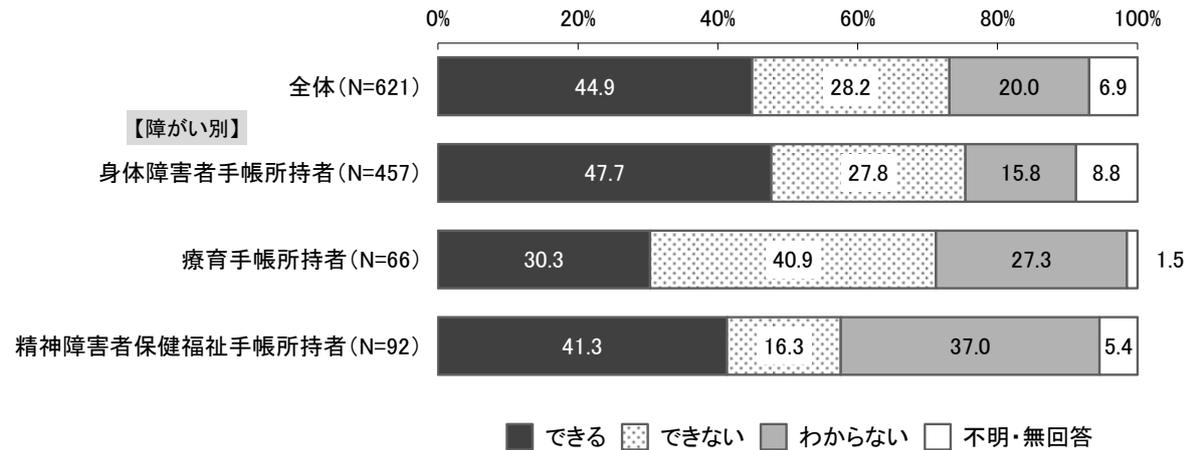


問 52 地震など災害発生時に、自分一人で避難することができますか。(それぞれ1つに○)

①昼間

昼間、地震など災害発生時に、自分一人で避難することができるかについて、全体で「できる」が44.9%、「できない」が28.2%、「わからない」が20.0%となっています。

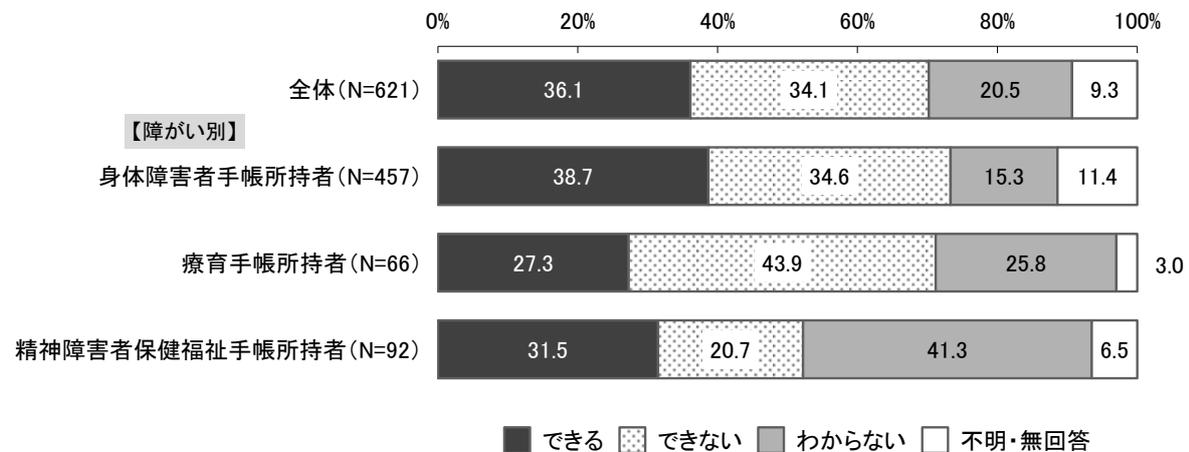
障がい別にみると、「できない」が身体障害者手帳所持者が27.8%、療育手帳所持者が40.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者が16.3%となっています。



②夜間

夜間、地震など災害発生時に、自分一人で避難することができるかについて、全体で「できる」が36.1%、「できない」が34.1%、「わからない」が20.5%となっています。

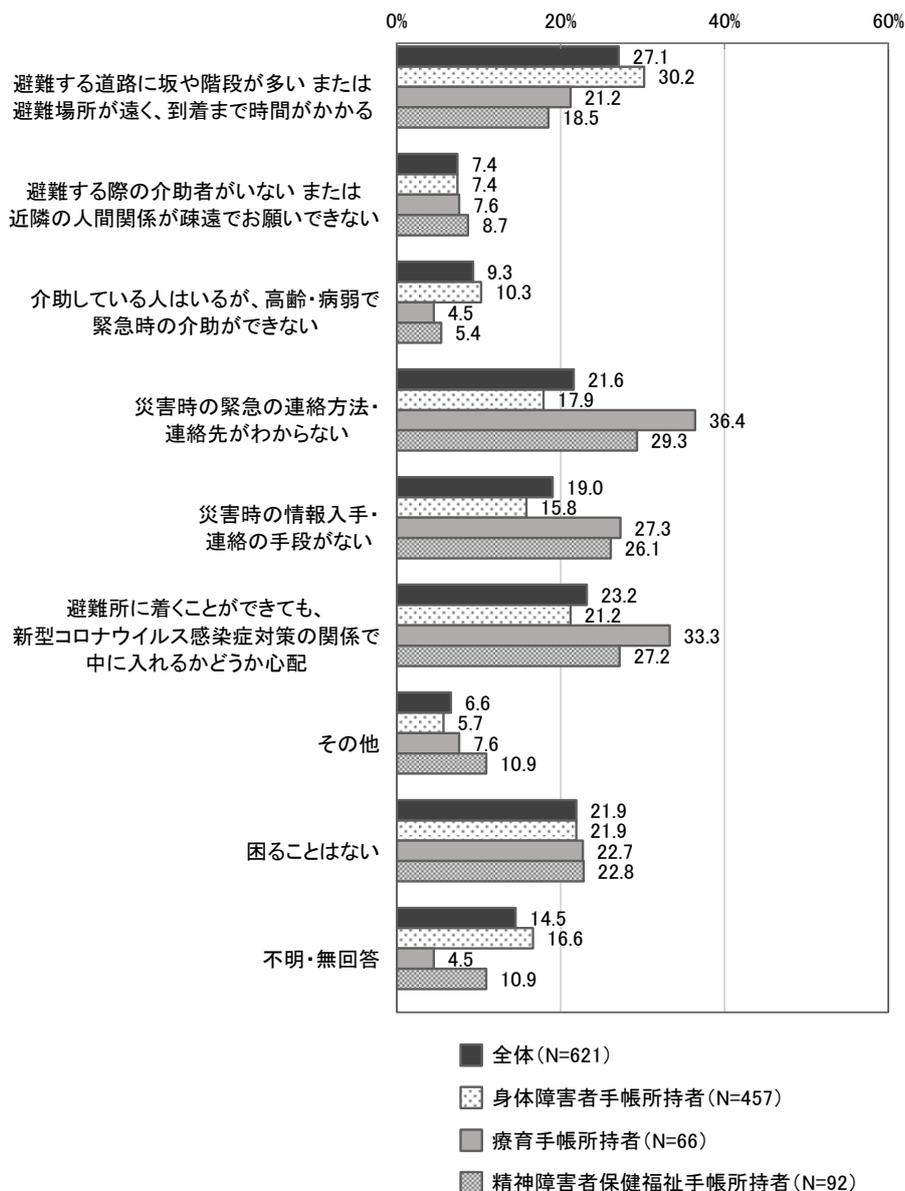
障がい別にみると、「できない」が身体障害者手帳所持者が34.6%、療育手帳所持者が43.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者が20.7%となっています。



問 53 避難するのに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

避難するのに困ることについて、全体で「避難する道路に坂や階段が多い または 避難場所が遠く、到着まで時間がかかる」が27.1%と最も高く、次いで「避難所に着くことができても、新型コロナウイルス感染症対策の関係で中に入れるかどうか心配」が23.2%となっています。

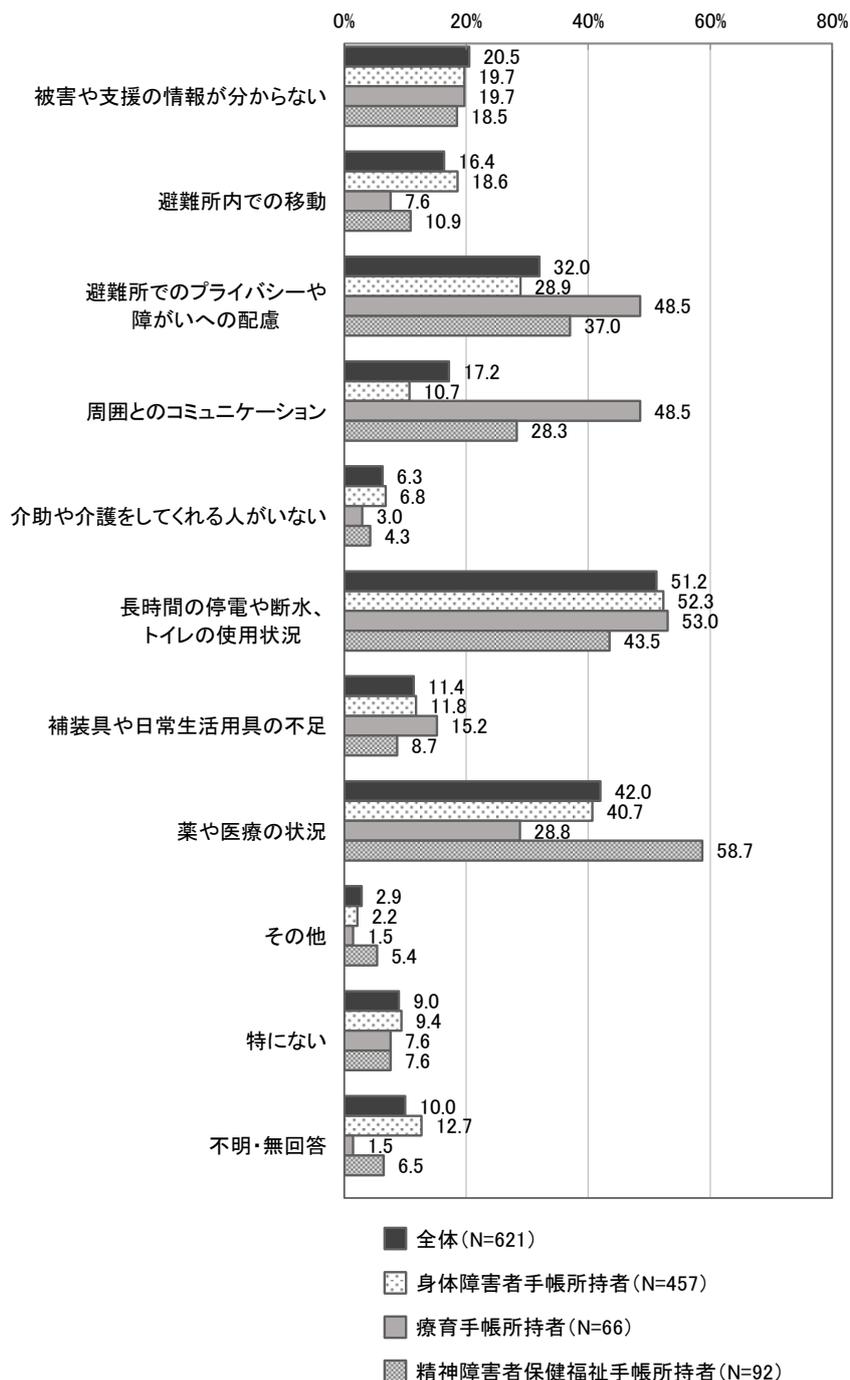
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「避難する道路に坂や階段が多い または 避難場所が遠く、到着まで時間がかかる」が30.2%、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「災害時の緊急の連絡方法・連絡先がわからない」がそれぞれ36.4%、29.3%と、最も高くなっています。



**問 54 地震など災害発生時に避難所などでの生活で、不安や困ることは何だと思えますか。
(主なもの3つまでに○)**

地震など災害発生時に避難所などでの生活で、不安や困ることについて、全体で「長時間の停電や断水、トイレの使用状況」が51.2%と最も高く、次いで「薬や医療の状況」が42.0%となっています。

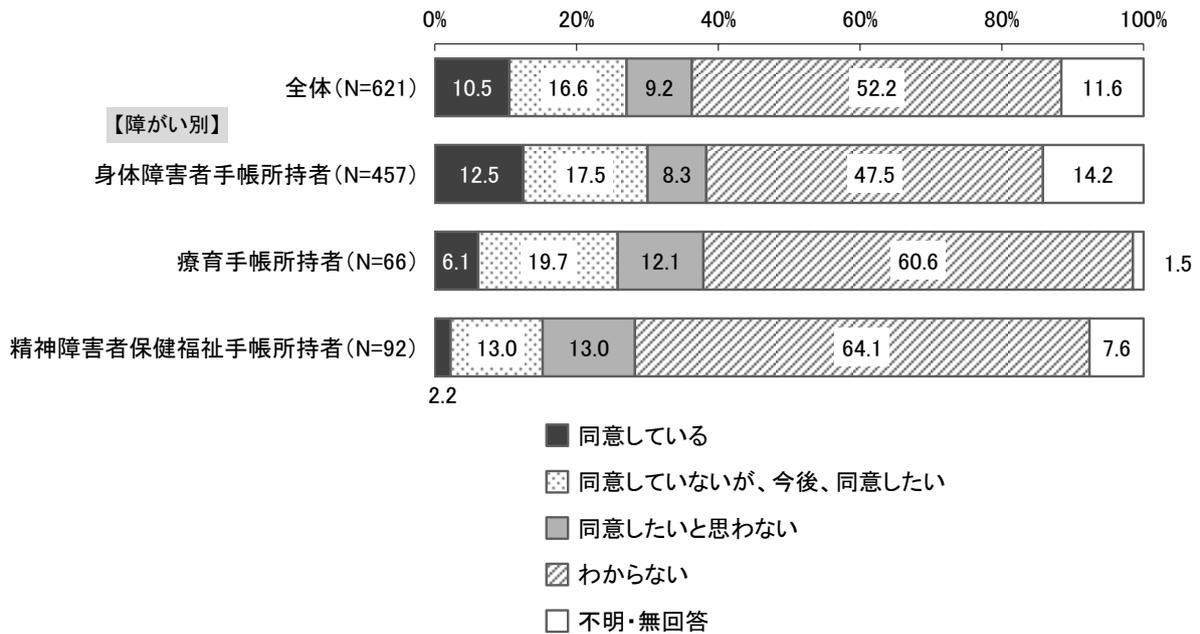
障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と療育手帳所持者で「長時間の停電や断水、トイレの使用状況」がそれぞれ52.3%、53.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「薬や医療の状況」が58.7%と、それぞれ最も高くなっています。なお、療育手帳所持者で「周囲とのコミュニケーション」が48.5%と、他の障がい区分と比べて高くなっています。



**問 55 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。
(1つに○)**

避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意するかについて、全体で「わからない」が52.2%と最も高く、次いで「同意していないが、今後、同意したい」が16.6%となっています。なお、「同意している」は10.5%にとどまっています。

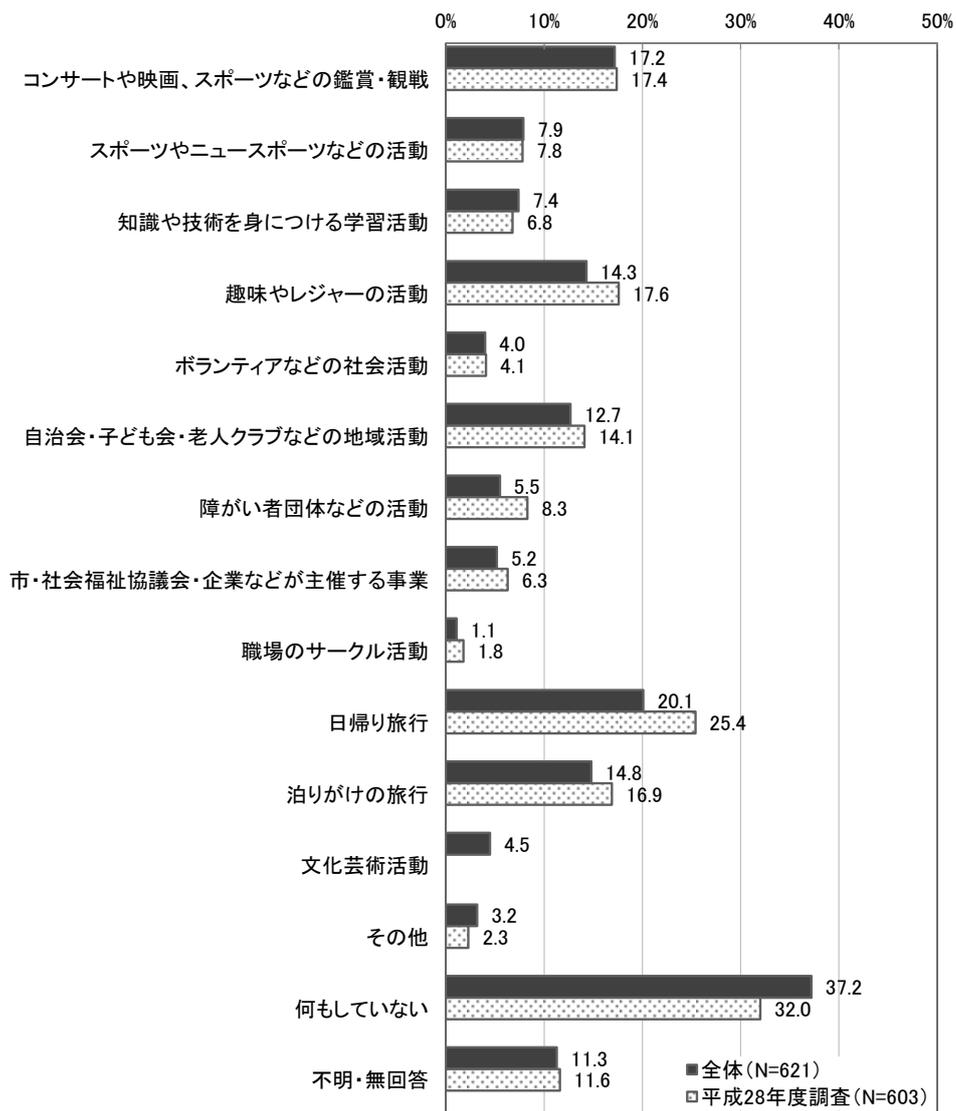
障がい別にみると、「同意している」が身体障害者手帳所持者で12.5%、療育手帳所持者で6.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者で2.2%となっています。



問 56 あなたは、今年までの過去3年間に趣味や学習・スポーツなどの活動をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

今年までの過去3年間に趣味や学習・スポーツなどの活動をしたことがあるかについて、全体で「何もしていない」が37.2%と最も高く、次いで「日帰り旅行」が20.1%となっています。平成28年度調査と比較すると、「日帰り旅行」が5.3ポイント低くなっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者で「何もしていない」が37.4%、38.0%、療育手帳所持者で「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦」が36.4%と、それぞれ最も高くなっています。



※平成28年度調査では、「文化芸術活動」の選択肢はありません。

■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・観戦	スポーツやニューススポーツなどの活動	知識や技術を身につける学習活動	趣味やレジャーの活動	ボランティアなどの社会活動	自治会・子ども会・老人クラブなどの地域活動	障がい者団体などの活動	市・社会福祉協議会・企業などが主催する事業	職場のサークル活動	日帰り旅行
身体障害者手帳所持者	457	13.3	5.7	6.1	13.3	4.8	14.9	5.0	5.0	0.7	21.2
療育手帳所持者	66	36.4	13.6	16.7	13.6	0.0	7.6	12.1	10.6	3.0	24.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	25.0	14.1	9.8	22.8	2.2	4.3	7.6	3.3	1.1	16.3

区分	N =	泊りがけの旅行	文化芸術活動	その他	何もしていない	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	16.0	3.9	2.6	37.4	14.0
療育手帳所持者	66	19.7	3.0	0.0	28.8	4.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	13.0	6.5	7.6	38.0	4.3

※平成 28 年度調査では、「文化芸術活動」の選択肢はありません。

問 57 障がいのある方にとって、今の海津市は暮らしやすいまちだと思いますか。
(1つに○)

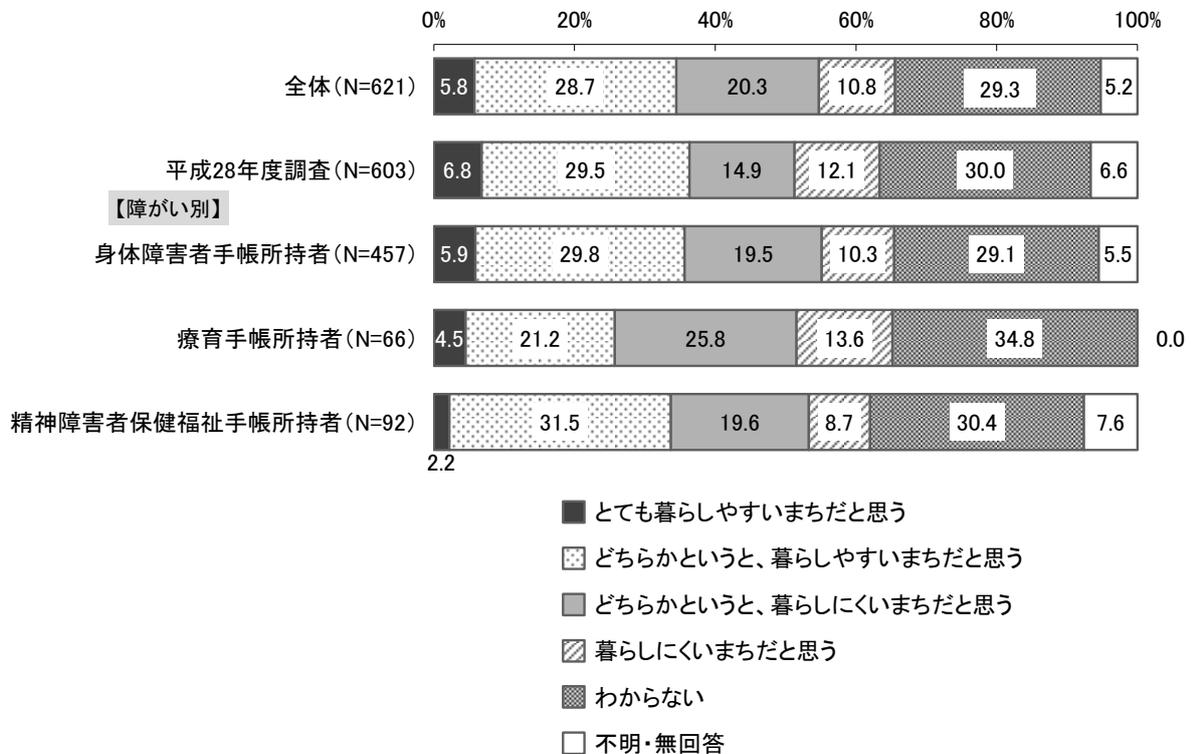
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『暮らしやすい』 …「とても暮らしやすいまちだと思う」と「どちらかという、暮らしやすいまちだと思う」の合算
『暮らしにくい』 …「暮らしにくいまちだと思う」と「どちらかという、暮らしにくいまちだと思う」の合算

障がいのある方にとって、今の海津市は暮らしやすいまちだと思うかについて、全体で『暮らしやすい』が34.5%、『暮らしにくい』が31.1%、「わからない」が29.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、『暮らしにくい』が4.1ポイント高くなっています。

障がい別にみると、『暮らしやすい』が身体障害者手帳所持者で35.7%、療育手帳所持者で25.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で33.7%となっています。

年齢区分別にみると、65～74歳で『暮らしやすい』が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

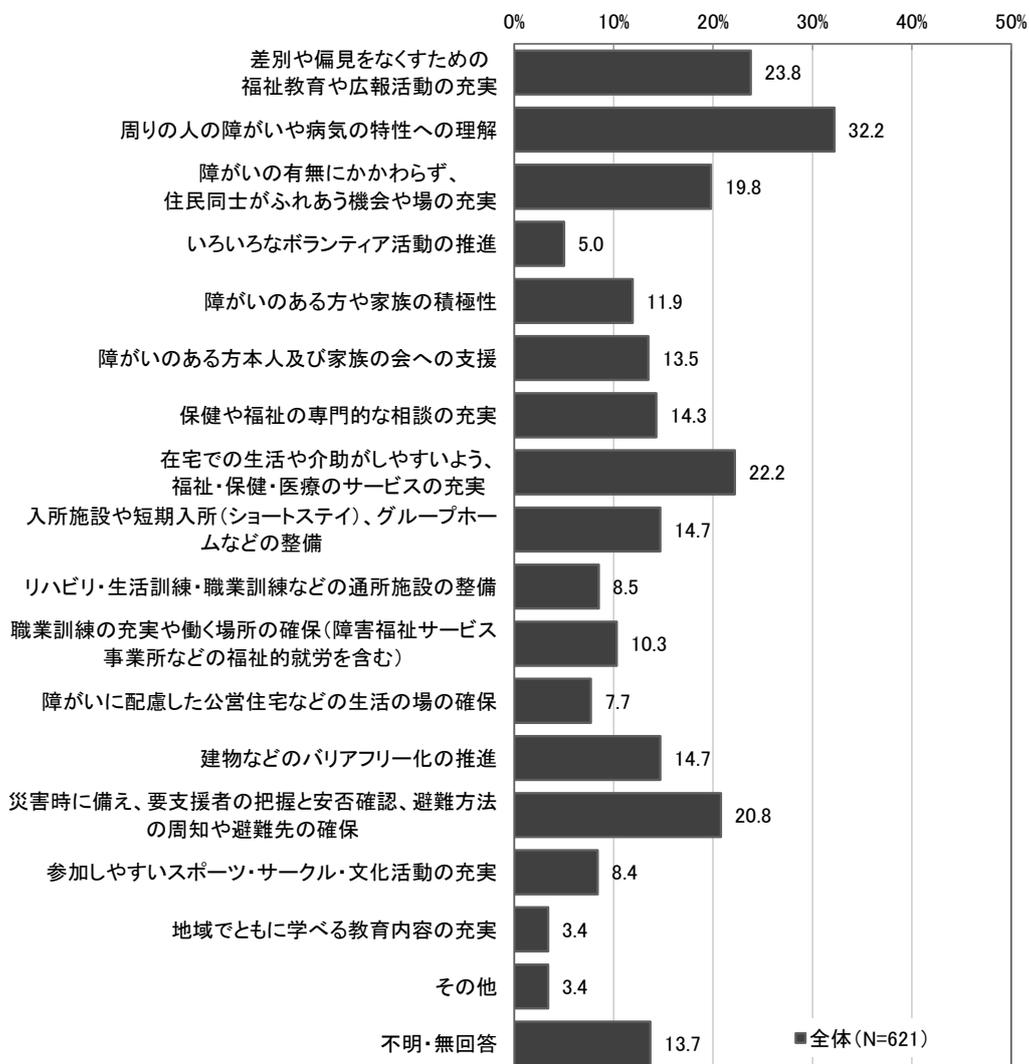
(単位：%)

区分		N=	とても暮らしやすいまちだと思う	どちらかというところ、暮らしやすいまちだと思う	どちらかというところ、暮らしにくいまちだと思う	暮らしにくいまちだと思う	わからない	不明・無回答
年齢区分別	18歳未満	25	0.0	8.0	24.0	12.0	56.0	0.0
	18～39歳	62	8.1	27.4	27.4	17.7	17.7	1.6
	40～64歳	142	2.1	26.1	25.4	11.3	30.3	4.9
	65～74歳	157	6.4	33.1	17.8	8.9	29.9	3.8
	75歳以上	216	7.4	30.1	16.7	8.8	28.7	8.3

問 58 障がいのある方にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

障がいのある方にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要かについて、全体で「周りの人の障がいや病気の特長への理解」が32.2%と最も高く、次いで「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」が23.8%となっています。

障がい別にみると、身体障害者手帳所持者で「在宅での生活や介助がしやすいよう、福祉・保健・医療のサービスの充実」「障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実」がそれぞれ25.4%、22.1%、療育手帳所持者で「職業訓練の充実や働く場所の確保（障害福祉サービス事業所などの福祉的就労を含む）」「入所施設や短期入所（ショートステイ）、グループホームなどの整備」がそれぞれ30.3%、24.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「保健や福祉の専門的な相談の充実」「障がいのある方や家族の積極性」がそれぞれ21.7%、19.6%となっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分	N =	差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実	周りの人の障がいや病気の特性への理解	障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	いろいろなボランティア活動の推進	障がいのある方や家族の積極性	障がいのある方本人及び家族の会への支援	保健や福祉の専門的な相談の充実	在宅での生活や介助がしやすいよう、福祉・保健・医療のサービスの充実	入所施設や短期入所（ショートステイ）、グループホームなどの整備	リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備
身体障害者手帳所持者	457	20.8	29.1	22.1	4.4	10.5	13.1	12.9	25.4	14.7	8.3
療育手帳所持者	66	39.4	47.0	16.7	10.6	12.1	15.2	12.1	15.2	24.2	13.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	27.2	40.2	7.6	4.3	19.6	13.0	21.7	10.9	6.5	5.4

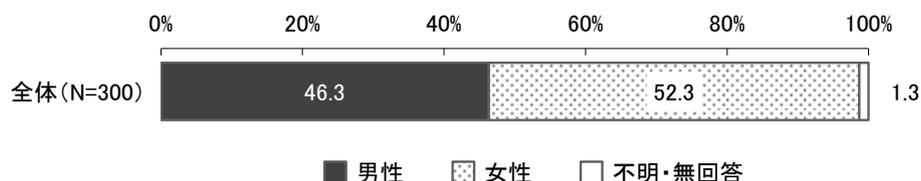
区分	N =	職業訓練の充実や働く場所の確保（障害福祉サービス事業所などの福祉的就労を含む）	障がいに配慮した公営住宅などの生活の場の確保	建物などのバリアフリー化の推進	避難方法の周知や避難先の確保	参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実	地域とともに学べる教育内容の充実	その他	不明・無回答
身体障害者手帳所持者	457	5.5	5.5	17.3	23.2	6.3	2.8	3.3	16.2
療育手帳所持者	66	30.3	12.1	7.6	9.1	12.1	4.5	1.5	4.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	92	18.5	16.3	4.3	15.2	13.0	5.4	4.3	8.7

III 一般調査結果

1 あなた自身のことについて、おうかがいします。

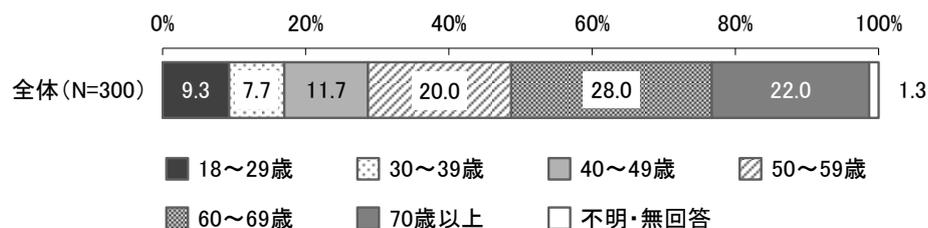
問1 あなたが思っている性別に○印をつけてください。

性別について、「男性」が46.3%、「女性」が52.3%となっています。



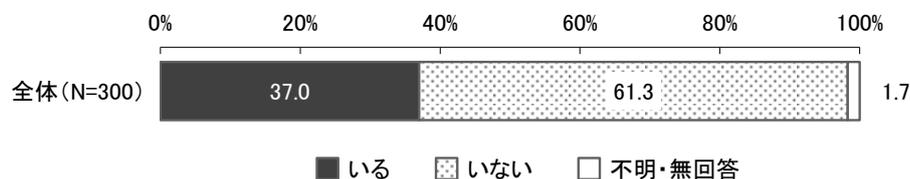
問2 あなたの年齢はおいくつですか。(令和3年8月1日現在)

年齢について、「60～69歳」が28.0%と最も高く、次いで「70歳以上」が22.0%となっています。



問3 あなたの身近に障がいのある方はいらっしゃいますか。(1つに○)

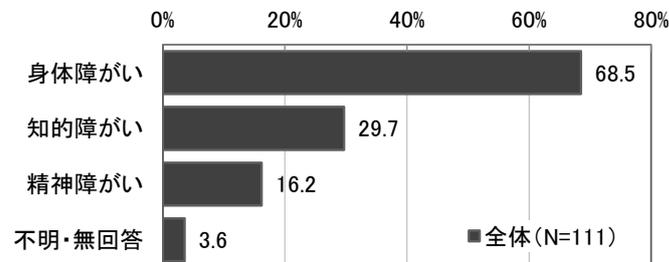
身近に障がいのある方はいるかについて、「いる」が37.0%、「いない」が61.3%となっています。



問3で「1. いる」と答えた方におうかがいします。

問4 その方の障がいの種類をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

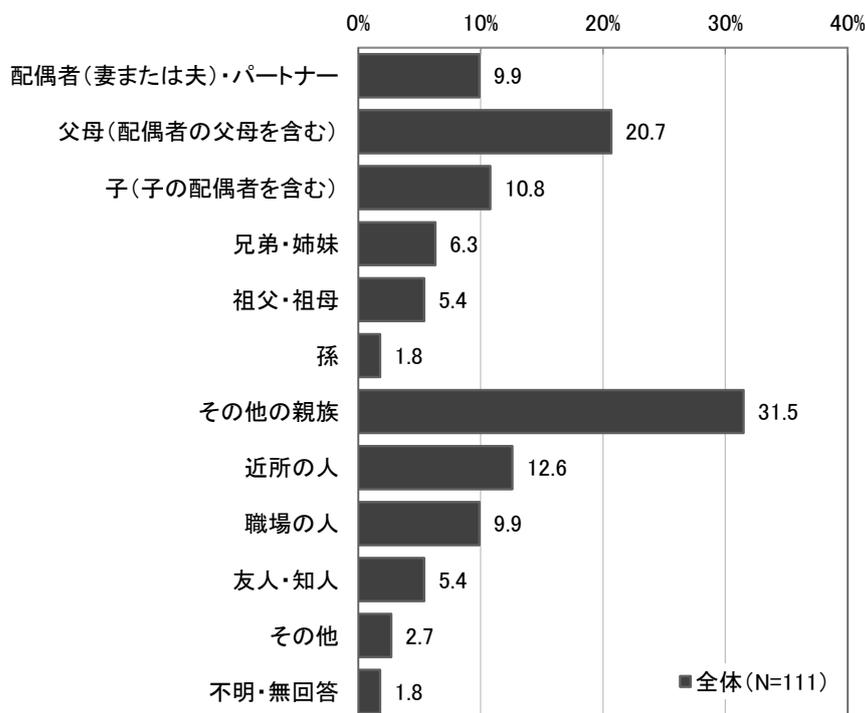
障がいの種類について、「身体障がい」が68.5%、「知的障がい」が29.7%、「精神障がい」が16.2%となっています。



問3で「1. いる」と答えた方におうかがいします。

問5 その方とあなたとは、どのような関係ですか。(あてはまるものすべてに○)

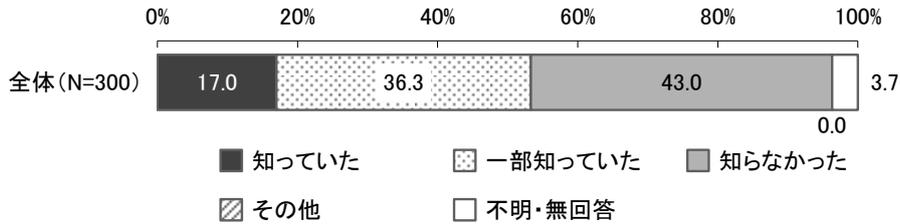
障がいのある方との関係について、「その他の親族」が31.5%と最も高く、次いで「父母（配偶者の父母を含む）」が20.7%となっています。



2 障がいのある方・障がい者施策に対する関心度について、おうかがいします。

問6 「障がい者の定義」についてご存じでしたか。(1つに○)

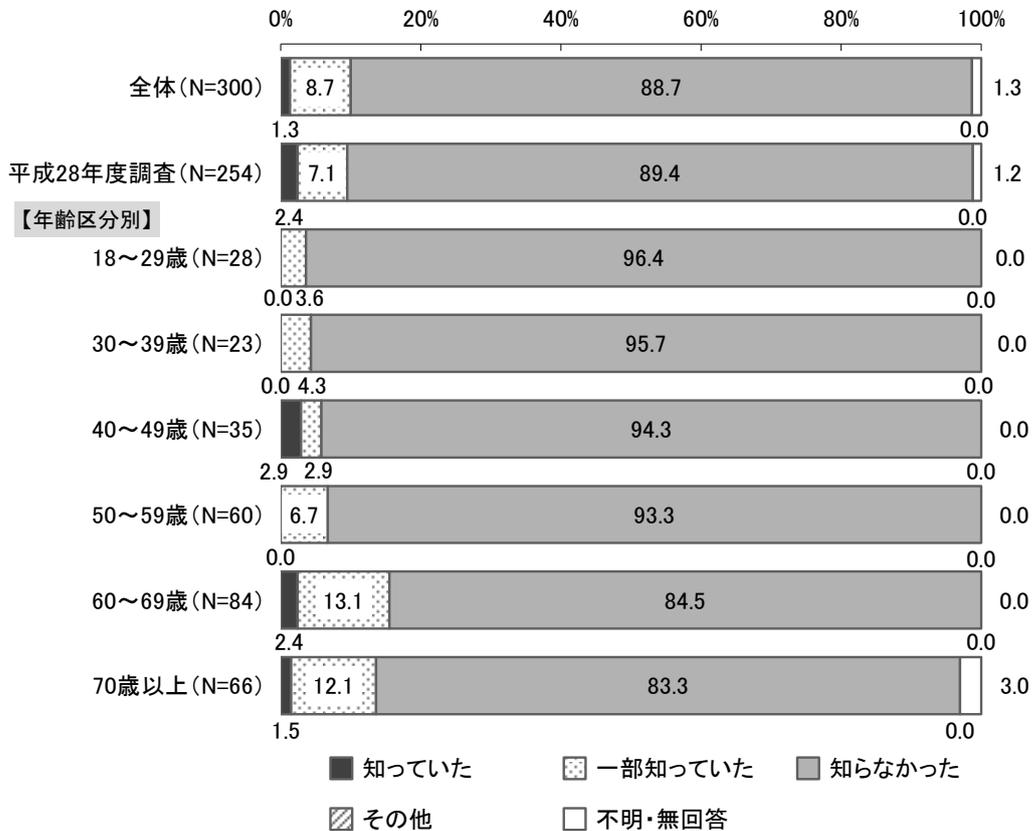
「障がい者の定義」について、「知っていた」が17.0%、「一部知っていた」が36.3%、「知らなかった」が43.0%となっています。



問7 「第3期海津市障がい者計画」「第6期海津市障害福祉計画・第2期障害児福祉計画」についてご存じでしたか。(1つに○)

「第3期海津市障がい者計画」「第6期海津市障害福祉計画・第2期障害児福祉計画」について、全体で「知っていた」が1.3%、「一部知っていた」が8.7%、「知らなかった」が88.7%となっています。平成28年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、60歳以上で「知っていた」「一部知っていた」が他の年齢区分と比べて高くなっているものの、1割程度にとどまっています。



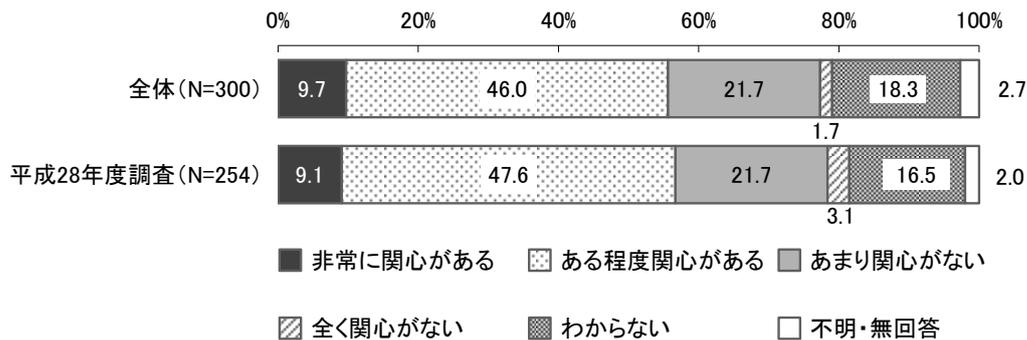
問8 あなたは、障がいのある方の現状や課題について関心がありますか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『関心がある』 …「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合算

『関心がない』 …「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合算

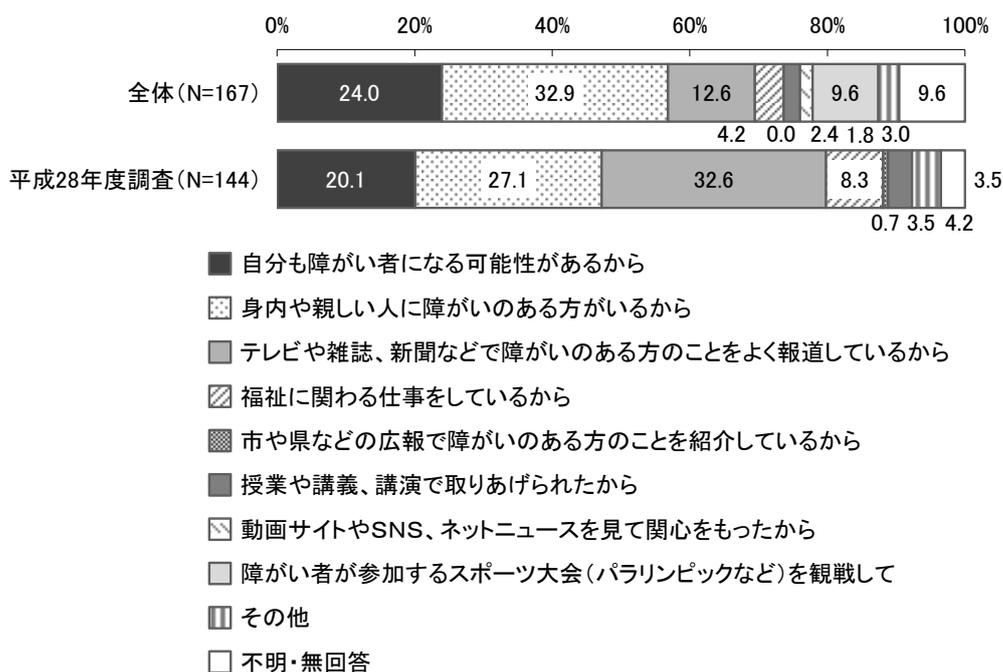
障がいのある方の現状や課題について、全体で『関心がある』が55.7%、『関心がない』が23.4%、「わからない」が18.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



問8で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と答えた方におうかがいします。

問9 関心を持つようになったきっかけは何ですか。(1つに○)

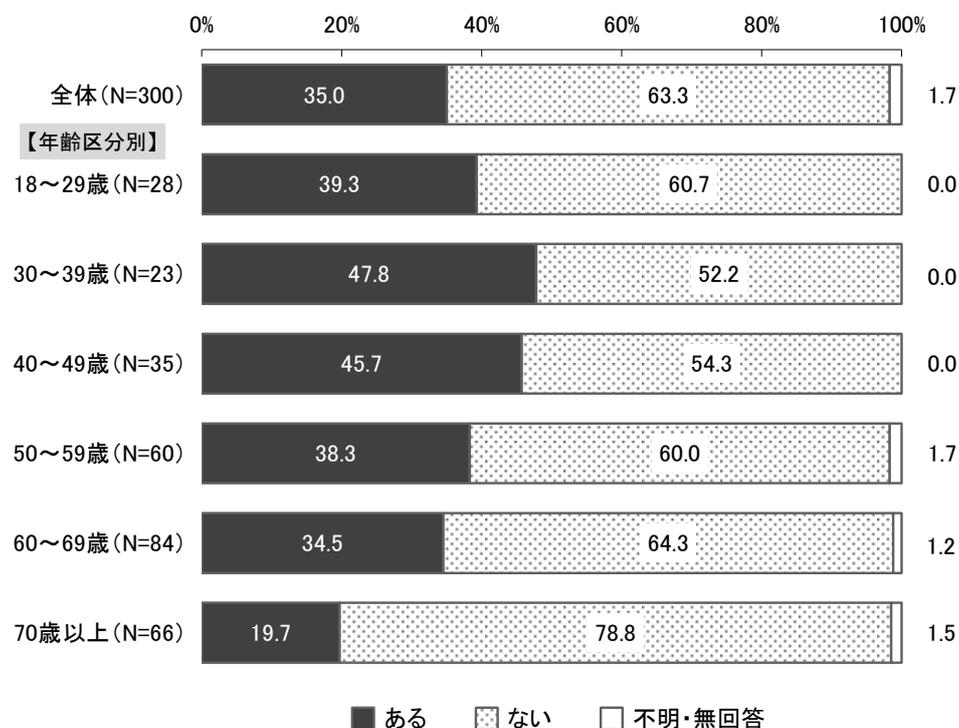
障がいのある方の現状や課題に関心を持つようになったきっかけについて、全体で「身内や親しい人に障がいのある方がいるから」が32.9%と最も高く、次いで「自分も障がい者になる可能性があるから」が24.0%となっています。平成28年度調査と比較すると、「テレビや雑誌、新聞などで障がいのある方のことをよく報道しているから」が20.0ポイント低くなっています。



問 10 あなたは、障がいのある方と一緒に交流や活動をしたことがありますか。(1つに○)

障がいのある方と一緒に交流や活動をしたことがあるかについて、全体で「ある」が35.0%、「ない」が63.3%となっています。

年齢区分別にみると、30～39歳で「ある」が47.8%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。

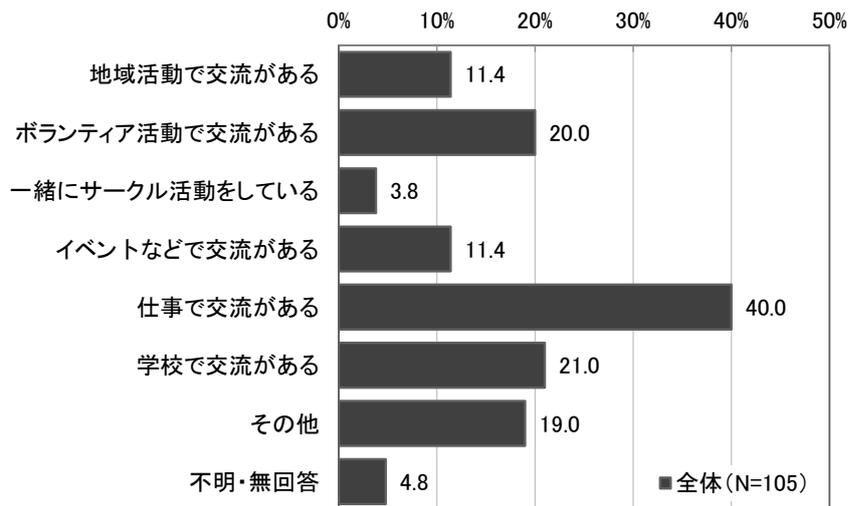


問 10 で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

問 11 それはどんな活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある方との活動について、全体で「仕事で交流がある」が 40.0%と最も高く、次いで「学校で交流がある」が 21.0%となっています。

年齢区分別にみると、60～69 歳で「イベントなどで交流がある」が 24.1%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



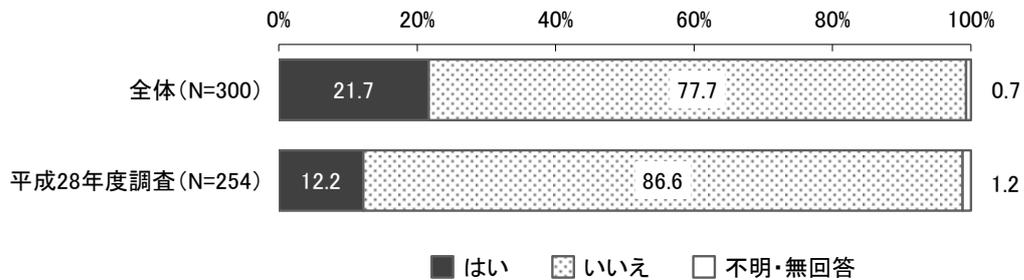
■クロス集計集

(単位：%)

区分		N=	地域活動で交流がある	ボランティア活動で交流がある	一緒にサークル活動をしている	イベントなどで交流がある	仕事で交流がある	学校で交流がある	その他	不明・無回答
年齢区分別	18～29 歳	11	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	63.6	18.2	9.1
	30～39 歳	11	9.1	18.2	0.0	9.1	45.5	9.1	18.2	18.2
	40～49 歳	16	25.0	18.8	0.0	6.3	56.3	18.8	12.5	6.3
	50～59 歳	23	8.7	21.7	4.3	4.3	43.5	21.7	26.1	0.0
	60～69 歳	29	10.3	27.6	10.3	24.1	37.9	6.9	17.2	3.4
	70 歳以上	13	15.4	15.4	0.0	0.0	30.8	30.8	23.1	0.0

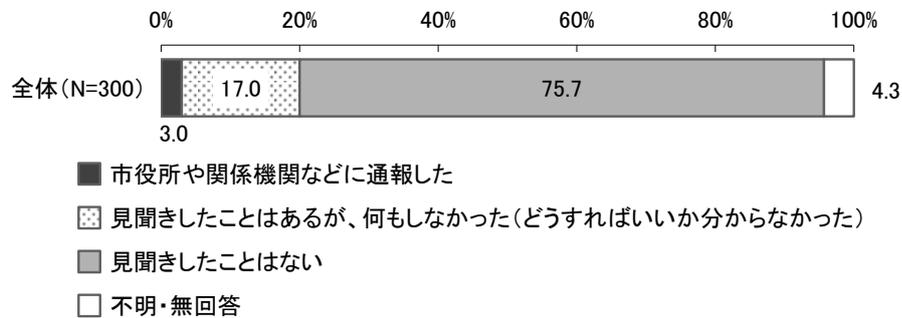
**問 12 障害者差別解消法が平成28年から施行されていることを知っていますか。
(1つに○)**

障害者差別解消法が平成28年から施行されていることを知っているかについて、全体で「はい」が21.7%、「いいえ」が77.7%となっています。平成28年度調査と比較すると、「はい」が9.5ポイント高くなっています。



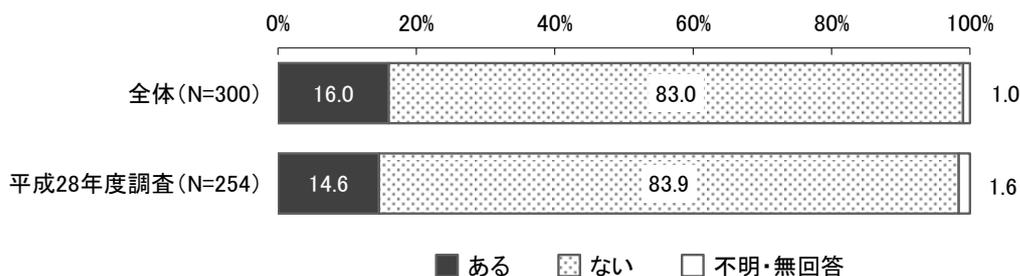
問 13 あなたは、周囲で障がいのある人への差別や虐待があると知ったとき、どのようにされましたか。(1つに○)

周囲で障がいのある人への差別や虐待があると知ったとき、どうするかについて、「市役所や関係機関などに通報した」が3.0%、「見聞きしたことはあるが、何もしなかった(どうすればいいかわからなかった)」が17.0%、「見聞きしたことはない」が75.7%となっています。



問 14 福祉に関するボランティアの経験がありますか。

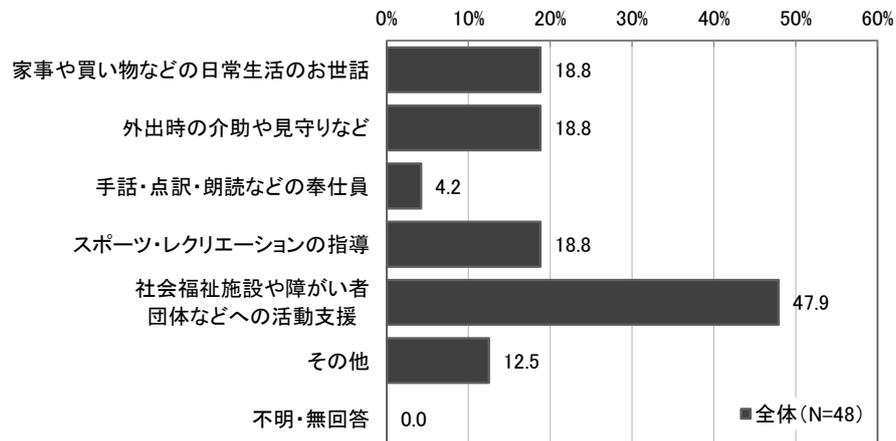
福祉に関するボランティアの経験があるかについて、「ある」が16.0%、「ない」が83.0%となっています。平成28年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



問 14 で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

問 15 それはどんな活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

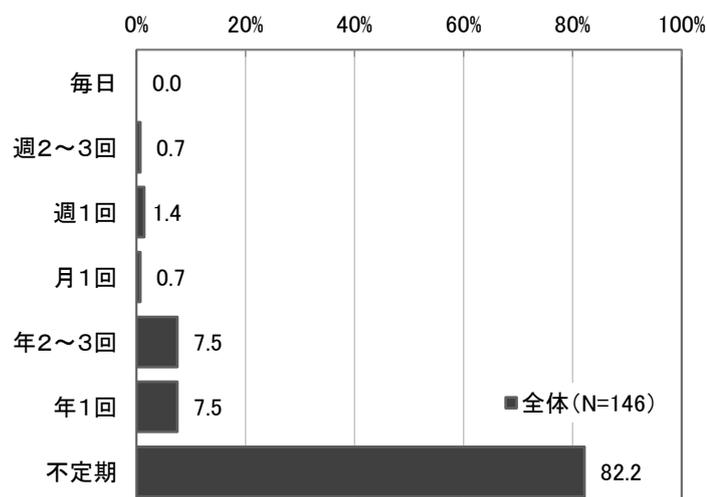
福祉に関するボランティア活動の内容について、「社会福祉施設や障がい者団体などへの活動支援」が 47.9%と最も高く、次いで「家事や買い物などの日常生活のお世話」「外出時の介助や見守りなど」「スポーツ・レクリエーションの指導」がそれぞれ 18.8%となっています。



問 16 ボランティア活動の参加回数ほどのくらいですか。(それぞれ1つに○)

(ア)新型コロナウイルス感染症発生より前

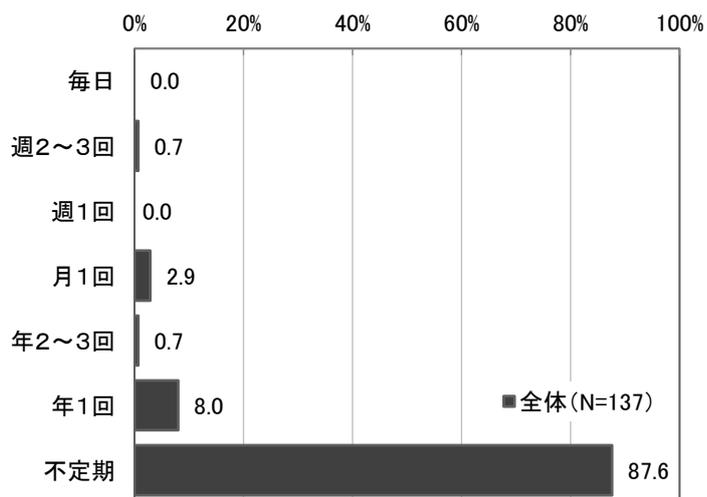
新型コロナウイルス感染症発生より前のボランティア活動の参加回数について、「不定期」が82.2%と最も高く、次いで「年2～3回」「年1回」がそれぞれ7.5%となっています。



※「不明・無回答」が51.3%のため、「不明・無回答」を除いたグラフとしています。

(イ)現在

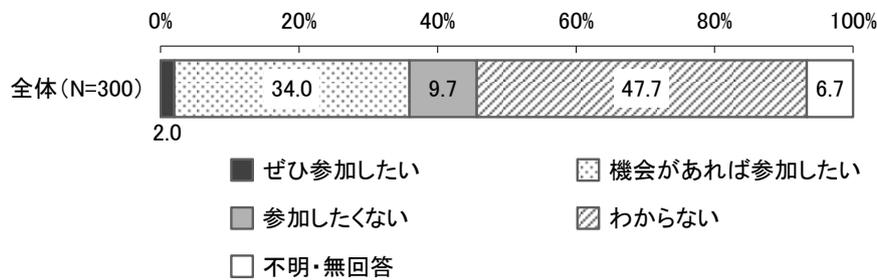
現在のボランティア活動の参加回数について、「不定期」が87.6%と最も高く、次いで「年1回」が8.0%となっています。



※「不明・無回答」が54.3%のため、「不明・無回答」を除いたグラフとしています。

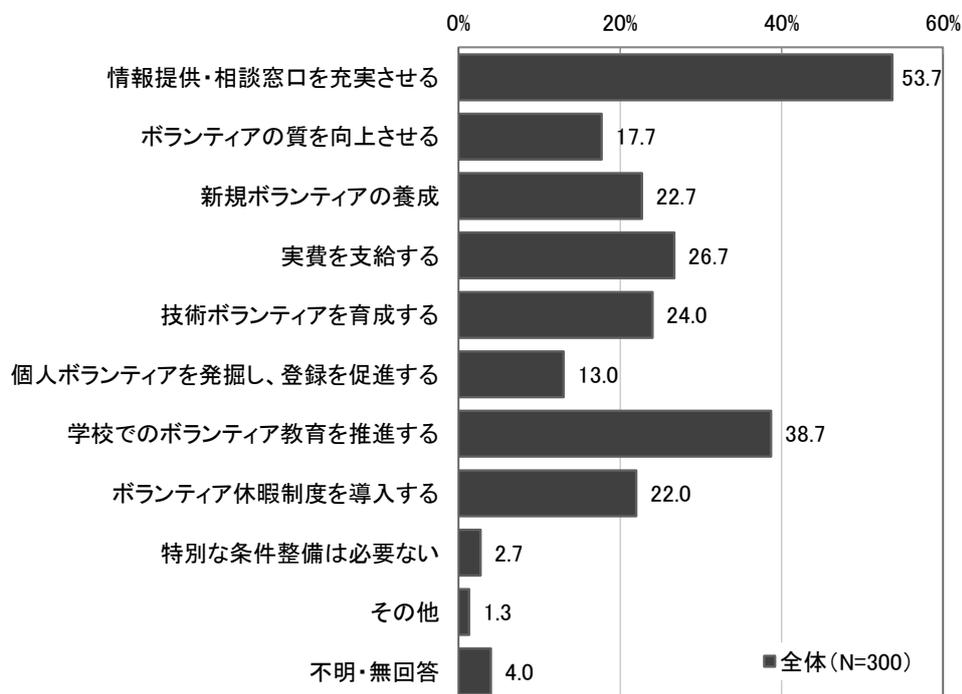
問 17 今後、福祉に関するボランティア活動に参加したいと思いませんか。(1つに○)

今後、福祉に関するボランティア活動に参加したいかについて、「わからない」が47.7%と最も高く、次いで「機会があれば参加したい」が34.0%となっています。



問 18 福祉に関するボランティア活動を活発にするためには、どのような施策が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

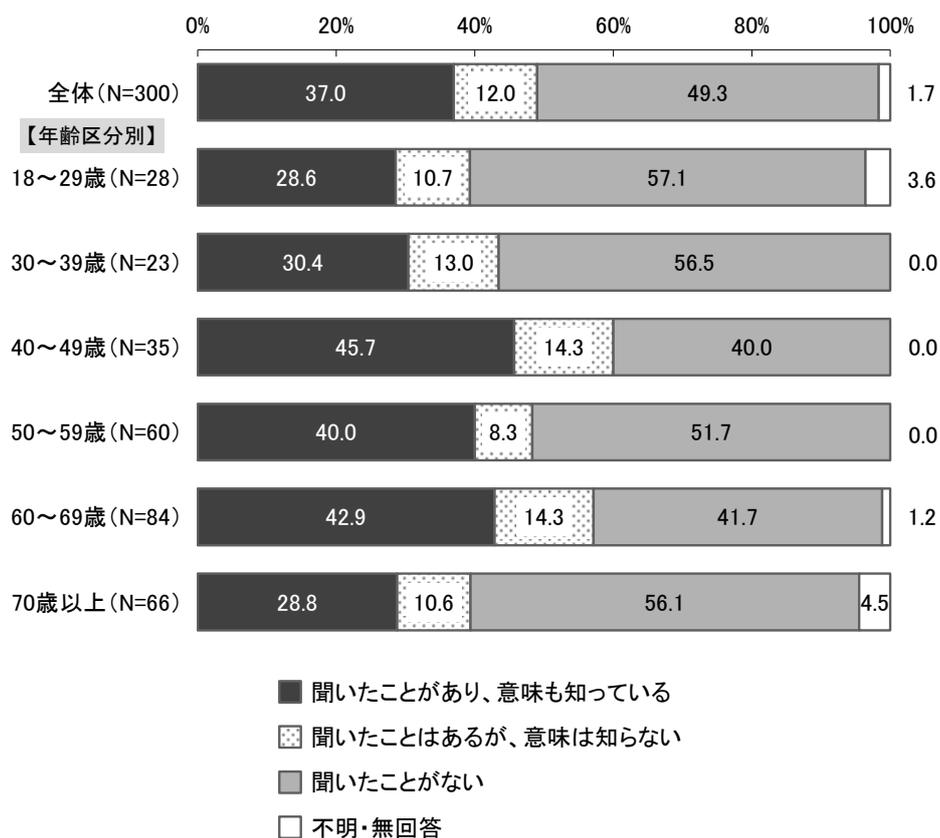
福祉に関するボランティア活動を活発にするためには、どのような施策が必要かについて、「情報提供・相談窓口を充実させる」が53.7%と最も高く、次いで「学校でのボランティア教育を推進する」が38.7%となっています。



問 19 あなたは、ヤングケアラーという言葉を知っていますか。(1つに○)

ヤングケアラーという言葉を知っているかどうかについて、全体で「知っており、意味も知っている」が37.0%、「知ってはいるが、意味は知らない」が12.0%、「知らない」が49.3%となっています。

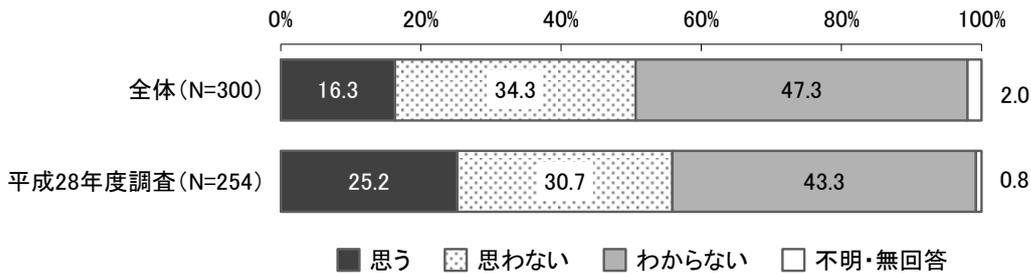
年齢区別にみると、40～49歳で「知っており、意味も知っている」が45.7%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



3 障がいのある方の社会参加について、おうかがいします。

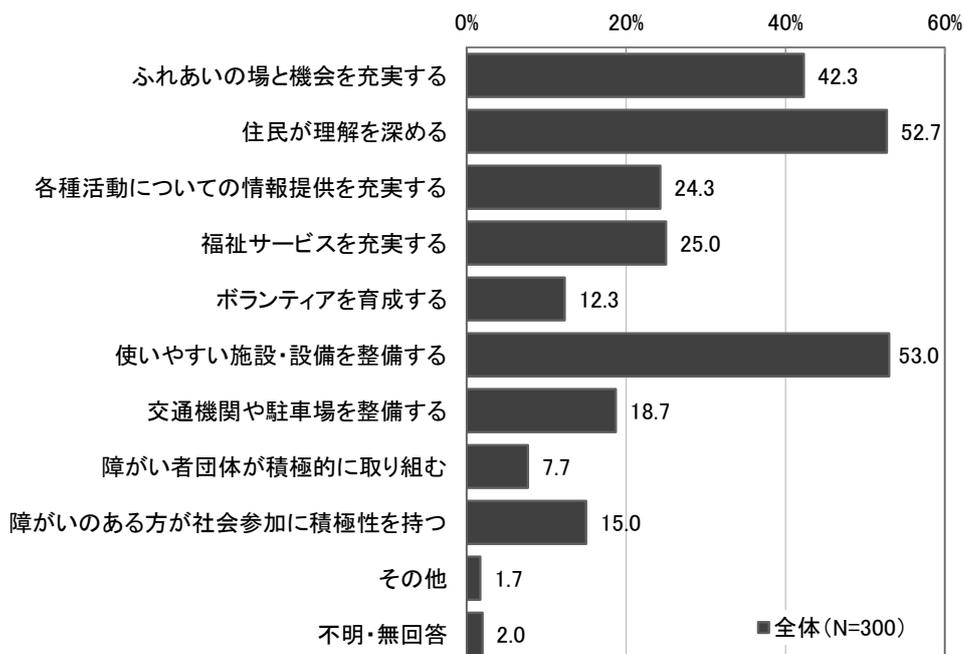
問 20 障がいのある方の社会参加について、理解が深まっていると思いますか。 (1つに○)

障がいのある方の社会参加について、理解が深まっていると思うかについて、全体で「思う」が16.3%、「思わない」が34.3%、「わからない」が47.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、「思う」が8.9ポイント高くなっています。



問 21 障がいのある方が地域や社会へ積極的に参加するために、どのような条件が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

障がいのある方が地域や社会へ積極的に参加するために、どのような条件が必要かについて、「使いやすい施設・設備を整備する」が53.0%と最も高く、次いで「住民が理解を深める」が52.7%となっています。

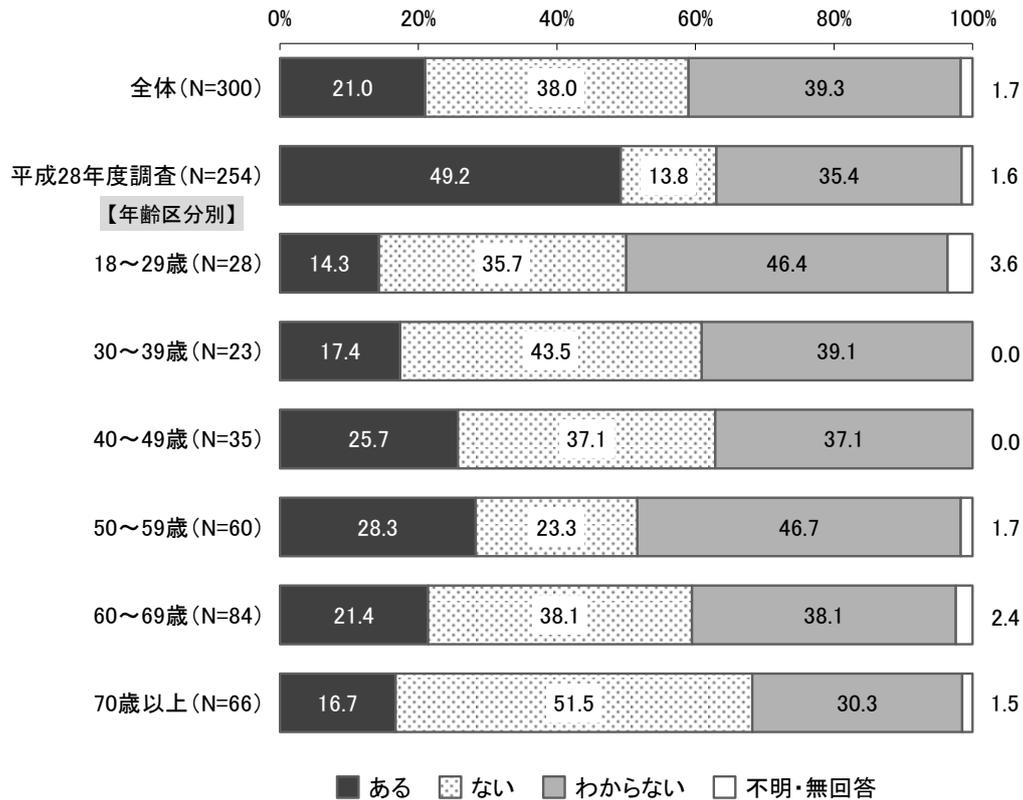


問 22 あなたの身の周りで障がいのある方への、差別や偏見を感じることはありませんか。

(1つに○)

身の周りで障がいのある方への、差別や偏見を感じるかどうかについて、全体で「ある」が21.0%、「ない」が38.0%、「わからない」が39.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、「ある」が28.2ポイント低くなっています。

年齢区分別にみると、40～49歳、50～59歳で「ある」がそれぞれ25.7%、28.3%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。

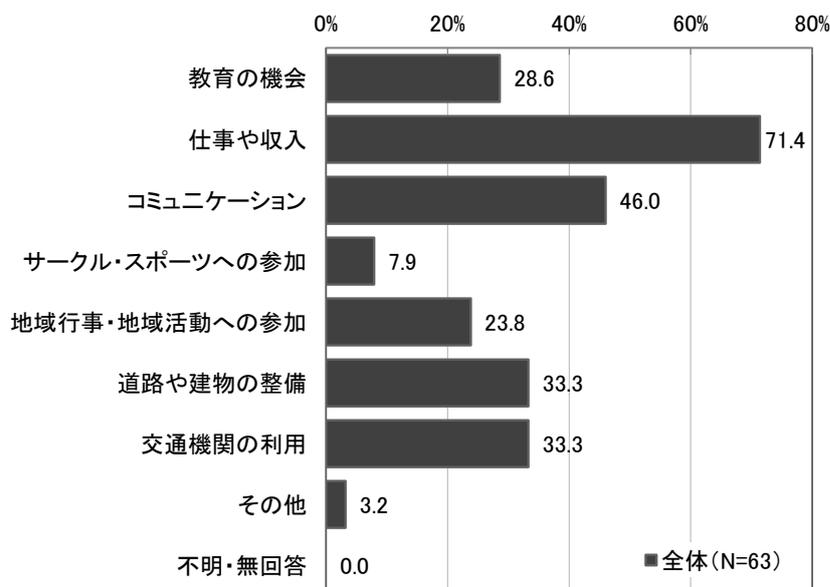


問 22 で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

問 23 何に関してそれを感じますか。(あてはまるものすべてに○)

何に関して差別や偏見を感じるかについて、「仕事や収入」が 71.4%と最も高く、次いで「コミュニケーション」が 46.0%となっています。

年齢区分別にみると、50～59 歳で「教育の機会」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

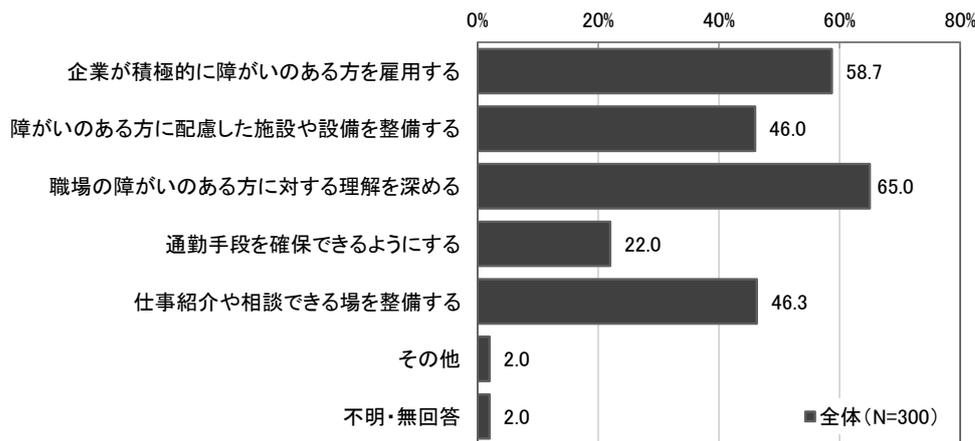
(単位：%)

区分		N=	教育の機会	仕事や収入	コミュニケーション	サークル・スポーツへの参加	地域行事・地域活動への参加	道路や建物の整備	交通機関の利用	その他	不明・無回答
年齢区分別	18～29 歳	4	50.0	75.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	30～39 歳	4	50.0	100.0	25.0	25.0	50.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	40～49 歳	9	44.4	66.7	55.6	22.2	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0
	50～59 歳	17	41.2	76.5	41.2	5.9	11.8	17.6	23.5	0.0	0.0
	60～69 歳	18	11.1	66.7	44.4	0.0	44.4	33.3	44.4	5.6	0.0
	70 歳以上	11	9.1	63.6	54.5	0.0	18.2	45.5	27.3	0.0	0.0

4 障がいのある方の就労・教育について、おうかがいします。

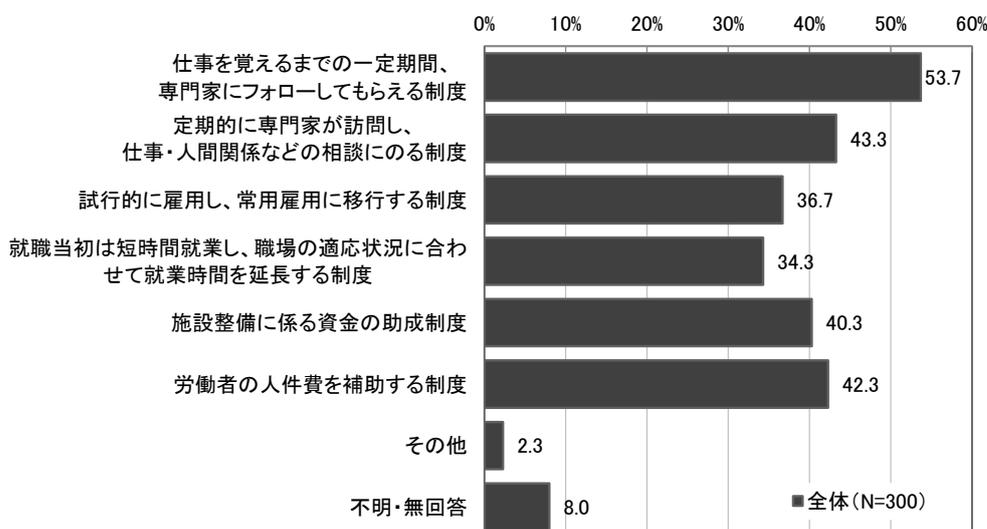
問 24 障がいのある方が働くためには、どのような条件が必要だと思いますか。 (主なもの3つまでに○)

障がいのある方が働くためには、どのような条件が必要かについて、「職場の障がいのある方に対する理解を深める」が65.0%と最も高く、次いで「企業が積極的に障がいのある方を雇用する」が58.7%となっています。



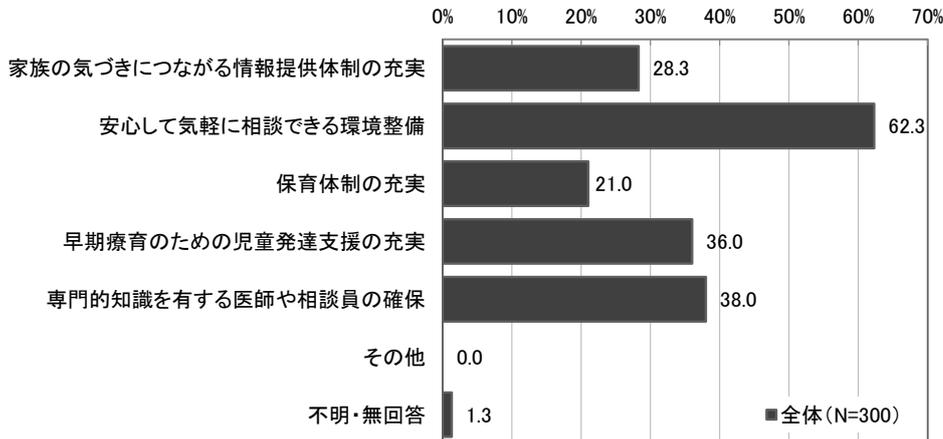
問 25 事業主の方におうかがいします。(そうでない方は、自分が事業主の立場にあると仮定してお答えください)どのような制度があれば、障がいのある方を雇用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

どのような制度があれば、障がいのある方を雇用したいかについて、「仕事を覚えるまでの一定期間、専門家にフォローしてもらえる制度」が53.7%と最も高く、次いで「定期的に専門家が訪問し、仕事・人間関係などの相談にのる制度」が43.3%となっています。



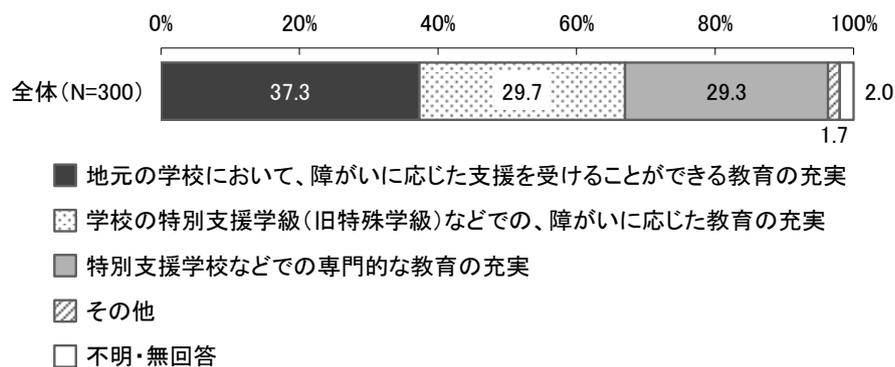
問 26 就学前の子どもで、発達の遅れや障がいのある子に対する支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの2つまでに○)

就学前の子どもで、発達の遅れや障がいのある子に対する必要な支援について、「安心して気軽に相談できる環境整備」が62.3%と最も高く、次いで「専門的知識を有する医師や相談員の確保」が38.0%となっています。



問 27 障がいのある子の就学環境として、どのようなことが必要だと思いますか。(1つに○)

障がいのある子に必要な就学環境について、「地元の学校において、障がいに応じた支援を受けることができる教育の充実」が37.3%と最も高く、次いで「学校の特別支援学級（旧特殊学級）などでの、障がいに応じた教育の充実」が29.7%となっています。



5 障がいに対する理解について、おうかがいします。

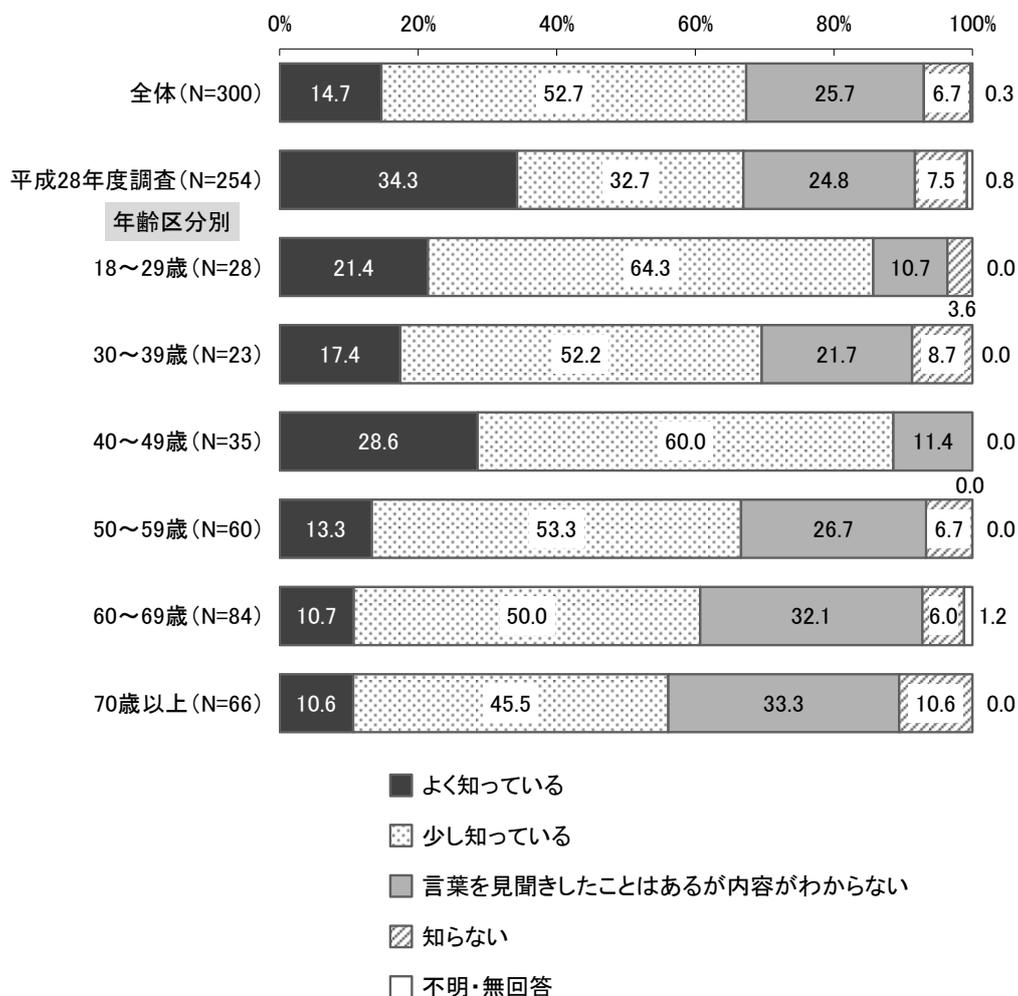
問 28 あなたは、統合失調症・気分感情障害(うつ病など)・神経症性障害(ストレス関連障がい)などの精神障がいについて知っていますか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『知っている』 …「よく知っている」と「少し知っている」の合算

統合失調症・気分感情障害(うつ病など)・神経症性障害(ストレス関連障がい)などの精神障がいを知っているかについて、全体で『知っている』が67.4%、「言葉を見聞きしたことはあるが内容がわからない」が25.7%、「知らない」が6.7%となっています。平成28年度調査と比較すると、「よく知っている」が19.6ポイント低くなっています。

年齢区別にみると、40～49歳で「よく知っている」が28.6%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



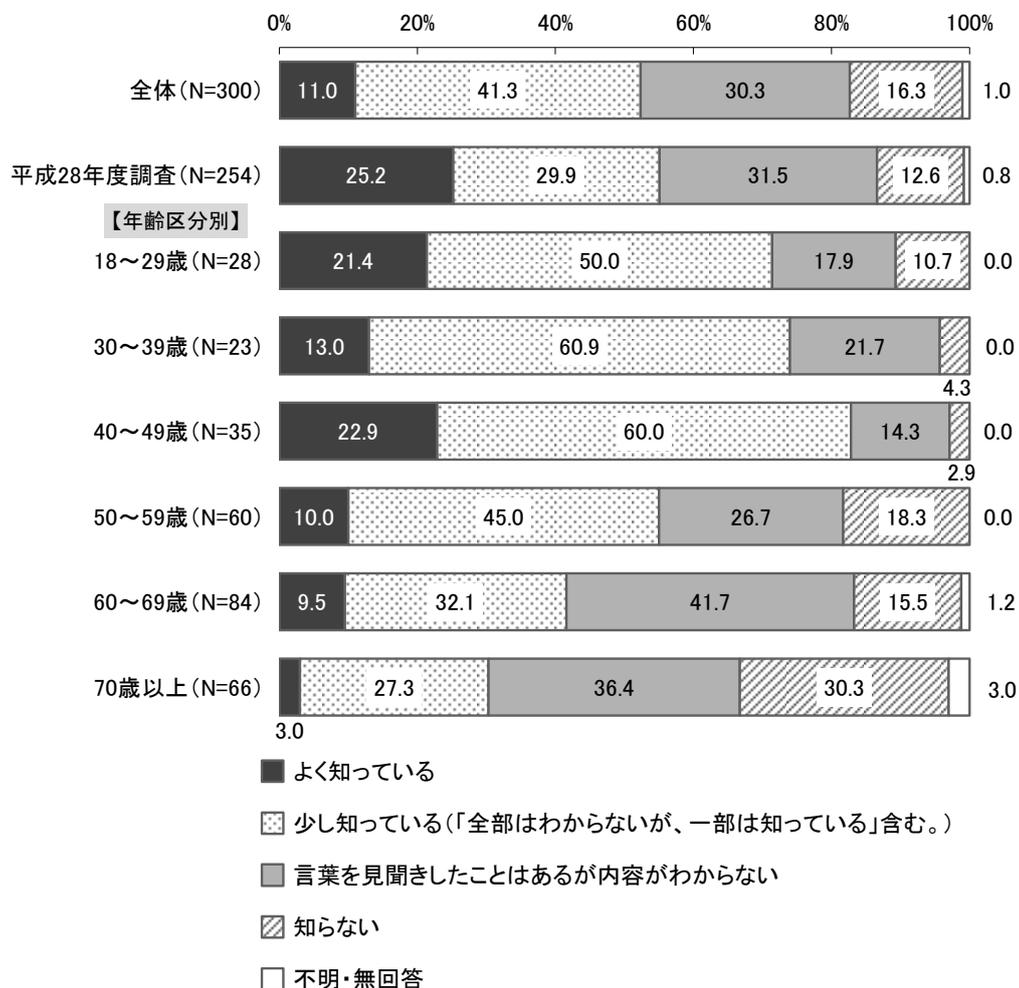
問 29 あなたは、自閉スペクトラム症(ASD＝自閉症・アスペルガー症候群・その他の広汎性発達障がい)、注意欠陥多動症(ADHD)、学習障がい(LD)などの発達障がいについて知っていますか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『知っている』 …「よく知っている」と「少し知っている(「全部はわからないが、一部は知っている」含む。)」の合算

自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症、学習障がいなどの発達障がいを知っているかについて、全体で『知っている』が 52.3%、「言葉を見聞きしたことはあるが内容がわからない」が 30.3%、「知らない」16.3%となっています。平成 28 年度調査と比較すると、「よく知っている」が 14.2 ポイント低くなっています。

年齢区分別にみると、40～49 歳で「よく知っている」が 22.9%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。

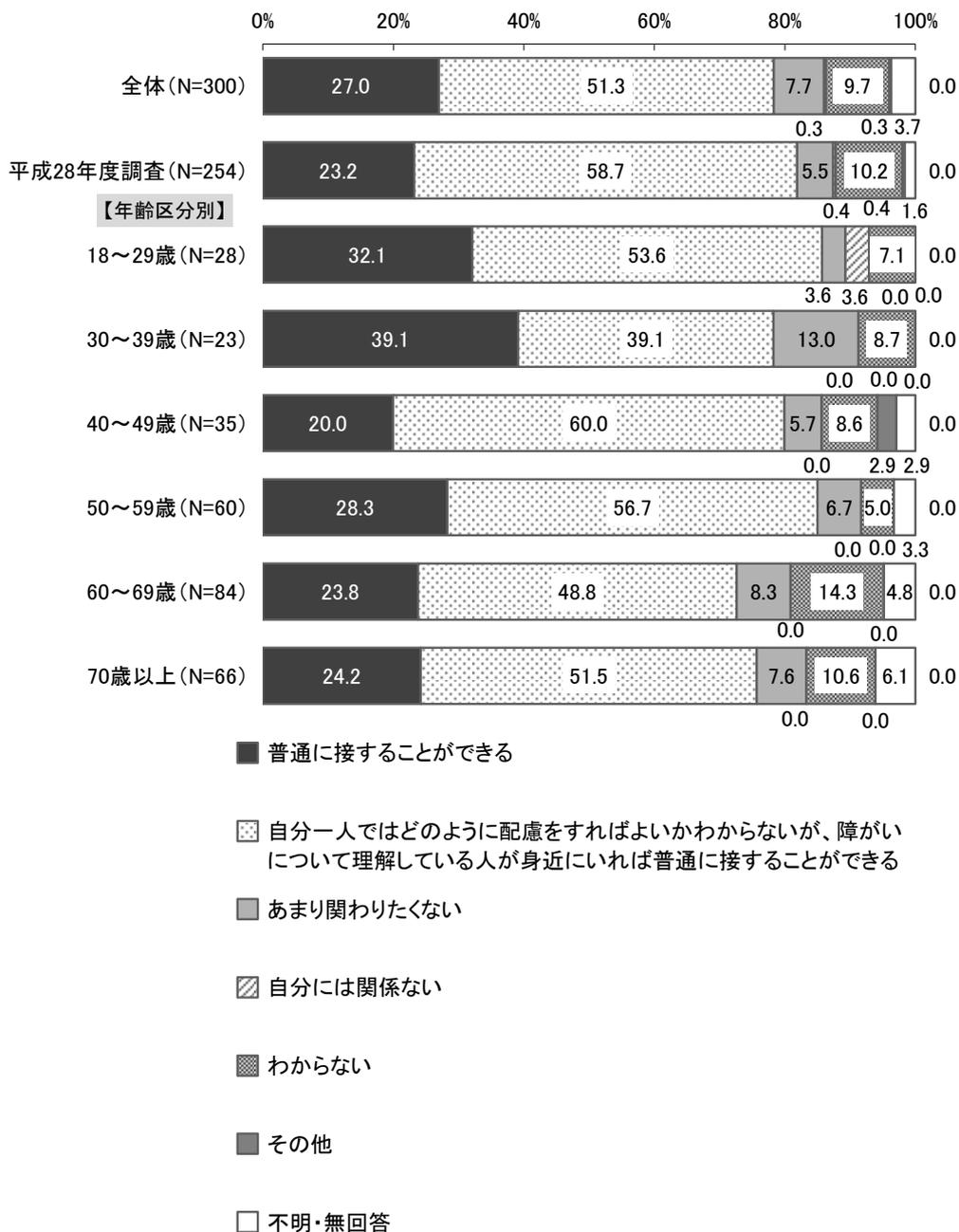


6 障がいのある方を取り巻く環境整備について、おうかがいします。

問 30 障がいのある方との接し方について、どのようにお考えですか。(1つに○)

障がいのある方との接し方について、全体で「自分一人ではどのように配慮をすればよいかわからないが、障がいについて理解している人が身近にいれば普通に接することができる」が51.3%と最も高く、次いで「普通に接することができる」が27.0%となっています。平成28年度調査と比較すると、「自分一人ではどのように配慮をすればよいかわからないが、障がいについて理解している人が身近にいれば普通に接することができる」が7.4ポイント低くなっています。

年齢区分別にみると、30～39歳で「普通に接することができる」が39.1%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



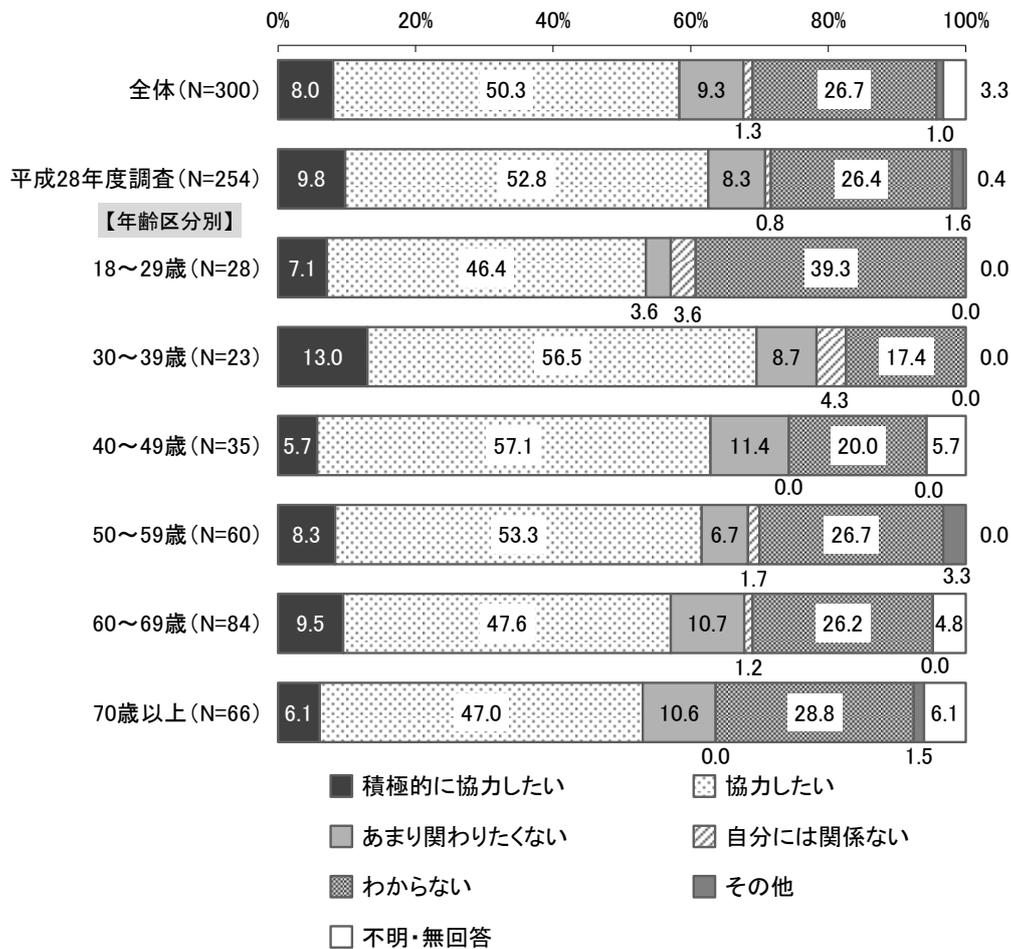
問 31 あなたは、障がいのある方が地域の中で生活・活動することについてどう思いますか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『協力したい』 …「積極的に協力したい」と「協力したい」の合算

障がいのある方が地域の中で生活・活動することについてどう思うかについて、全体で『協力したい』が58.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

年齢区別にみると、30～39歳で「積極的に協力したい」が13.0%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。

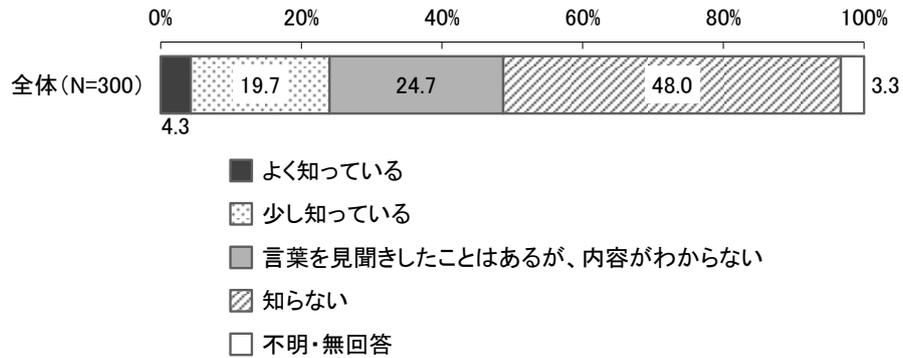


問 32 あなたは、「避難行動要支援者支援制度」についてご存じですか。(1つに○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『知っている』 …『よく知っている』と『少し知っている』の合算

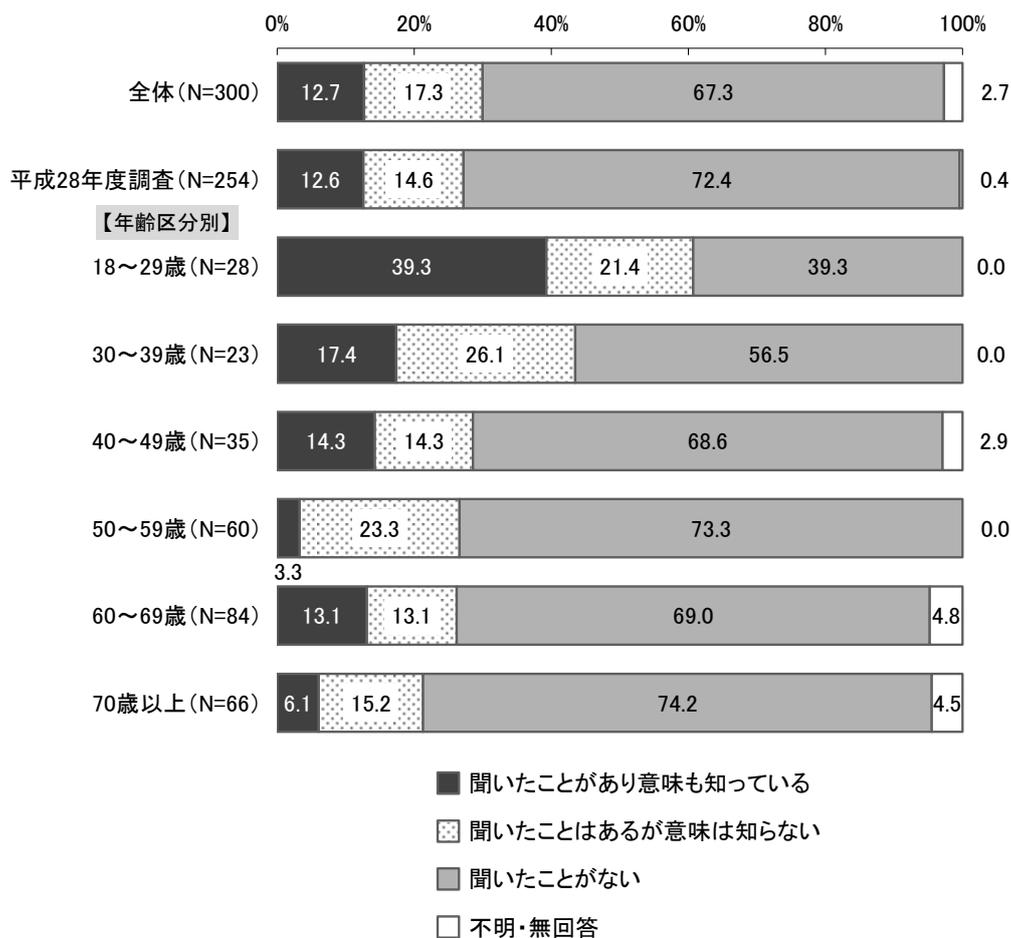
避難行動要支援者支援制度について、『知っている』が24.0%、「言葉を見聞きしたことはあるが、内容がわからない」が24.7%、「知らない」が48.0%となっています。



問 33 「ノーマライゼーション」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

ノーマライゼーションについて、全体で「聞いたことがあります意味も知っている」が12.7%、「聞いたことはあるが意味は知らない」が17.3%、「聞いたことがない」が67.3%となっています。平成28年度調査と比較すると、「聞いたことがない」が5.1ポイント低くなっています。

年齢区分別にみると、18～29歳で「聞いたことがあります意味も知っている」が39.3%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



問 34 ノーマライゼーションに賛同しますか。(1つに○)

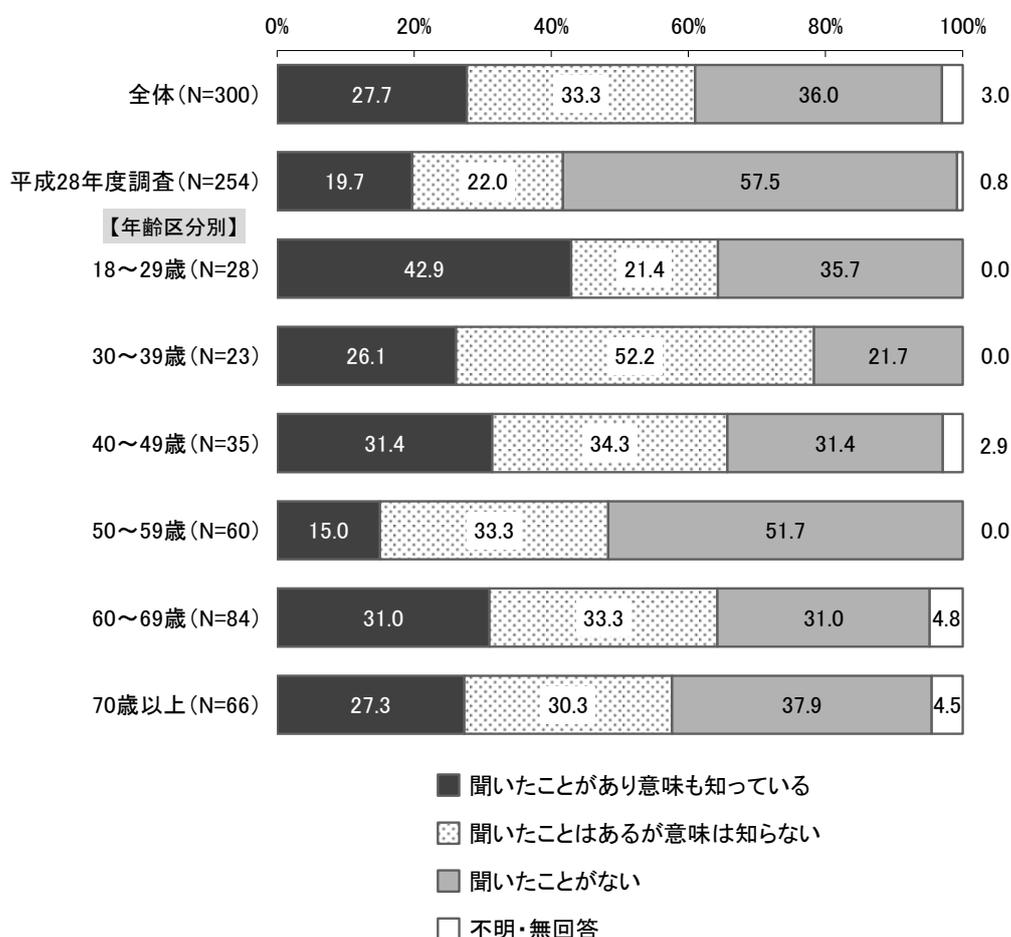
ノーマライゼーションに賛同するかについて、「賛同する」が 57.3%、「賛同しない」が 2.7%、「わからない」が 35.7%となっています。



問 35 「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

「共生社会」という言葉を聞いたことがあるかについて、全体で「聞いたことがあり意味も知っている」が 27.7%、「聞いたことはあるが意味は知らない」が 33.3%、「聞いたことがない」が 36.0%となっています。平成 28 年度調査と比較すると、「聞いたことがあり意味も知っている」が 8.0 ポイント高くなっています。

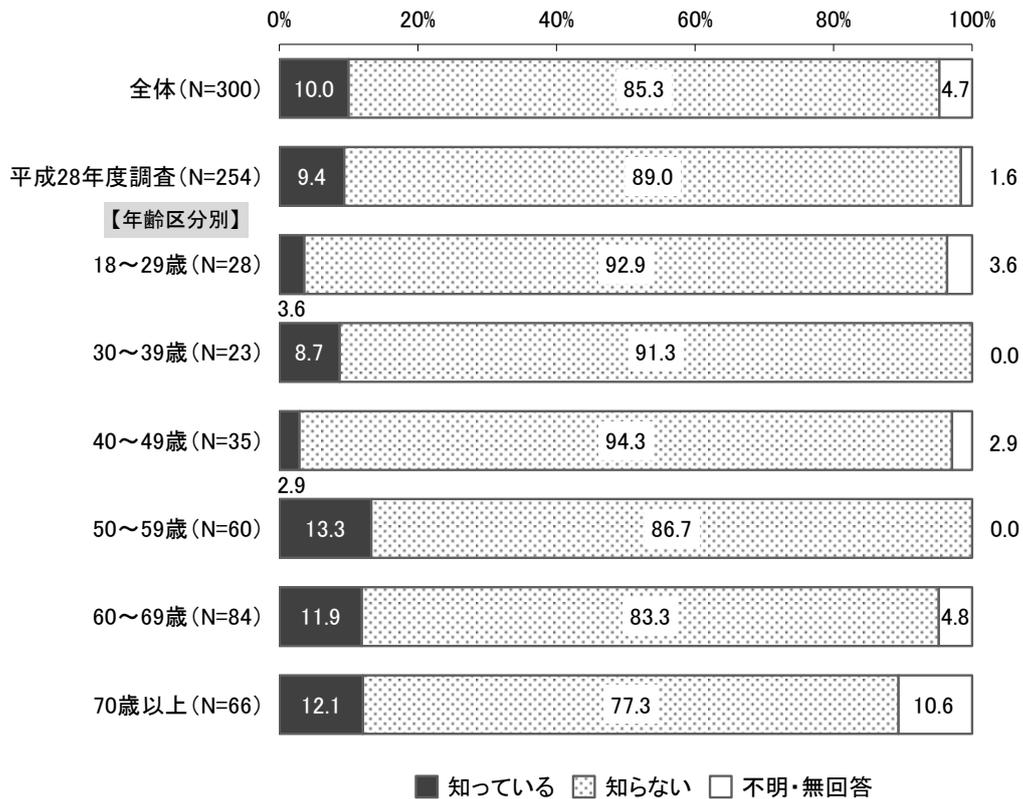
年齢区分別にみると、18～29 歳で「聞いたことがあり意味も知っている」が 42.9%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



問 36 毎年12月3日から12月9日までの1週間は「障害者週間」と定められていますが、この「障害者週間」をご存じですか。(1つに○)

障害者週間について、全体で「知っている」が 10.0%、「知らない」が 85.3%となっています。平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

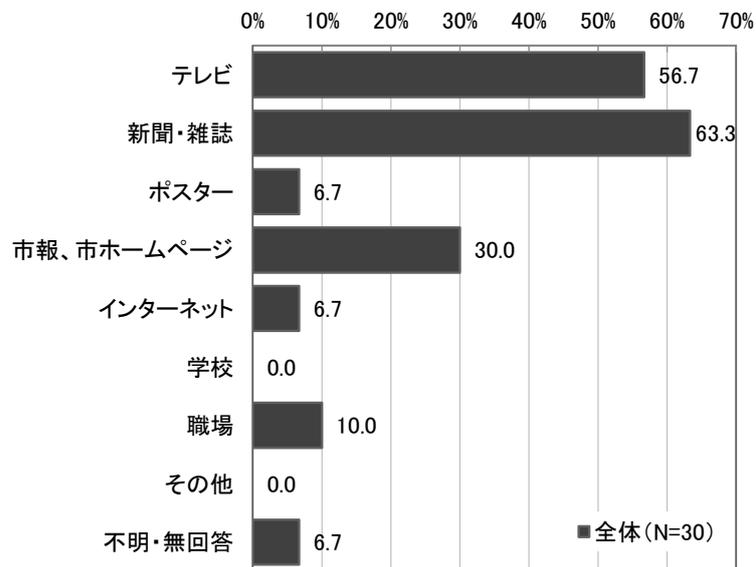
年齢区分別にみると、18～29 歳、40～49 歳で「知っている」が 3.0%前後と、他の年齢区分と比べて低くなっています。



問 36 で「1. 知っている」と答えた方におうかがいします。

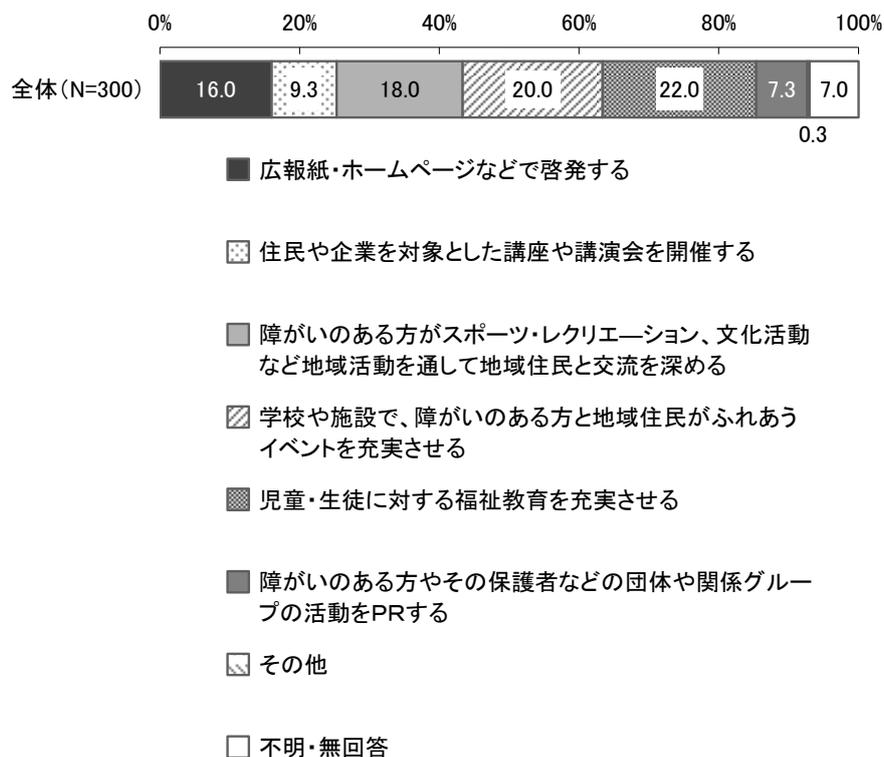
問 37 どこでそれを知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

どこで障害者週間を知ったかについて、「新聞・雑誌」が 63.3%と最も高く、次いで「テレビ」が 56.7%となっています。



問 38 障がいのある方のことを正しく理解してもらうために、啓発活動の方法として、何が最も必要だと思いますか。(1つに○)

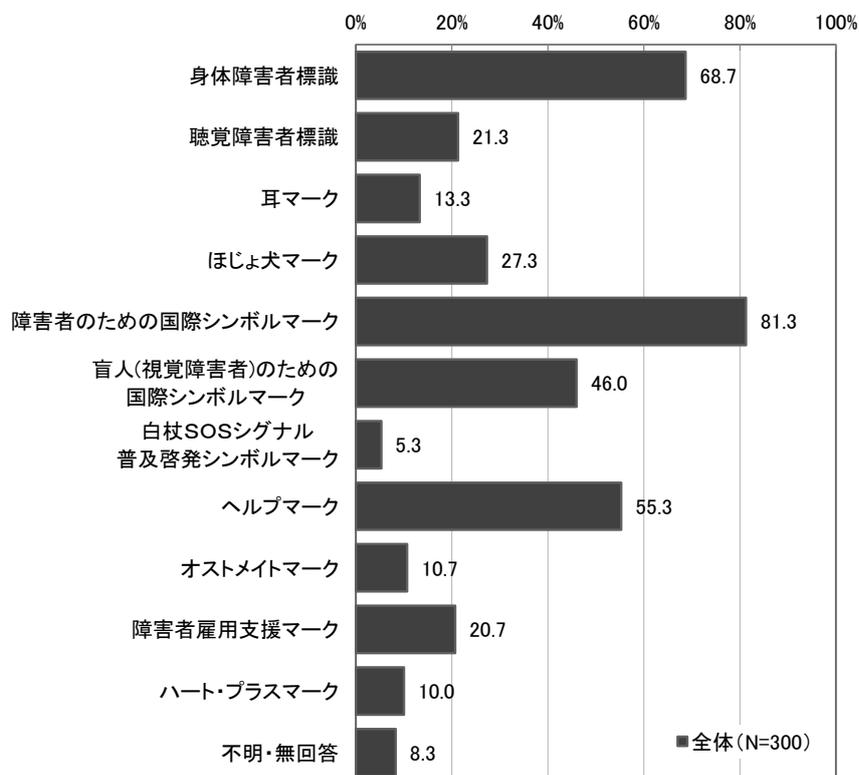
障がいのある方のことを正しく理解してもらうための啓発活動の方法について、「児童・生徒に対する福祉教育を充実させる」が22.0%と最も高く、次いで「学校や施設で、障がいのある方と地域住民がふれあうイベントを充実させる」が20.0%となっています。



問 39 次の障がい者マークをご存じですか。(知っているものの名前を○で囲む)

知っている障がい者マークについて、「障害者のための国際シンボルマーク」が 81.3%と最も高く、次いで「身体障害者標識」が 68.7%となっています。

年齢区分別にみると、50～59 歳で「身体障害者標識」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

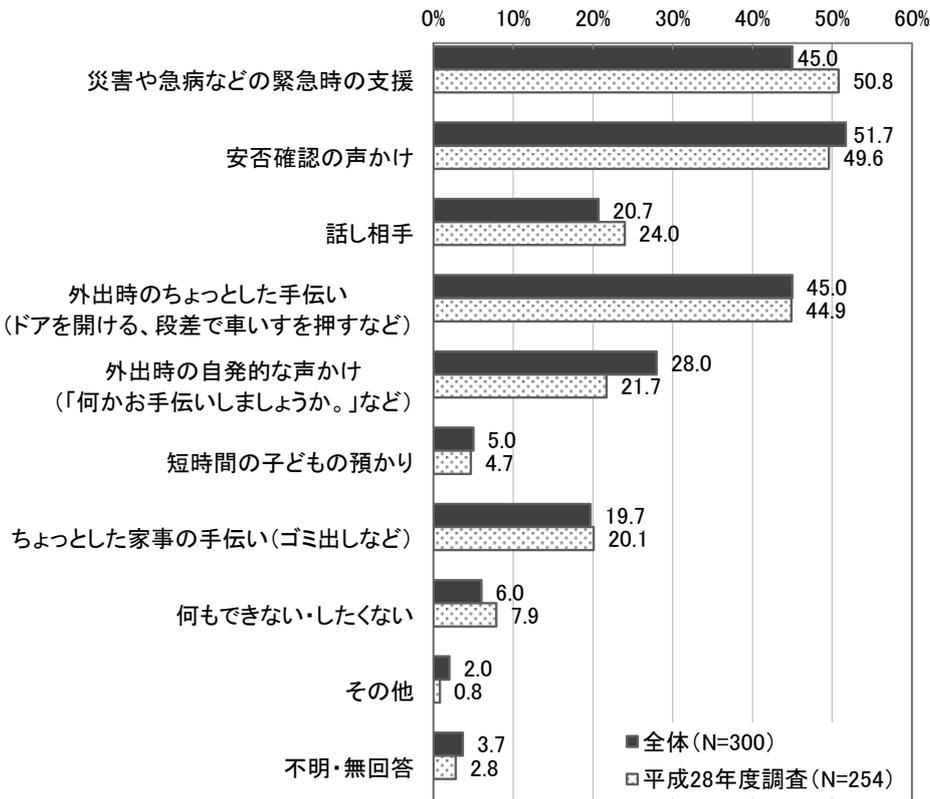
区分		N=	身体障害者標識	聴覚障害者標識	耳マーク	ほしよ犬マーク	障害者のための国際シンボルマーク	盲人(視覚障害者)のための国際シンボルマーク	白杖SOSシグナル普及啓発シンボルマーク	ヘルプマーク	オストメイトマーク
年齢区分別	18～29歳	28	75.0	32.1	17.9	64.3	85.7	57.1	7.1	60.7	10.7
	30～39歳	23	82.6	43.5	4.3	30.4	87.0	30.4	0.0	43.5	17.4
	40～49歳	35	74.3	40.0	25.7	45.7	80.0	54.3	8.6	65.7	20.0
	50～59歳	60	75.0	16.7	11.7	20.0	81.7	35.0	0.0	65.0	11.7
	60～69歳	84	66.7	14.3	13.1	22.6	83.3	45.2	4.8	54.8	7.1
	70歳以上	66	56.1	12.1	9.1	12.1	77.3	54.5	10.6	42.4	6.1

区分		N=	障害者雇用支援マーク	ハート・プラスマーク	不明・無回答
年齢区分別	18～29歳	28	39.3	21.4	7.1
	30～39歳	23	8.7	13.0	13.0
	40～49歳	35	5.7	5.7	8.6
	50～59歳	60	21.7	8.3	6.7
	60～69歳	84	27.4	10.7	6.0
	70歳以上	66	12.1	6.1	12.1

問 40 あなたがお住まいの地域で、障がいのある方に対してできることは何ですか。

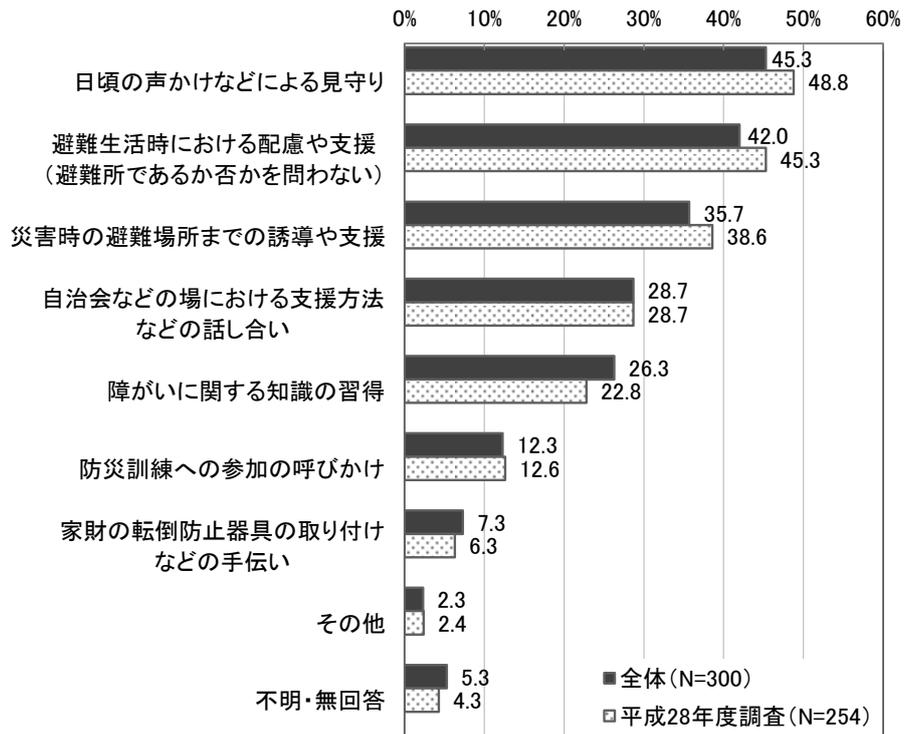
(○はいくつでも)

お住まいの地域で、障がいのある方に対してできることについて、全体で「安否確認の声かけ」が51.7%と最も高く、次いで「災害や急病などの緊急時の支援」「外出時のちょっとした手伝い（ドアを開ける、段差で車いすを押すなど）」がそれぞれ45.0%となっています。平成28年度調査と比較すると、「外出時の自発的な声かけ（「何かお手伝いしましょうか。」など）」が6.3ポイント高くなっています。



問 41 あなたは、災害発生時に(備えも含めて)障がいのある方のためにどのような支援ができますか。(〇はいくつでも)

災害発生時に（備えも含めて）障がいのある方のためにどのような支援ができるかについて、全体で「日頃の声かけなどによる見守り」が45.3%と最も高く、次いで「避難生活時における配慮や支援（避難所であるか否かを問わない）」が42.0%となっています。平成28年度調査と比較すると、「障がいに関する知識の習得」が3.5ポイント高くなっています。



問 42 障がいのある方にとって、海津市は暮らしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

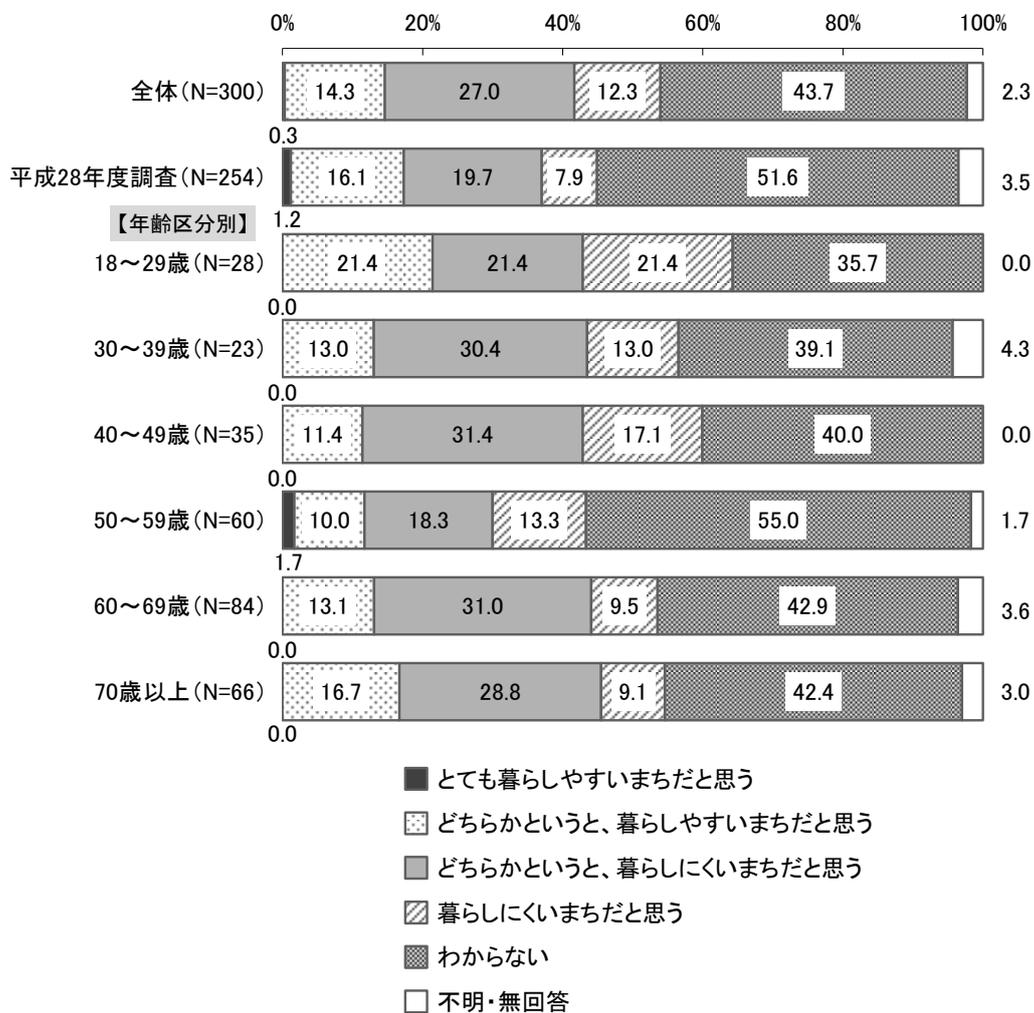
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『暮らしやすい』 …「とても暮らしやすいまちだと思う」と「どちらかという、暮らしやすいまちだと思う」の合算

『暮らしにくい』 …「暮らしにくいまちだと思う」と「どちらかという、暮らしにくいまちだと思う」の合算

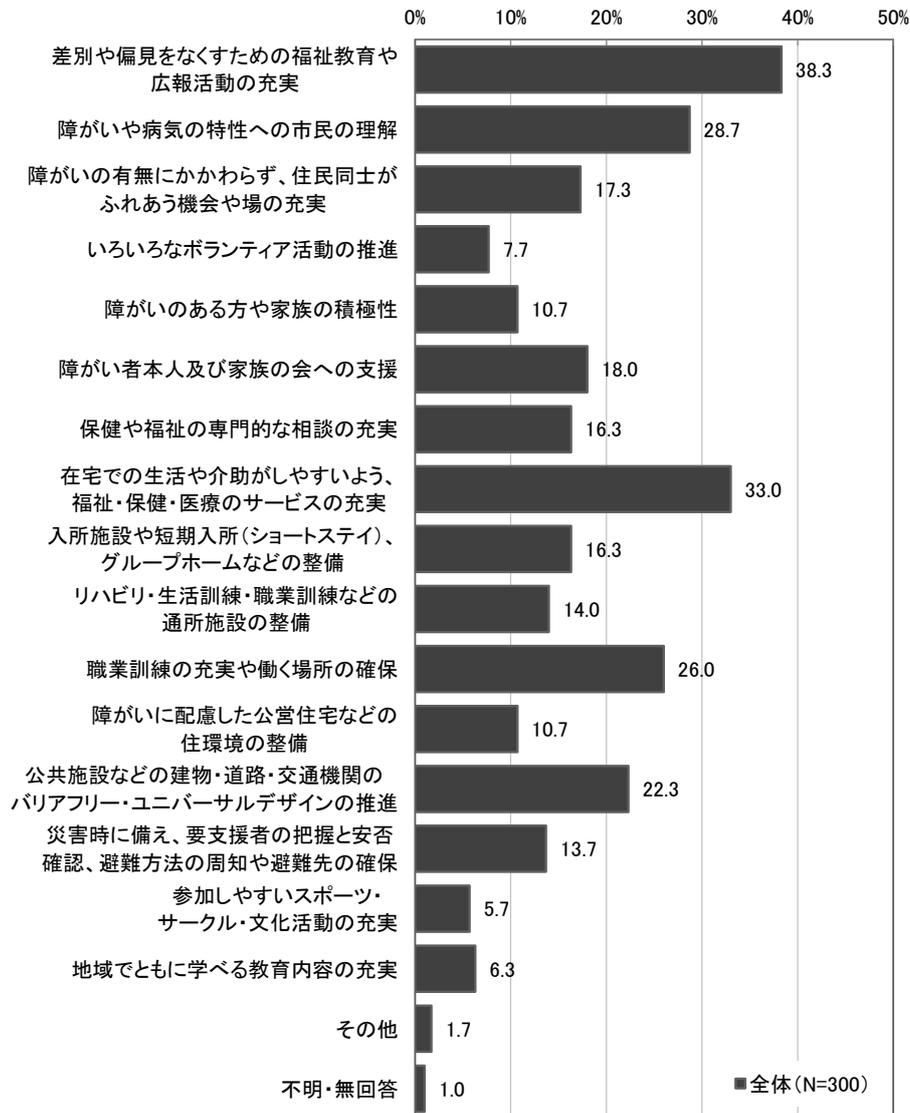
障がいのある方にとって、海津市は暮らしやすいまちだと思うかについて、全体で『暮らしやすい』が14.6%、『暮らしにくい』が39.3%、「わからない」が43.7%となっています。平成28年度調査と比較すると、『暮らしにくい』が11.7ポイント高くなっています。

年齢区分別にみると、18～29歳で『暮らしやすい』が21.4%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。



問 43 障がいのある方にとって暮らしやすいまちをつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

障がいのある方にとって暮らしやすいまちをつくるために必要なことについて、「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」が38.3%と最も高く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう、福祉・保健・医療のサービスの充実」が33.0%となっています。



海津市
障がい者計画策定のためのアンケート調査
【調査結果報告書】

発行：海津市
編集：海津市 健康福祉部 社会福祉課障害福祉係
住所：〒503-0695
岐阜県海津市海津町高須 515 番地
電話 0584-53-1139
FAX 0584-53-1569
発行年月：令和3年12月
